ありて、島中を一周す、閑雅と便利と兩ながら兼ね備はる、これをわが邦の便利なれば、必ず俗了するの比にあらざるは論無きなり。

南獨ミュンヘン

維納より再び獨逸國に向ひ、二百九十五哩にしてバヴァリア國の首都ミュンヘンに到る。人口三十五萬餘、實に獨逸聯邦中、第三位の大都會なりとす。市中を流るゝはイザール川にして、重なる通路にはルード井ヒ、マキシミリアン、リンドヴールム等、目抜の場所はマックスヨセフ、カール、マキシミリアン等なり。抑此市たる、古は獅子王ヘンリー、サキソニーバヴァリ公、ルイ王等の力に由りて築え、千六百三十二年アドルフスの爲に、千七百四十一年墺軍の爲に、千八百年佛軍の爲に奪はれたり。而して近世の繁榮はカールテオドール王（千七百七十七年）マキシミリアン一世（千七百九十九年）ルイ王（千八百六十八十年死）等の力に由る。

マックスヨセフプラーツは王宮、帝國劇場、郵便局等の所在地にして、中央にはマキシミリアン第一世の紀念銅像あり。ブルデレンハルレとは將軍廓の義にして王宮とテアチン教會との間に在り。千八百四十一年ガルテナーの設計したる建築にて、内にはチルリー、ウエルデ等名將の肖像あり。高各十一呎

カロリチンプラーツにはルード井ヒ王が殉國の士の爲に建設せられたる方尖紀念碑あり。銘に曰はく「露西亞戰爭のために戰死したる三萬餘人のために、バヴァリア王ルード井ヒ一世之を建つ。千八百三十三年十月十八日落成。彼等は國難に死したる者なり」と。

マリエンプラーツにはマリア塔なるものあり、是れマキシミリアン一世が千六百二十年、ホワトトマウンテーンにてバラチチートのフレデリックと戰うて、勝利合して、傘破翁を此の地に破り、佛國の運命を傾けたることあり。佛墺露の三帝親しく會戰せし處なり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

メクレンブルヒ、シユウエリンは、獨逸北部の海上國にして、バルチック海に濱す。

首府をモユウエリンといふ。人口三萬三千六百四十四。

＊　＊　＊　＊　＊

ヘッスは、獨逸の西部に在り。マイン河の兩岸に跨りて、ライン河に接す。

首府をダルムスタットといふ。人口五萬六千五百零三。

第五節　丁抹、瑞典、那威

（甲）丁抹

バルチック海口に一小國あり。之を丁抹と名く。丁抹は、ジユトランドと稱する一箇の半島と數多の島嶼より成れる立憲主國にして、面積人口は左の如し。

本國　面積　一萬五千二百八十九方哩
　　人口　二百十八萬五千三百三十五人

屬島　面積　三萬九千七百五十六方哩
　　人口　七萬零九百二十七人

全國　面積　五萬五千零四十五方哩
　　人口　二百二十五萬六千二百六十二人

全國土地卑濕にして沼澤多く、東邊には、堤防を築きて、海水の浪溢を防ぐ。國民は、重もに牧畜を業とし、畜産意外に多く、又農耕漁業に從事するものあり。輸出品は、家畜、牛酪、乾酪、穀類等なり。

首府をコッペンハーゲンといふ。人口三十七萬五千二百五十一。ジーランド島に在り。

ジーランドは、島嶼中の最も大なるものにして、スレースウ井ヒの一部たり。（スレースウ井ヒは、奢墺兩國の關係を記せる部に明かなり。）また屬地には、グリーンランド。氷洲、及び西印度諸島の一部あり。グリーンランド、及び氷洲は北極に近き寒帶地方に存するものなり。

（乙）瑞典、那威

歐羅巴の西北に位する一大半島あり。之をスカンデナヴ井ア半島といふ。瑞典、及び那威は、このスカンデナヴ井アの二小國にして、

を得たる紀念なり。

プロメナーデンプラーツには、マックスエヤ、ニュエル法理學者クライトマイエル、史家エステンリーデル、作曲家グルック、オルランド等古名家の銅像併立す。

ユンフユルスタットプラーツはルード井ヒ通路の北部にして泉水二あり。此通路はミュンヘン府中、最も壯麗なる者にして、其右側には軍務大臣官房、帝國圖書館、ルード井ヒ教會等、其左側にはマックス公宮殿、處女學校、眼科病院、鑛山局、大學等あり。又此通路の北端には羅馬のコンスタンチンアーチを模したる凱旋門あり。其上には四頭の獅子戎車を曳く彫刻物あり。

マキシミリアン通路は、マックヨセフ街より、マキシミリアン橋を通ずる大市街にして、博物館其間に在り。又其一端には市民の建設したる（千八百七十五年）マキシミリアン二世の銅像あり。像の高十六呎半、盛の高二十呎なり。

共に一王の統御の下に在り。然れとも政府と憲法とは、各自に之を有す。兩國を合せて面積一萬五千九百九十一方哩、人口二百九十三萬四千零五十七。而して瑞典は、那威に比すれば、土地稍廣く、人口亦多し。

瑞典、那威の兩國は、遙かに北地に位するが故に、晝夜長短の差甚しく、北方北岬の邊にては、五月より七月に至るまで、二箇月の間、太陽決して沒せず。冬に至れば、二箇月の間、太陽地上に昇らずして、常に暗夜なり。只北光と稱する美しき光輝、時々北天に顯はる。この北光は、磁石學上に大關係を有するものなり。

兩國の人民は、誠實にして、百事勉勵を旨とし、其の教育は、高度に達せり。那威は、山多く、土地瘦せて耕作に適せざれども、瑞典の地は、膏腴にして、穀類、麻、馬鈴薯等を產す。左れど兩國の財源は、鐵、銅、材木、魚類に在るなり。

瑞典の首府をストックホルムといふ。人口二十五萬七千零三十七。樓閣宏壯なるも、街衢は狹し。ゴッテンブルグは、瑞典第二の都會にして、貿易製造盛なり。

クリスチアナは、那威の首府にして、ベルゲンは魚類賣買の港なり。

ロフヲデン諸島は、大口魚の漁獵夥多しく、毎年獲るところ二千萬

是より重なる教會堂を錄さむ。

フラウエン教會は千四百六十八年より同八十八年間に建立せられたり。奥行三百二十呎、間口百十六呎、三百十八呎の塔二あり。此教會の內部には千三百四十七年を以て崩じたるルード井ヒ帝の墓あり長さ十八呎、幅十二呎、高十四呎にして青銅と大理石とを用ふ。此他アルベルト公五世、井ルヘルム公五世等の肖像あり。

ミケーリス教會は千五百九十七年ジュスイト教の爲に建てられたる教會にして、長三百十二呎、幅百二十四呎なれど、高塔なし、堂內のロイヒテンベルヒ公オイゲチの墓は大理石を以て造られ、最も壯嚴なり。此他柩には當寺院建立者井ルヘルム五世、選擧侯マキシミリアン一世等のあり。

テアチチル教會は千六百七十五年の選擧侯フエルヂナンドが奥方の誓願にて建てられたる伊太利式の建築なり。高塔の下にはフエルヂナンドマリー以下マキシミ

尾の多さに及べり。肝油の製造地なり。凡て大口魚、鯡、鰕の類は大西洋の海岸に群るが故に、那威國にては、二萬人以上の漁夫その漁獵に從事し、收益少ならず。

瑞典には、十六世紀の比、ガスタブス、アドルフスと呼べる英主の出づるあり。殊にチャールス十二世の如きは、露のピートル大帝と時を同ふして蓋世の豪傑なりしが、今や土地が日沒の處に位すると同じく、國勢も亦日沒の衰勢に陷りて、復た昔日の如きこと能はず。轍もすれば、驚旗の蹂躪する所と爲らんとす。豈惘むべきの至りにあらずや。四五年前、同國一族の令嬢が我が國に來りて、辨舌を振ひ、援を求めんとしたるは、讀者の能く知る所なるべし。

第六節　瑞西

スヰツツルランド瑞西は、北は獨逸に界し、東は墺地利に隣り、南は伊太利に接し、西は佛蘭西に連る。面積一萬五千九百九十一方哩、人口二百九十三萬四千零五十七。二十二箇の小國の同盟より成れる國にして、政體は共和政治なり。住民の大半は、獨逸語を用ゐ、其の餘の人々は、佛蘭西語、伊太利語を用ゆ。

此の國は、四面殆んど山を以て圍まれ、全國到る處山ならざるはな

リアンヨセフ王に至るまでのバアヴリ王家の柩を納む。聖パウロ教會は第十二世紀の建築にして ミュンヘン中最古のものたり。又聖エスブリット教會は第十三世紀の建築なり。ルード井ヒ教會は千八百二十九年を以て柱石を置かれたる建築にて、堂内のコルチリウス作鮮畫「最後の裁判」は世に隱れなき繪畫なり。

以上の外にアルレルハイリーゲン寺院、ポニフエース教會、マリアヒルフ教會等あれど、孰も十九世紀初期の建築にして寶物等僅少なり。

王宮即ちレシデンツといふは古殿、新殿、客殿の三部に分る。古殿は千六百年に着手せられ、同十九年に至つて落成せり。其内部は亦數多の室に區分せらる。殊に名高きは寢室にして、其窓懸は八千磅許の黄金を用ゐたり。鏡の間と稱せらるゝは金銀の花瓶を列べ、綠の間といふは和蘭、伊太利の名畫を掲ぐ。寶藏には金冠寶玉其他諸種の什器を納む。殊に名高きは青色金剛石、黑白珊瑚、ハインリヒ二世及其皇后の冠等なり。又禮拜堂には蘇國女王メリーが所持せる小祭壇をはじめミケランヂエロ作蠟の浮彫耶蘇の磔刑等あり。古殿は日曜日を以て拜觀を許さる。

新殿は千八百三十五年を以て落成せり。宮殿内の珍寶はシュノール体鮮畫是なり客殿とは其名の如く儀典祝宴等を開く宮殿にして多くの室中、殊に名高きを擧ぐれば、カール大王の間には大王の著明なる事業を十二の大繪畫に現して懸け、スローンの間には、コリンタ式十二の柱を立て、其間には井ッテルバッハ家王公の肖像を置く。

井テッルバッハ宮殿は千八百四十三年の建築にして、英吉利中古の儀式となれり。故王ルード井ッヒの宮殿なりき。

帝國圖書館はルードヒ通路にありて、ビザンチンフロレンス式の建築なり。其外

く、アルプス山の如きは、四時白雪を戴けり。諸山の間に湖水瀑布多く、景色もつとも美にして、夏日涼を納るゝに適するが故に、他國より來遊する者毎年數百萬人ありといふ。

國民の一半は、牧畜を業とし、家畜、牛酪、乾酪等を輸出す。他の一半は、製造を業とし、時計、寶石、絹類、器具類、羊毛品、麥藁細工等の製造盛んなり。外國貿易は、重もに佛、獨、伊の三國と之を營む。

ゼチヴアは、全國第一の都會にして、人口五萬。時計、及び樂器の製造を以て知らる。此の地にゼチヴア湖あり。風景畫くが如し。ベールは、絹紐の製造盛にして、其の製造所は、宇宙もつとも大なり。

ツーリッヒは、絹類木綿類の製造地にして、學校の數多し。首府をベルンと名く。人口僅かに三萬。

此の國は、もと埃地利の旗下に屬し、頗る苛政の爲めに惱まされしが、ウ井リアム、テルなる人出でゝ、死を以て此の苛政に抵敵し、遂に能く獨立共和國の基を開けり。左にその概畧を述べん。

ウ井リアム、テル (William Tell) は、一千二百年の末葉（我が保元瑞西平治の頃）ルーセルン近傍の一小村バーグレンに生る。韜鈌の時より才膽凡ならず。殊に射術に長じ、百發百中す。遠近之を聞見して慫嘆せざるものなし。評して云く。「テルは神子なり、人類にあらず」と。

長ずるに及びて、剛毅果斷、最も愛國の心に富み、人に接するに慇懃懇篤を旨とし、溫厚の風を失はず。頗る人望あり。而して一棟の家屋と、數反の田園とを有し、敢て富豪を以て誇るべきにあらざるも、日常の生計稍々餘裕あり。妻を娶りて數名の子女を擧け、家族圓欒、安樂幸福に世を渡れり。

是の時に當りて、獨逸の虐主アルベルト帝 (Albert) は、瑞西人民の自由を奪ひて、壓制政治の下に屈服せしむるに意あり。乃ち先づヘルマン、ゲスレルなる者を太守に任じて同地に派遣し、數百の兵士を伴隨せしめたりしが、此のゲスレルといへるは、極めて殘忍苛酷の惡漢にして、些末の失錯を口實として不辜を獄に繫ぎ若くは過分の罰金を課し、又良民の膏血を絞りて自家の囊中に盈て、兵士の亂暴を默許して良民を惱ませしかば、自由獨立の人民何ぞ之に甘んずべけん。二人相會すれば、談必らず小壓制者輩の無禮に及ばざるはなく、天を仰で大息するのみ。ウ井リアム、テルは同胞の痛苦を體認して切齒扼腕に堪えず。竊かにアーノルド、メルクタル（一二六〇年、乃至七〇年の頃生れ、一三〇七年（我が德治二年）死す。瑞西の愛國者なり。）等と謀る所あり。然れども、當時猶幾分の望を獨逸政府に屬したれば、政

階段の傍には、ホーマー、アリストートル、ピップクラーテス、スシヂデスの四肖像を飾り、内部には建設者アルベルト五世、新館建設者ルード井ヒの肖像を置く。内部には七十七の室ありて、藏書數百萬部餘、古文書三萬餘通あり。

美術品陳列館は、毎年夏期に開かるゝ展覽會の會場なり。千八百四十五年の建築にて古代希臘式をとり、内部にはハヴアリアの近世美術發達に關する美術寫意像を置く。即ち中央をハヴアリア人とし、其右手には建築家、歴史畫家、社會畫家、窯業家を置く、其左側には彫刻家、彫金家、鑄造家を置く

大學校は中世伊太利式にして千八百三十五年に着手せられ同四十年に落成せり。現時の學生數二千五百餘人あり。大講堂には、創立者ルード井ヒをはじめ、當大學校の隆盛を計りたる國王富人ルード井ヒ、マキシミリアンヨセフ、等の肖像あり。ブリーンヂル街の美術品陳列所に對して、大彫刻館あり。是は古今の彫刻を集めたる所にして千八百十六年ルード井ヒ王の世に着手し、千八百三十年に落成せり。中央より光線を取り窓を設けず、之に換ふるに壁龕を以てす。正方形の建築にして、部室はアッシリア、埃及、古代希臘、エーヂチート、アポルロー、バッカス（希臘フヒヂアス時代）ニ井べの兒、諸神、トロイ、勇士、羅馬、着色彫刻、近世彫刻の十三に區分せらる。

シュワンターレル美術館は、シュワンターレルの遺品を陳列したる所にて、原型二百餘あり。皆此彫刻家の手に成りし者なり。

繪畫館は千八百三十六年に落成したる羅馬式の建築なり。長五百六十八呎、幅百呎あり。尚此傍に新繪畫館あり。

ミユンヘン美術館はマキシミリアン一世帝の建設したる建築にして、繪畫千四百餘あり。是を十二大部二十四小部となす納むる所は古今名畫をはじめ、浮彫、鍛

府が早晩此の汚吏を貶黜するの期あるべしと信じ、竊かにその期を待ちたりき。

然るに、グスレルの殘忍と兵士の亂暴とは、日を逐ふて烈しきを加ふるに、獨逸政府は毫も之を咎めず。一日ゲスレルは、スースフアツケルと呼べる愛國者の新邸を見て罵りて曰く。「咄。汝土百姓よ。汝が斯る宏壯の家に住するは、予の許し能はざる所なり」と。その人民を土芥視すること斯の如し。其の後アーノルド、メルクタルが町に出でゝ耕せし時、一兵士來りて、若干の耕牛を見て、忽ち刼奪の念を生じ、メルクタルに向て、我れに與へよと迫り、且つ冷笑して曰く。「汝奴羅は、みづから耕耘せば足れり。豈牛力を假るを要せんや」と。メルクタル怒りて、其の要求に應せず。散々に打擲して追ひ返へせり。是に於て、メルクタルの父はメルクタルが知事の怒に觸れて、禍を蒙らんことを恐れ、强て彼れをして踪跡を晦ましめたり。果せるかな、メルクタルが踪跡を晦ますや否や、數名の兵士は、グスレルの命に從ひて、來りて、メルクタルを索め、老人の實を告げざるを責めて、之を獄に下し、その兩眼を抉り去りしぞ無慘なる。

ウ井リアム、テルは、之を聞きて、慷慨みづから禁ずること能はず。以爲らく。外人の暴虐非道に抗し、我が邦の自由の爲めに果斷の策を行ふは此の瞬時に在りと。依りてメルクタル。ストーフアツケル。ファースト等三百五十名の義士と相會して義旗を擧ぐるの手段を議し、身を以て國に殉はんことを誓ひ、然る後同志糾合の爲めに袂を分ちて、各自の目指す方へと出立したり。

ゲスレル、瑞民の不滿を抱けるを探知して、竊かに疑ふ所あり。試みに一策を設けて、その異志の有無を檢せんと欲し、乃ち車馬駱繹の地を擇びて、四通八達の處に椓を建て、其の上端に墺地利家の帽を安置し、近づく者には誰彼に論なく、悉く禮拜して、忠義の意を表すべきを命じ、命に從はざる者、若くは不平の色を顯はす者は、叛逆の民として、之を罰することゝ爲し、此の命令を實行せんが爲めに、一隊の兵士を備へて監督の任を司らしめたり。

偶々ウ井リアム、テルは、その地アルトフ市に來り見て、その何なるを解せず。只椓上の美帽に向て、衆人の頓首再拜するを訝るのみ。既にして、その實を聞知し、切に我が同胞の卑屈無氣力なるに慨き、その唯々諾々として、かゝる傲慢無禮を甘受するを恥とし、自由の師の猶豫すべからざるを念ふて、覺えず抵抗の精神を面色に顯はせしかば、忽ち指揮官の咎むる所と爲り、遂に太守の

階段の傍には、ホーマー、アリストートル、ピツプクラーテス、スシヂデスの四肖像を飾り、内部には建設者アルベルト五世、新館建設者ルード井ヒの肖像を置く。内部には七十七の室ありて、藏書數百萬部餘、古文書三萬餘通あり。

美術品陳列館は、毎年夏期に開かるゝ展覽會の會場なり。千八百四十五年の建築にて古代希臘式をとり、内部にはハヴアリアの近世美術發達に關する美術寫意像を置く。即ち中央をハヴアリア人とし、其右手には建築家、歴史畫家、社會畫家、窯業家を置く、其左側には彫刻家、彫金家、鑄造家を置く

大學校は中世伊太利式にして千八百三十五年に着手せられ同四十年に落成せり。現時の學生數二千五百餘人あり。大講堂には、創立者ルード井ヒをはじめ、當大學校の隆盛を計りたる國王富人ルード井ヒ、マキシミリアンヨセフ、等の肖像あり。プリーンヲル街の美術品陳列所に對して、大彫刻館あり。是は古今の彫刻を集めたる所にして千八百十六年ルード井ヒ王の世に着手し、千八百三十年に落成せり。中央より光線を取り窓を設けず、之に換ふるに壁龕を以てす。正方形の建築にして、部室はアッシリア、埃及、古代希臘、エーヂプート、アポルロー、パッカス（希臘フヒヂアス時代）ニ井べの兒、諸神、トロイ、勇士、羅馬、着色彫刻、近世彫刻の十三に區分せらる。

シュワンターレル美術館は、シュワンターレルの遺品を陳列したる所にて、原型二百餘あり。皆此彫刻家の手に成りし者なり。

繪畫館は千八百三十六年に落成したる羅馬式の建築なり。長五百六十八呎、幅百呎あり。尚此傍に新繪畫館あり。

ミュンヘン美術館はマキシミリアン一世帝の建設したる建築にして、繪畫千四百餘あり。是を十二大部二十四小部となす納むる所は古今名畫をはじめ、浮彫、鍛

府が早晩此の汚吏を貶黜するの期あるべしと信じ、竊かにその期を待ちたりき。

然るに、グスレルの殘忍と兵士の亂暴とは、日を逐ふて烈しきを加ふるに、獨逸政府は毫も之を咎めず。一日グスレルは、スースフアツケルと呼べる愛國者の新邸を見て罵りて曰く。「嗚。汝土百姓よ。汝が斯る宏壯の家に住するは、予の許し能はざる所なり」と。その人民を土芥視すること斯の如し。其の後アーノルド、メルクタルが町に出でゝ耕せし時、一兵士來りて、若干の耕牛を見て、忽ち刼奪の念を生じ、メルクタルに向て、我れに與へよと迫り、且つ冷笑して曰く。「汝奴輩は、みづから耕耘せば足れり。豈牛力を假るを要せんや」と。メルクタル怒りて、其の要求に應せず。散々に打擲して追ひ返へせり。是に於て、メルクタルの父はメルクタルが知事の怒に觸れて、禍を蒙らんことを恐れ、強て彼れをして踪跡を晦ましめたり。果せるかな、メルクタルが踪跡を晦ますや否や、數名の兵士は、グスレルの命に從ひて、來りて、メルクタルを索め、老人の實を告げざるを責めて、之を獄に下し、その兩眼を抉り去りしぞ無慘なる。

ウ井リアム、テルは、之を聞きて、慨憤みづから禁ずること能はず。以爲らく。外人の暴虐非道に抗し、我が邦の自由の爲めに果斷の策を行ふは此の時に在りと。依りてメルクタル。ストーフアツケル。フアースト等三百五十名の義士と相會して義旗を擧ぐるの手段を議し、身を以て國に殉はんことを誓ひ、然る後同志糾合の爲めに袂を分ちて、各自の目指す方へと出立したり。

ゲスレル、瑞民の不滿を抱けるを探知して、竊かに疑ふ所あり。試みに一策を設けて、その異志の有無を撿せんと欲し、乃ち車馬駱繹の地を擇びて、四通八達の處に塚を建て、其の上端に墺地利家の帽を安置し、近づく者には誰彼に論なく、悉く禮拜して、忠義の意を表すべきを命じ、命に從はざる者、若くは不平の色を顯はす者は、叛逆の民として、之を罰することゝ爲し、此の命令を實行せんが爲めに、一隊の兵士を備へて監督の任を司らしめたり。

偶々ウ井リアム、テルは、その地アルフト市に來り見て、その何なるを解せず。只塚上の美帽に向て、衆人の頓首再拜するを訝るのみ。既にして、その實を聞知し、切に我が同胞の卑屈無氣力なるに慨き、その唯々諾々として、かゝる傲慢無禮を甘受するを恥とし、自由の師の猶豫すべからざるを念ふて、覺えず抵抗の精神を面色に顯はせしかば、忽ち指揮官の咎むる所と爲り、遂に太守の

金物、木版等にして、其有用なるとドレスデン美術館と軒輊なし。今重なる繪畫を擧れば、チヽアン作荆棘の冠、ムリリヨ作乞食、ヅルエル作使徒等なり。

ハヴアリア博物館とは、獨逸全國中、尤も肝要なる博物館にして、其建築は羅馬ケルト、古獨逸、ゴス等の樣式を混ゆ。第一號館は甲冑、樂器、陶器等を納め、第二號館には文藝復興期時代以後の美術品其他器具を陳列す。

ミユンヘンには右等の外に私有の美術陳列館甚だ多し。去れど今は之を省略す。

公園にはホフガルデン、英國公園あり。後者は長さ四哩、幅一哩の大公園にして松柏繁茂し、其間に清冷なる小河緩く流れて、イザール川に注ぐ。洵に地上の樂園なり。ルーメスハルレは牧場に臨みたる高塔にして、天氣晴朗ならばアルプス高峰の頂を瞻望し得べし。又大劇場は二千五百餘人を容るヽに足る。是れを獨逸最大の劇場とす。

ミユンヘンより六十餘哩西方に當りて、スツットガールトあり。左に記する處を見て知るべし。

スツットガールト

スツットガールトはヴルテムベルヒの首都なり。大寺院は十五世紀の建築にして紀念物多し。王宮華麗にして鮮畫の秀逸なるものあり。此市は半ば小丘を以て圍繞せられ、丘岡には諸種の田園ありて風景佳し。其博物館は一倶樂部の所有にて會員の紹介あれば一月間自由に觀覽するを得べし。又其傍にはシルベルブルヒ公園あり。スツットガールトは書籍出版業の最も盛なる地にして、年々の出版部數中々に多しといふ。哲學大家ヘーゲルは此地に生れたる人にして、今尚其跡あり。さて其附近には、夏の宮殿ローゼンタイン、ムーア式のヰルヘルマ城等あり。

前に引致せられたり。太守は、其の姓名を誰何して、ウヰリアムテルなるを知り、其何故に帽子を禮拜せざるやを詰責し、且つ嘲すに禮拜を怠る者は、叛逆に問ふて絞刑に處すべきを以てしたりしかども、テルは更に恐るヽ色なく、自由鄉の自由民は、何物の前にも俯伏すべき理由なしと對へしかば、ゲスレル大に激して、之を死刑に行ふべき旨を兵士に命じたり。

ゲスレルは、尚可及的充分にテルを窘めて然後之を殺さんと欲し、急に彼れを召還へして言へらく。「聞く汝は射術に長ずと。望むらくは、生前、予の爲めに之を示さんことを。」是に於て兵士をして、テルの長子ウヲルターを引致せしめ、テルを顧みて嘲笑しつヽ言へらく。「予は、汝の兒をして、頭に林檎を戴きて三百呎の距離に立たしむべし。汝如し能く射て林檎を貫くならば、予は汝を許さん。否らずんば、汝は死を免かれざらん」と。流石不屈不撓のテルも、此の殘忍なる命令には頗る辟易し、以爲らく。「若し毫髮を誤りて、我れみづから我が最愛の兒を射殺さば、何の顏ありてか妻を見るを得んや」と。ウヲルターを凝視して躊躇することを久し。左れどウヲルターは、賢氣にも覺悟の體を示し、父に向つて平素の絕技を顯はすべきを勸めしかば、テルも今は是れ迄なり

と、心に遺物主を祈念しつヽ、ゲスレルと其の部下の面前に於て並に其の結果如何と手に汗を握れる群集の人々の面前に於て、狙ひ濟してヒヨーと放ちたり。

然るに名手の狙擊は、寸毫を過たず。正さしく林檎を兩斷せしかば、群集の喝采一度に吶喊さ度り、中には感涙に噎ぶ者さへありたり。ゲスレルはテルの長技を頌讃し、且つ尚他に一矢を携ふるの理由を糺せしに、テルは沸然として對ふらく。「予若し過つて豚兒を射殺さば、閣下の一命を申し受けんが爲めなり」と。ゲスレルは之を聞きて、大に驚き、且つ怒り、テルを目するに叛逆者を以てし、群衆の不服を唱ふるにも拘はらず、術兵に命じて、直ちに牢獄に護送せしめ、猶日の暮るヽを待ち、深夜に乘じて、ルーセルン湖の對岸なる絕壁上の獄内に監禁することに決したり。是れ瑞民が彼れの德を慕ひて、彼れを奪ひ出さんことを恐るヽに由りてなり。

ゲスレルは、テルを面縛して之を小舟に乘せ、日沒後に及びて、對岸に棹さしむ。テルは舟中に在りてみづから水夫を指揮して、數日來の出來事を回想し、竊かに我が子の無事を祝して、天恩の辱きを感謝したり。是れより先き、テルは就縛の際に、ウヲル

スツットガールトの宿は停車前の、ロイヤルホテルなり。ホテルの善惡は、大抵ベーデッカに倚れり。凡そ歐洲を旅行する人にして、このベーデッカを所持せざるもの殆んど稀に、一回これを讀む時は、ホテルの撰擇、汽車馬車の賃銀、名所古跡の案内、市街の位置、鐵道全圖など精しく記載しありて、數人の案内者を連れ行くよりも便利わり。わが國にも旅行案内、千山萬水などの、重寶なる書籍あれども、重に名所探勝の紀行、あるは汽車汽船の時間表などに止りて、例へばホテルも某家の二階目の部屋は何程、三階目は何程、人力車も一時間は何錢、半日一日なれば、何十錢といふが如く、一定の價までをも記せるものはあらず。尤もこれは日本の秩序亂れて、旅店車夫等に定れる規約無きより、自然お茶代酒手の名寡によりて、待遇を別にするが如き弊あるにより、案内記にも、明細に宿賃車代等の種類を詳記する能はずと雖ども

ターに託して、書信をアーノルド、タルクタルの許に通じたりしが、今や舟中遙かに熒々たる光の見ゆるあり。漸く近くに從て、漸く煌々たるがごとし。塊人は之を見て、通常の失火とし、敢て意に介することなし。然れども、テルは獨り以爲らく、必定同志の輩が義兵を擧ぐるが爲めの狼烟ならんと。前途の多望を慮りて銳氣滿腔に溢れり。

既にして風波俄かに荒く、一葦烈しく動搖し、巖石に衝突するの恐れありしかど、水夫の力如何ともすること能はず。殊に按針手は未熟にして、只狼狽するの外なく、黯黑咫尺を辨せずして、毎秒毎分危險の度益々加はりしかば、ゲスレル震恐して、面色土の如く、爲す所を知らず。テルに向て曰く。「汝は按針に長せりと聞く。一臂の力に吾儕を助け得るや否や。」テル答へて曰く。「神明の加護に由りて閣下の心を安せしめん」と。是に於て、ゲスレルは、テルの縛を解き、之に按針の任を委ねしかば、テルみづから櫂を執りて、巧に波濤を凌ぎ、暗黑に乘じて本來し路に歸り、卒然舟を斷崖絶壁の下に漕ぎ寄せ、見る々々攀ぢ上りて何處へか踪跡を晦ましたり。ゲスレル大に驚き、急に兵士を部署し、率先して搜索の爲めに上陸しぬ。

歐米の流石に文明國だけありて、成な一定の規則を立てあり、されば一冊のベーデッカは、旅行者の憲法よりも貴く、ホテル營業者も亦、この書冊に惡評を書かれなば、不繁昌の基となりて、渡世をも出來ざる有樣ゆへ、ベーデッカの勢力恐るべきものわり。次に旅行者に便利なるは、クック會社の巡回鐵道切符なり。これにはホテル料を算入しある分もあれど、旅馴れたる人は不粹なりとて、其事をなさず。されど大低の人は、そのベーデッカのお庇陰にて、宿屋にもマゴつかず、スツットガールト滯在中は心安く、ホーヘンハイム等をも遊覽するを得べし。

スツットガールトの町を出づれば、アプト式の鐵道あり。山を登れば、田家の風景美くしく、其處の農學校は、獨逸中有名なるものなり。校内にバタ、チユス、麥酒、燒酎などの釀造所ありて、生徒の實驗に供せり、遊覽者は學校附の料理屋に入りて、校製のビールと、實驗牧畜のテルは追捕の嚴しさに困じ果てゝ路傍の一洞内に姑らく身を潜めしかど、ゲスレル一兵士を率ゐて、己れに追及せしかば、テルは茲に我が邦の自由の爲めに、此の壓制者を誅戮すべきの時節到來せりと自信し、弓矢を執りてヘルマン、ゲスレルを射殺せり。

首尾能くゲスレルを射殺したるの後、テルは、急にスタイネンに行きて、ストーフアツケル、及びその他の義士が既に戰裝を整へたるに會し、一伍一什を告げて、且つ曰く。「ゲスレル既に天誅に伏したる上は、面わたり干戈に訴ふべきの必要なきが如し。然れども一旦本國の自由を挽回せんと決したれば、豈半にして止むべけんや」と。遂に一千三百八年（我が延慶元年戊申。即ち北條貞時執權の時。）一月一日を以て義兵を擧げ、苦戰數年に渉りたる後、同十五年（我が正和四年乙卯。即ち北條高時執權の時。）大テルの晩年に就ては、記錄の存するなきを以て、其の詳細を知るべからず。世に傳ふる所に據れば、一千三百五十年（我が正平五年庚寅。即ち足利尊氏將軍の時。）洪水、バーグレン村に汎濫し、テル爲めに沈沒せりといふ。其の眞僞は保し難し。

牛羊肉の調理を味ひ、午後スッットガールトに歸り、三時廿分の汽車に搭じて、瑞西に向ふべし、ホルグに至れば風光明媚、シセフハオゼに稅關あり。なほ行く、ライン瀑といふあり、その廣さ百十五メートル、高さ左にあるもの十九、右にあるを十八メートルとなす、その景觀よりも妙なり、それよりしてレグレサウに到れば沼々たる川あり、長橋架りて、潆車は宙を走るなり、日未だ暮れず、落暉山にあり、九時ツウリヒに着き、ホテル、トノハールに投ずべし、これ此地第二等の上位にあるものなり。

瑞西ツーリヒ

ツーリヒはツーリヒ湖の北岸、リムマット碧流の出づる所に位し、人口僅に十六万なりと雖も、山水風光の壯絶なる、商工業の盛んなる、音樂の發達せる、實に世界に其儔を見ざる勝地なり。而して瑞西の知識の中心は、此地なりとの名譽を擔ふ。前には滿然たる湖水横り、數筋の河流、或は急流となり、碧潭となりて流る。後には翠峰重りて朝夕の眺に富む、湖水の岸には、緑なる樹木茂りて、涼しき蔭をつくる。

建築中最も有名なるは、トンハルレといふ音樂堂なり。千八百九十五年維納の建築家フェルラー及びヘルマー二氏の手に建築せられ、一面には渺々たるツーリヒ湖を望み、他面にはアルプスの連山と相對す。是れ世界の音樂界、樞要なる地位を占むる者にして、ヘガル博士は其主任管理者なり。毎年夏期に於て絃に大音樂會を開く。歐米の紳士淑女、皆絃に集りて、天然の美と、音樂の美とを貪りて飽くを知らずと云ふ。

機器局には古代の甲冑武器を藏す。中に珍貴なるは慷慨家ヰルヘルムテルが所持したりしといふ箭及びツワングリが持ちし斧等なりとす。

（甲）梗概

露西亞は、歐羅巴の東北に在り。北は北氷洋に臨み、東は烏拉山脈及び烏拉河を以て、露領亞細亞、即ち西伯利に界し、南は裏海、及び黑海に臨みて、土耳其に隣り、西は墺地利、普魯士、瑞典、那威等に接して、バルチック海、及びフヰンランド灣に濱す。即ちバルチック海より烏拉山脈、烏拉河、及び裏海に至り、又北氷洋より黑海、及び高加索山脈に達する所の大國にして、面積二百零八萬一千零二十二方哩、人口一億零々十八萬七千四百七十九。全洲の二分の一以上を有ち、尚ほその領地は、烏拉山脈以外に擴がりて、亞細亞の三分の一以上を有つ。故に其の版圖の廣きことは、英國を除くの外、此の國に及ぶものなし。然れども住民の數は、比較上甚だ少なく、平均方一哩に付き凡そ十七人の割合に過ぎず。數哩の間、一軒の家だも見えざる處多し。殊に教育普及せず。農民は、概ね無智無識にして、その大半は近年まで奴隷たりき。

地面は、大半平坦にして、河流の灌漑に富み、田野頗る肥沃なり。西部にヴアルダイ岡あれども、中央部、ヴヲルガ、ドン、ニーペルの三支流の間平坦の地多きを以て、此の邊を總稱して露西亞の大平原といふ。

氣候は、領土廣大なるを以て、南北大に寒暖を異にし、ラプランド及び極北の地に於ては、苦寒膚を裂き、終年解氷の時なけれども、南方に至りては、嚴寒の季甚だ短かく、夏季甚だ長し。又中央部は頗る寒冷を覺ゆれども、北方の如く甚だしからず。

物産亦處によりて異なり。南部に於ては、小麥、稻、玉蜀黍、烟草を產し、中央部、及び北部に於ては、大麥、燕麥、及びその他の穀類を產し、極北に於ては、寒威凜烈なるが故に、物產極めて少なし。但し到る處山林多く木材夥多し。

牧畜甚だ盛んにして、北部多く獸毛を產す。國內、鐵、石炭に富み、食鹽また多し。東部露西亞は、金、白金、及び銅の鑛山に富み、石油また裏海の濱に多量を產す。製造品は、長足の勢を以て進み、貿易日々に繁盛なり。

政體は君主獨裁にして、生殺與奪の權、一に皇帝の掌裏に在り。國民は、毫も政治上に嘴を容るゝこと能はず。

（從來人民の過半は、奴隸なりしが、一千八百六十三年我が文久三年癸亥解放令出でゝ始めて自由人と爲ることを得たり。）

人種は、スラヴヲニック人、多數を占め、而して稀れに韃靼人あり。

市中最も高き建築は實業學校なり。こは大學と共にして、千八百六十年ゼムペル博士の圖案を以てなれり。市有圖書館にはツワングリの持ちし希臘語聖書、ジエンゲレー夫人の鐘體等其他史上の參考たるもの多し。さて其ツワングリーが監督したる教會はグロッスミユンスター是にて、高壯なる建築なり。內部には「瑞西新教の開祖」たるツワングリーの肖像あり。此地カール大王の遺物をも藏す。又此教會の附近なる小丘キルヒ街十三番地といふは、此人の住地なりしといふ。次に骨相學者ラヴエスターが監督したる教會は聖ペーター寺院是にして、建築は尊ろ質素なる方なり。

ツーリヒの地たる、古より商業地として各國民往來の衝に當れり。而して其附近は至る所、山水に富まざるはなし、就中有名なるはウエトリ山にして、往復切符一等五法、二等三法を投ずれば、ツーリヒ湖の全景、リハマット川の風景よりア

首府を聖彼得堡といふ。人口百零三萬五千四百三十五。チヴア河口に在りてフヰンランド灣に臨む。世界大都中の最北に位するものなり。故に氣候甚だ寒く、冬期は、河水全く氷結す。此の國の英主彼得大帝の建つる所なるを以て此の名あり。

彼得大帝は、一千六百七十二年我が寛文十二年に生れ、一千七百二十五年我が正德十年殂す。當時自國の文化進まず、學問技藝遙かに英吉利、和蘭の下に在りしかば、帝深く之を憂ひ、微行して和蘭に至り、姓名を變じて、海軍の諸術を學び、殊に造船學を研究すること數年。既にして英國に至りて造船場等を視察し、又獨逸に行けり。歸國の後、造船場、制作場を起し、又英、蘭諸國の學術風俗等を布き、露國をして舊時の面目を一變せしめたり。

帝又有名なる端典王チャールス十二世と戰て大に之に克ち、版圖を西北に廣めたり。露國が今日の至強を致せしは、帝の力許多なりといへり。

されば、國人之を尊崇して大帝と稱するなり。

墨斯哥は、人口八十二萬二千三百九十七。昔の都にして、聖彼得堡建設以前の首府たり。一千八百十二年我が文化九年壬申佛蘭西が侵入せし時、住民は、兵略上より、此の府を燒きて灰燼に歸せしめしが、其後、

ルブス山脈にては、センチス、ユングフラウ等の高峰を眺め得べし。其頂上には旅店もあり。

シカゴ市

合衆國の第二位に位する都會として、且又滊車の中央交通所として、遍ねく世界に知られたるシカゴ市は海上を拔くこと五百九十呎、湖水より高さこと十五乃至七十五呎にして、ミチガン湖の西岸、シカゴ、カルメット兩川の間にあり。大西洋への最近距離則ちハルテモーア市を去ること八百五十哩、太平洋岸サンフランシスコ港を隔つこと二千四百十四哩にして、千八百九十六年の最近調査によれば、人口實に百七十萬餘の多數を有せり。位置は全くミチガンの湖上に臨みて、中央にシカゴの河溶々として貫流し、街を南、北、西の三區に分てり。商業の最も盛なる市街は、スクテート、ラーク、マテンン、テルボルン、ラ、スル街、及びウア

更らに改築し、倍舊の華麗と爲せり。製造甚だ盛んなり。且つ位置上より、おのづから內國貿易の中心たり。

ワルソーは、ヴヰスチユラ河上に在り。人口四十五萬四千八百九十八。過去の王國波蘭の首府にして、波蘭史中有名の處たり。次節參照

オデツサは、黑海の濱に在り。人口三十四萬零五百二十。露國主要の海港にして、防備至て嚴なり。穀類及び脂肪を輸出す。

リガは、ダナ河口に在り。重もなる貿易場なり。

カザンは、亞細亞露西亞と貿易の要地なり。

セバストポルは、一千八百五十四年我が安政元年甲寅クリメア戰の際、英佛の軍と激戰を爲したるを以て知らる。

アーカンゼルは、北方の要都なり。

アストラカンは、ヴヨルガ河口附近の處に在り。主要の漁獵地なり。

クロンスタットは、フヰンランド灣內の島上に在り。海軍の要地なり。

* * * * * * *

此の國は、前陳の如く、彼得大帝の偉勳に由りて、歐洲列强の一に加はり、爾來累代の諸帝みなその所謂大帝の遺訓なるものを守りて漸く圖南の志を遂げんとするを以て、各國の畏憚する所たりといへ

ハアッシアヘニウー等なるべく、最も家屋の立ちすぐれたるは、南區に於てはミチガンアベニー、トレッキシル、クラントホールパーアド、北區に於ては、レーキ、ショオア、ドライブ等なるべし。猶同市に於る人口を細別すれば、亞米利加人卅三萬五千人、獨逸人四十六萬人、愛蘭土人二十四萬五千人、英蘭土及びスコットランド人十九萬人、スカンヂナビヤ人十八萬人波蘭人九萬人、ボヘミヤ人九萬人以太利人十四萬五千人、加奈陀人三萬五千人にして、最も尠きは佛國人なり。シカゴ市に於る商業の繁盛は殆ど紐育の次位にありて、千八百九十六年にはその額一億三千二百萬の多きに上れり。製造業は重に鐵及鋼鐵を用ゐたる器械にして世界にても著名なる製造所亦尠なからず。外國に輸出する額は極めて驚くべき好況を呈せり。而してその重なる輸出品は、鐵道車、麥酒等を以て最とすべし。ことに最も壯大なるはイリノイスチール會社にして、市中の各所に無數の工場ありて、そこに勞働する職工殆ど一萬人の多きに及べり。其他市の西南に位するマコールミック、ハーヘスチング、マシイン會社は三千人の職工を有して、年々一萬五千の農器を製造し、西北に於るウイリアム、デイリング會社三千五百人の職工を用ゐて盛に農器を製造するなど殆ど枚擧に遑あらず。

家屋の構造は、紐育市はこの高厦はなけれど費府のごとく二階三階の低き家屋のみにはあらず。建築のさまにも又さまざまの特色ありて、細かに觀察すれば珍らしき建物も亦尠少にはあらぬなるべし。

橋梁はシカゴ河に架したるウアッドル、リフト橋最も大なり。

されどシカゴ市を訪ひたるものは、アウデトリユムの高塔に登ることを忘るべからず。この塔の上の眺望は絶佳にして、ミチガン湖の美しさ大觀よりシカゴ全市を、顧みて國内を視れば、教育未だ普からず。人民猶未開の域に彷徨し、君民の間に城郭を設けて、鹿鳴を歌ふの期、前途猶遠し。殊に虛無黨の如き不平の徒ありて、輙ちすれば、臺鼎を顚覆せんとす。噫々露國の如きは、外强に、内弱なりといひて可ならんか。

(乙) 波蘭

波蘭は、今三分して露西亞、普魯士、墺地利三國の所領に歸したりといへども、遡りて十八世紀の初葉を顧みれば、中央歐羅巴に榮ふる獨立の王國なりき。

當時波蘭は、その版圖、西北は、バルチック海より、東南は、黑海附近百五十哩弱の處に渉りて、面積二十八萬四千方哩。人口一千五百萬を有し、其の國土の大なる、露國を除きては、歐州五大國といへども、之に加ふること能はず。

(墺は二十四萬方哩、獨は二十一萬四千方哩、佛は二十萬四千方哩、英は十二萬方哩、伊は十一萬四千方哩。みな波蘭よりも小さし。左れば、波蘭よりも大なりしは、獨り露國のみ。)

加ふるに、氣候温和、地味腴肥にして、物産頗る富み、且つ數流の大河、國内を貫通せるを以て、運輸の便を占ひ。故に一時は、兵馬精鋭、勢威强盛、雄を歐洲に稱せしなり。

然るに此の國が次第に國力疲弊して、漸く他國の干渉を受け、遂に覆滅の災を被ひるに至りたる所以の原因を尋ぬるに、その遠因は、

(第一)國王が公選なりしこと、(第二)人民の無政權なりしこと、(第三)國王選擧に就て外國の干渉を受けたることの三者に在りといへども、畢竟その近因は、露國の貪暴壓くなきこと、就中當時の露國女帝カタリナ二世の陰險にして禍心を包藏したるに在るなり。今聊か之を述べん。

一千七百六十三年(我が寶暦十三年癸未)波蘭王アウガスタス三世の殂するや、例に由りて新王選擧の時期到來したりしかば、ザートリスキの率ゆる獨裁政治黨と、ラヂウヰルの率ゆる代議政治黨とは、各々自黨より君主を出さんと欲して、非常の競爭を爲したりしが、獨裁政治黨は、腕力に由りて勝を制せんとの意見より、援を露國に乞へり。時に露國は、彼得大帝以來傑出の英主と稱するカタリナ二世の支配する所なりしかば、女皇は、縱横の機智を運らさんとし、笑坪に入りて、早速に之を承諾し、軍を出して獨裁黨を援けしめ、遂にスタニスラス、ポニアトースキ伯を選びて波蘭王と爲し、スタニスラス、アウガスタスと稱す。王は、ザートリスキ家の親戚にして、露女皇の

の光景一々指顧の中に集り、遊客をして終日去るを忘れしむるばかりなり。この大なる建物は千八百八十九年サルリパンに由りて建てたるものにて、中に一大旅館と、世界中稀に見ると稱せられたる壯麗なる劇場とを有し、建物の長さはコンクレス街の方へ三百九十呎ばかり遠く廣くひろがり渡れり。かへすがへすも旅客はこの塔に上りこの館に遊びて、シカゴの全市を眺望するを忘るべからず。

公園はレーキパーク、リンコリンパーク、ウシントンパーク等あれど、最も大なるはハブリックパークなり。二千二百三十アックルの廣さを有し、林泉の美座ろに旅客の心を惹く。リンコリンパークには綬室、小池、花壇等ありて、カウテンス氏の手に成りたるリンコリンの立像、レヒッソー氏によりて造られたるグランド將軍の像もそのところ〴〵に鎔え立てり。われ等は是よりシカゴ市の誇りとも言ふべきシカゴ大學の事を略記せざるべからず。この大學は米國否世界にも鳴りわたりたる有名なる大學にして教育學、理化學等には最もその粹を盡したりと稱せらる。その始めて世に生れたるは、千八百九十二年にして、その時は學生の數僅かに六百人に過ぎざりしかど、今は殆どその四倍の學生を養ふに至れり。校舍全躰の構造は四十箇の建物より成りて、それを大講室、理科大學、商科大學、政治科大學、哲學科大學、美術學校、圖書館等の諸館に分ち、器械の多數なる、參考品に富める、教授法に熟せるなど、確かに米國に於る第一流の大學たり。校舍の最も重なるものは、コップの講義室、ケントの化學製作室、レルンの生理構練室、ウオルカーの博物室、ヘンケルの東洋博物室等にして、圖書館には三萬三千種の書籍を藏し、世界有數の望遠鏡を有するセチバ湖畔の觀測臺も亦この大學の有に屬せり。

ニウベリーの圖書館はウアルトンフレー

ス。

この大學は米國否世界にも鳴りわたりたる有名なる大學にして教育學、理化學等には最もその粹を盡したりと稱せらる。その始めて世に生れたるは、千八百九十二年にして、その時は學生の數僅かに六百人に過ぎざりしかど、今は殆どその四倍の學生を養ふに至れり。校舍全躰の構造は四十箇の建物より成りて、それを大講室、理科大學、商科大學、政治科大學、哲學科大學、美術學校、圖書館等の諸館に分ち、器械の多數なる、參考品に富める、教授法に熟せるなど、確かに米國に於る第一流の大學たり。校舍の最も重なるものは、コップの講義室、ケントの化學製作室、レルンの生理構練室、ウオルカーの博物室、ヘンケルの東洋博物室等にして、圖書館には三萬三千種の書籍を藏し、世界有數の望遠鏡を有するセチバ湖畔の觀測臺も亦この大學の有に屬せり。

ニウベリーの圖書館はウアルトンフレー

蕃食其なり。噫々女皇が此の辟陽侯を機檻として、波蘭を陷れんとしたる心の中こそ恐ろしけれ。

カタリナ二世は、一千七百二十九年我が享保十四年己酉普國ポメラニア州スチッチンに生る。父をアンハルト、ツエルブスト公といふ。普國の陸軍少佐たり。カタリナ初めアンハルトのソフ井ア、アウグスタと稱す。その後、露國に來りて、希臘教の洗禮を受けてより、カタリナ、アレキソウ井ナと改む。容姿の嬋娟たると、才能の卓絶なるとを以て、十六歳の時、露國皇太子ピートル、フエルドロウ井ッチに配せられ、皇太子、帝位に即くに及びて皇太子帝位に即きて彼得三世と稱す立てられて皇后となる。然るに皇后は、その容色の花の如きにも似ず、その心は鬼の如く、夫帝を廢して、みづから女皇の位に即き、また寵臣六耶的の人アレキシス、オルロッフに命じて、帝を獄せしめたるぞ憎むべき。

オルロッフ、廢帝に毒酒を參らせしかども、帝は、毒と悟りて酒盃を地に抛ちければ、オルロッフ遂に手巾を以て帝を縊殺せり。

爾來三十四年の間、女皇は、政治を改め、武威を輝かし、又放恣を極め、波蘭を滅ぼし、土耳其を征服して、四隣をして震駭せしめ、一千七百九十六年我が寛政八年丙辰を以て殂せり。蓋し黴毒の結果なりといへり。

此の人の智略に長けたることは、古今の女主中無双といふべく、（英國の史家マカジーすらも、エリザベス女皇より遙かに優れりと云へり。）奸惡なることは、姐妃、褒姒も三舎を避くるばかりなり。而かも露國人民は、その功績の赫々たるに眩まされて、大皇女の尊號を贈れり。

是に於て女皇は、波蘭朝廷に迫りて、四萬の露兵を波蘭に駐屯せしめ、以て氣勢を張り、又恣に愛國正義の士を捕へて、之を西伯利の獄に投じ、露公使レプニンをして波蘭の萬機を獨裁せしめたり。而して波蘭王は、唯々諾々として一に彼れの命令に遵ふのみ。既にしてコッシューコ等正義の士は、露の暴虐亡狀に堪ゆることを能はず。竊かに同士を募りて拚露の策を運らすこと、恰かも彼の支那の義和團の排外運動を行ひたるが如くなりしに、露人は、早くも之を聞き知りて、益々口實を設け、遂に兵力を用ゐて彼の徒を壓倒せんとせり。

時に埃普二國も亦波蘭と交渉の事ありしが、慧眼奸猾なる普國のフレデリック大王は、躊躇して露女皇の爲めに中原の鹿を獲られんこ

スにありて、恰も市の北の一隅に當れり。藏書二十萬卷、にして、醫術、音樂に關するの書尤も多しと稱せらる。

ゼネヴア

瑞西に於いて、尙一所を紹介せむ。ゼネヴア即ち是にして、此市はゼネヴア湖の南端、ローン川の流るゝ所に在り。ゼネヴア湖と云ふは二百廿五方哩の湖水にして、夏は四方の山嶽の雪解けて流れ來るが故に、水かさ增す。水澄徹して底を見得べく、四邊の眺望えも言はれず。されば市中には、取り出でゝ記すべき程の建築名勝なけれども、ゼネヴア附近全體の幽邃なる風景を慕うて來遊する雅客甚だ多し。

ゼネヴアは平和なる地なり。俗塵を脫したる仙境なり。されば古來此地より學者を出して、人文の發達に貢獻したること僅少ならず。宗教改革時代の奇傑カルヴインは、此地に難を避けて、子弟を敎育しぬ。又ルイ十六世の大臣なるネッケル、博物學者サウシュール、史家シスモンヂ、文豪ルーソー等、或は此地に生れ、或は此地に靜養せり。又樂器、時計の製造地として、世に知られたり。

瑞西より伊太利

ツーリヒを發して、ツーリヒ湖を左窓に眺め、シールに於いて湖岸を離れて、山嶽の間を行く。かくてゴルダウ、フリユレンを經てルセルン湖岸に出づ。是よりゲーセネンに達す。此間にアルトルフなる地あり。こは慷慨家井ルヘルムテルが暴逆なる有司ゲッセラーの命を受けて、我子の頭に戴せたる林檎を射たる古跡なり。ゲーセネンよりアルプス山中の最大隧道始まる。セントゴータードの隧道即ち是にして、長さ九哩四分の一、二十三分間を以て通過す。此隧道は千八百七十二年を以て工事を起し、同八十二年を以て落成し、經費二百二十二万五千磅を要

とを恐れ、墺露二國共に女主（露のカタリナ二世。墺のマリヤ、テレサ）を戴けるに乘じて、之を噛若し、三國同盟して遂に波蘭を分割せり。その詳細は、予の『波蘭衰亡戰史』に就て看るべし。吾人歐洲史を讀みて、玆に至るごとに、未だ肯て愕然として戒慎せずんばあらざるなり。讀者以て如何となすや。

第八節　和蘭。白耳義

（甲）和蘭

和蘭は、歐羅巴の西部に在り。西北は、北海に濱して、英國と相對し、東は普魯士に隣り、南は白耳義に堺す。面積一萬二千六百八十方哩。人口四百七十三萬二千九百十一あり。

和蘭、即ちホルランドとは、凹みたる地といへる義なり。土地最も卑濕にして、十の八九は海面よりも低く、昔は屢ば海水逆流して國內に汎濫たりしことあり。故に高き堤防を築きて、海水の侵入を防ぐ。若し聊か防禦の手段を怠るときは、忽ち無慘なる海水の爲めに領土を奪はれて、魚腹に葬られざるを得ず。國民か防禦に油斷なきも亦宜なるかな。

國民亦重ちに牧畜に從事し、牛を以て財源の一と爲す。又漁業に從事するもの多し。內地の通商は、數多の堀割に由りて之を營み、多季堀割二面に氷結するときは、氷上を滑りて諸處に往來す。農民の妻女が牛酪雞卵の類を販賣するには、之を籃に入れ、頭に戴きて亦氷上を滑り行き、學童等が學校へ通學するにも、亦屢々氷上を滑ることあり。

外國貿易は、頗る盛大を極め、我が國へも早く來りて、長崎に於て交易を爲し、學藝を傳へたり。我が洋學の諸先輩が蘭學を修めしも之が爲めなり。今日にても、英學の老先生中には、蘭學より入りたるもの多し。

* * * * * *

昔露國の使節が支那朝廷の歡心を得んが爲めに、種々の恥かしき擧動を爲したることは、人の知る所なるが、和蘭の使節も亦日本政府の歡心を買はんと勉めたるが如し。左れば英國の文豪ゴールドスミスは、その著『世界之市人』(Citizen of the World)の中に、支那哲學者の言を借りて、和蘭公使が我が德川九代將軍家重公に謁見したる時の狀況を載せたり。今其一部を抄譯すれば左の如し。

先日和蘭公使が日本國皇帝（將軍家を指す。但し此の原書は、初め西暦一七六〇年（我が寶暦十年庚辰）一月二十四日より西暦六一年（我が寶暦十一年辛巳）八月十四日に至るまで、「パブリック、レッヂャー」と題する雜誌に連載せられたるものにして、我が德川九代將軍の時代に當るが

したりと云ふ。

此他數十の隧道を拔け、絶壁を傳へ、幽溪をめぐりて、最頂點ホスペンタールに達す、其間奇勝に滿てりといへども、就中デブルスブリッヂ（惡魔の橋といふ義）とウルセレン溪とは壯絶なる風景なり。

ホスペンタールは海面を拔く六千九百三十五呎、四邊には八千呎以上一万呎の峻峰雲に聳ゆ其最高なるをロトンド峰とす。是より道は下方に向ひ、再び山腹を傳うてアイロロに到る。茲にて隧道盡て、風景廣濶なり。行く十數哩にして清麗なる瀑布の絶峭に懸るあり。是よりフアイドー、ピアスカを經て、キアッソに到る。こは伊太利の稅關所にて、旅人は既に瑞西の國境を出たり。キアッソより三時間餘にして伊國のコモに達す。コモは コモ湖岸に在り。古より商業地として樞要の地位を占めたり。またこの邊一帶は、有名なる農業地なれども、近年大震振はず、多くは刈分小作といひて、地主と小作人と、收穫を分つに五分と五分との比例を以てせり。その家屋の構造は、瑞西風とは違ひて、中には伊太利古代の態を模せるなどもありき。コモより三十哩にしてミランに至る。其間の汽車賃一等六法、二等四法二十なり。實にツーリヒよりコモに至る間の道は、名に負ふアルプスの山脈を横ぎるものなれば、眼に映するもの、一として壯大、奇絶ならざるなく、是に至つて、自然の力、克く魏峨嶙峋たる高峰を起し、万仞の溪を裂き、變化の極所を示して、亦整然たる一致を失はざるを見る。世界第一の山水を見んと欲する雅客は必ず茲に幽を探れ。

またツーリヒより、伊太利のコモに出づる別道あり、風光明媚の地多きをもて、左に案内せむ。

スプルゲン嶺

ツーリヒに乘車して、ライン河畔を走ること八十哩（一等十二法四十五、二等八法故に、此の皇帝といへるは、支那哲學者韓氏（但家貧將軍の亦なるべし。）に謁見の節、小生し假設の人物なり。）幸ひに其の塲に居合せ申候。是れより先き、數日前、同公使は、各重臣老中、者へ種々の引き出物をいたし候へども、皇帝前に同じ。以下倣之。に献上物をいたすには、自身持參せねばならぬ次第に御座候。小生此の献上の儀式に就ては、豫て其の次第を聞及び居候ゆゑ、今回好奇心にほだされて、落ちなく目擊仕候。左に述ぶる所は則ちその儀式に御座候。

先づ第一に献上物惣り候。此の献上物は、美しき陶器製の臺に載せ、花を飾り、數名の人々に荷はせ、且つ音樂と舞踏とを以て之に伴ひ申候。小生當時竊かに思ひけるやう。「献上物を受納するにすらも斯く丁寧なる取扱を爲すやうにては、献上者、即ち公使に對しては、その丁寧如何ばかりならん。定めし鬼神にてもあるやうに尊敬を盡すに相違なかるべし」と。左るに、斯く大騷ぎを爲して献上物を運び込みてより、凡そ十五分間を經て、公使の一行は、宮城江戸城へ案内せられしが、初め公使等が府内に入るの際、府内を見せしめざる爲めとて、鉛々に黑色の壅やうの被物を頭より足まで被ぶせ、最下層の人民の中より若干名の案内者出でゝ銘々の手引を致し申候。さて公使の一行は、斯る不名譽を極めたる仕方にて、江戸市中を引廻はされ驤て宮城に入りてより、凡そ三十分ほど過ぎて後、守兵室に誘はれ、茲にて始めて彼の被物を取られ申候。而して又も三十分ほど間を置きて後、謁者出でゝ一行を客殿に導き、兎角する間に、皇帝上段の間に出御あり。公使を玉座の方に進ましめ申候。

公使、玉座の方に進みて、一定の距離に達するや否や、謁者は大聲にて『和蘭公使』と叫び候へば、公使は、此の聲に應じて殆んど平伏するばかりに屈み、畏る々々猶玉座の方に進みて御膝下に達し候へば、茲にて全く平伏いたし申候。此の儀式畢りて後、退けと命ぜられ、又前の如く、蝦魚然と屈まりながら、後退を爲して退出いたし申候。

噫、衙程迄に體面を損じても、猶富を得んと求むるとは、さても人間は、富の爲めに左右せらるゝものなるかな。元來歐羅巴人は、天を拜する時といへども、かく頓首再拜はすまじきものを、何故に此の蠻王の前に見苦しき狀を爲すか。只陶器及び其の他の物品を日本人民より買ひ取るべき許可を王より得んが爲めなり。噫々國！威を墜し、人間たるの體面を損ずるも、猶物

七十五、)にして、コイレに達し、是よりスミス、ヴィアマラを經て懸崖を行き、百六十五呎の隊道を拔けて、アンデールに達し、更に三十二哩半許、平野を過ぎりてスプルゲレ村に着す。

スプルゲン村より五哩にして、所謂スプルゲンの難所あり。是れアルプス山中の峠にして、古はハンニバルの蹈たる所近世にはナポレオンの驍將マクドナルドが千八百の士卒を鼓舞して越えたる所、海面を拔くこと六千九百四十五呎、十數の隧道をくゞり、峭壁を傳ひ、溪谷を渡り、山腹に現れ、溪澗に潛み、盤紆曲折、漸くにして其絶頂に達すれば、萬重の山嶽、亂濤の如く連り來は雲に隱る、靈氣骨に徹して、身は神境に入りたるの感あり、是より降ること十數哩にして、伊太利の稅關所あり。

かくて後キアベンナ(スプルケン村より七十三哩半)リヴア、ロリコ等を經て、コモの幽邃なる湖畔に出づ。コモよりは、ミラン行の汽車に乘るを要す、旅行者は乃ち前の行程を辿りて、ミランに到り、夜八時四十五分、ゼノヲに向つて出發するを得べし。

ゼノア

ゼノアは伊太利西岸の第一良港にして、繁華雜沓、各國の商船絃に碇泊す。商業旺にして、產物には、果實、米、橄欖油、天鵞絨、石鹼、紙類等にして、貨物の輸出額年々三百萬磅に達す。

市中大寺院は第十三世紀の建築にて、にはバプテスマのヨハネが屍とといふを納む。アンナンシエーション寺院とは、ゼノア中最も壯大なるものにて、千二百年代の建築なりと。

宮殿の重なるものは、赤宮を第一とす。此内にはヴアンダイクの名畫をはじめ、ラフアエル、ムリヨ、レムブラン等の古畫あり。赤宮に對してムニシパーレ宮あり。此他セナレカ、レアレ、ヴラッゾ、

品を買はんとは、さても物品は、貴重なるものなるかな。

初回の謁見の際に加へられたる無禮は猶恕すべし。第二回に加へられたる無禮に至りては、其の侮辱の甚しき、中々に前陳の比に候はず。さて第二回の謁見の際には、皇帝、及び宮中の貴夫人(御臺所、及び其他大奥の人々を指す)は、方眼格子の中に坐を占めて、公使等の狀を見物いたされ候(但し公使等の方よりは、一切見え申さず候。)公使等また例の如く俯伏して蛇の這ふが如き擧動をいたし候へば、格子内の方々は、珍らしき見せ物にても一覽せらるゝ心得にて、頻りに興に乘せられ、「其方共の姓名は何といふか」、「年齡は幾何か」などの如き種々のツマラヌ質問あり。既にして又「文字を書け」、「眞直に立て」、「更らに坐れ」、「歩め」、「止まれ」、「相互に蘭語にて言語を換はせ」、「日本語を話せ」、などゝ命せられ、又は「飲め、」「食へ、」「歌へ」などゝ命せらるれば、其の都度謹で命令を遵奉せざるべからず。一語に申せば婦人の好奇心を滿足すべきアラユル擧動を爲さゝるべからざることに御座候。

支那哲學者林氏。但し假設の人物なり。一箇の獨立國の代表者たる全權公使林君足下。

の一行が、斯く頃刻の間に訊問に一變せしめられ、而して彼の祝日、又は祭日に、北京の市街に在る見せ物小屋に於て見るを得べき戯ある獸類の如き擧動を爲さしめられんとは。豈有縣男子の忍ぶべき所ならんや。左れど、その堪え難き儀式は、決して前陳に止まり申さず、各華族方三百の大名も亦同樣なる仕方にて公使等を待遇いたし候へば、その夫人等も亦良人の爲めに好奇心を提起されて、またこの技を見物せんと迫り、兒童までも『和蘭踊り』、『和蘭踊り』と持囃し申候。

* * * * * * * *

此の國は、僅かに我が九州大の小國なれども、曾て一時は最も强き海上國として、盛んに殖民拓地を企てたることあり。然れども商業國の常として、偏に利に趨り、著しき鄙劣の所業多かりしより、軍事商事共に英國の爲めに鼻を挫がれ、漸く後に瞠若たるに至れり。

印度諸島中の爪哇、蘇門答臘、勃尼、セレベス、スパイス諸島、亞非利加の一地、南亞米利加の一地、及び西印度諸島の一部の如きは皆その有なり。

ヘーグは、此の國政廳所在の地なり。(人口九萬)。然れども人口の稠密にして、商業の繁盛なるは、アムステルダムを第一とす。アムス

ドリア等、皆華麗をきそふ、孤兒院と病院と盲啞學校とは、一大建築の内に分かたれ、瘋癲病院はローマ門の近傍にあり。又婦女に關する學校、養育所等十五あり。

停車場の近傍にはコロムバスの紀念像あり。臺石方形にして、宗教、地理、忍耐、智慧の四像を刻し、銅像の下には亞米利加なる人物平伏す。

ゼノアに於て見るべきは、以上の外に公園、大墓地、パラヴィシン宮等なり。殊に後者は、眺望の美を以て著る。さて此地の土産として、世界に其名響きたるは金銀の糸細工なりとす。

ピザ

ピザは伊太利の小都府なり、斜塔は歴史上有名のものにして、建築家の垂涎十丈の所、その街衢はアペナイン山を負ひ、一面海に臨みたる地にして中央には一河流れて市を二分す。ピザの偉觀といふは、大寺院、約翰教會、ピザの斜塔、及び大墓地是なるべし。

大寺院は第十一世紀の當初に落成したる大建築にして、地面より高さ五呎の盤の上に建てらる。柱の如きは重に大理石を用ゐ、諸所の扉は青銅を以て造られたり。此大寺院に對して、約翰教會あり千百六十二年に着手せられ、爾來百十二年間を經て落成したる教會にして、内部には聖約翰其他聖徒の大理石肖像を安置す。殊に其内部は裝飾の華美なるよりも、反響の著しるしさを以て、世に知らる。斜塔は大寺院の近傍に在り。高百八十呎、二階以上には、美術品を陳列す。其用材は大理石にして、各所の均齊宜しきを得たり。さて此塔の有名なるは、少しく斜傾なるが故なり。設計者、初めより斜傾せしめたるか、或は偶然の結果なるか、否かは詳かならねど兎に角、今に至る六百年間、倒るゝとなく、風雲を凌ぎたるは、甚だ奇なりと謂ふべし。カムポサントと

テルダムは、人口四十四萬六千六百五十七。ッアイデル、チー河の支流に濱す。ロッテルダムは、第二の都會なり。人口二十二萬三千五百九十七。アムステルダムとロッテルダムとにては、酒精を釀造す。又「ヂン」を釀造する都會も少なからず。

(乙) 白耳義

白耳義は、和蘭の南に在り。東は普魯士に界し、南は佛蘭西に隣り西は北海に濱す。面積一萬一千五百九十三方哩、人口六百二十六萬二千二百七十二。和蘭と同じく小國なれども、人口の稠密なると、鐵道運河の便の備はれるとは、他に比類なし。國の北部は、低くして濕氣深く、南部は山地にして材木に富む。土地肥沃なるを以て「歐羅巴の花園」と稱せらる。國内、鐵、石炭の産出多し。重もなる輸出品は、毛布、麻布、毛氈、玻璃等なり。

首府をブラッセルスといふ。人口四十八万二千百五十八。此の國製造業の中心たり。アントウアープは、人口二十四万七千四百四十。スケルト河畔に在りて、外國貿易の要港なり。昔拿破崙ブラッセルスを歐羅巴大陸の倫敦たらしめんとて、スケルト河の航行を自在にしてより、商業繁盛に及びたりといふ。

其の南にウヲータールーと名くる村あり。拿破崙が最後の敗北の地として知らる。八十餘年前、(即ち我文化十二年乙亥)帝此の地の戰に運命拙く、英將ウエリントンの爲めに敗られて、絶海の孤島亞非利加洲セント、ヘレナ島に謫せられ、不幸なる晩年を送りたり。

ケントは、木綿製造の地として知らる。

(因みに云ふ。我が日本國は、人口一方哩に付き二百八十二人の割合なれば、稠密の點に於て、多く他に讓らず。然るに白耳義の人口は、一方哩に付き、五百五十人の割合なりといへば、推して以て舊國中の人口最も稠密の地たるを知るべきなり。

第九節　伊太利

(甲) 梗概

伊太利は、歐羅巴の南部より地中海に突出たる三大半島の一にして(五大半島は、西なるを西班牙、及び葡萄牙といひ、東なるを土耳其、及び希臘といふ。伊太利は、二者の中央にくらゐするものなり。)

北は亞爾伯山脈に界し、東南西の三面は海に接す。其の形長靴の如し。長さ凡そ七百哩、面積十一萬零六百二十方哩。人口三千零七十

いふは、所謂墓地のある寺院にして、十二世紀頃の建築也。其基礎には、第三十字軍の時、ピザ人の持ち歸りたる聖地の土塊を九呎の深に入れたりと傳ふ。されば人々信じて曰はく、此土に屍を埋れば、二十四時間に空に歸ると、或は曰はく十年間は腐敗することなしと。雌か烏の雌雄を知らん。其建築の形は長方形にして窓はゴス式なり。又此寺院は往昔壽伯の滯在して揮毫したるとあり。ギッゾーは「パベル塔の建設」を三年間にて物して此内に貼したり。ピザの大學は伊國最古の學校なり（千百九十八年の建立）美術學校はナポレオンの建設にして、見るに足るもの尠からず。

羅馬

世界に於るいかなる市府も羅馬ばかり古代の紀念碑を多く有てるはあらじ。羅馬の古都の特色は全くこの紀念碑にありて然もこの紀念碑は實に多數を以て勝るの二万五百あり。

全國を別ちて南北二部と爲す。北部は、パダス河（即ちポー河）、及びその支流の灌漑する平原より成り、南部は、長き海角にして、亞卑尼奴山、北より南に横斷す。而して遠く西々里島に入りて、エトナの噴火山と爲る。昔の羅馬は、初め只此の南部のみを有ち、帝政の世に至りて、始めてポー河畔の平原を領せり。故に往時は、平原の地をゴーリア、シザルピナ（シザルピン、ゴール）、即ち亞爾伯山以内のゴールと稱し、全く版圖の外に在りき。

此の國、地形狹長なるを以て、大河なし。只ポー、及びアデ井ジの兩河は、舟運の便あり。

氣候は溫暖にして、大氣極めて清朗に、天色常に蒼々たり。南方亞非利加より吹來れるシロッコと名くる風は、氣候の溫暖なるが上に溫暖を加ふれども、甚だ健康に害あり。

首府を羅馬といふ。チベル河の上流に在り。人口四十五万一千。國王の居る所にして、政廳、及び羅馬法王の宮殿（ヴァチカンと名く）皆こゝに在り。二千六百年前、古代の大國羅馬の開祖ロムリュスが此の地に都を定めてより、一千二百年の間、常に大國の京城にして、一とたびは世界無比の大都たり。今日に至りては其の繁盛復

みならず、到處丁寧に保存せられてるは最も他に求ひべからざるの事なりとす。これ畢竟烈しき歴史の變遷の中にありながらも、全く他國に征服し了らざりしに原因せるとにて、羅馬は幾度も圍まれ、奪はれ、從へられつゝも、猶絶へずその獨立の位置を保ち得たるなり。されば今日の羅馬は昔日の羅馬と位置形勝に於て更に異る處なく、その斷礎廢園を見ても直に千年以前の歴史を殘りなく追懐する事を得べし。これ「ロモラス以後依然と」して更に異る所を見ず」といへる言葉の極め信を措くに足れる所以なり。これに加ふるに羅馬の古趾の貴べき理由猶一つあり。そはその古趾を數時代に跨れる事にて、他の古跡の只幾に一時代に劃れるものに比すべくもあらず、他の古跡は概して皆一時の文明に由つて興りたる遺趾と遺物とを留むるに過ぎざれど、羅馬は衰へては興り、破れては建てられつゝ、其時々刻々の異れる文明の遺跡を、恰もた昔日の如きことと能はずといへども、名所舊跡夥多しく、堂宇伽藍の宏壯なるもの少なからず。（教會の多きことは、三百五十以上に及び、就中セント、ピーター寺院の如きは、獨り此の國に於て最大最美の寺院たるのみならず。世界第一流の伽藍と稱して不可なかるべし。）殊に工藝の如きは、宇内に冠たり。然れども市街には貧民の敗宇、大厦高樓と交互錯雜して以て貧富懸隔の甚しきを見はし、殊に乞食の多きに至りては、此地を訪ひたる者をして一驚を喫せしひ。

傘破里は、ヴエスヴヰアス山麓なるチーブルス灣上に在り。人口五十三万零八百七十二。國内第一の都會にして、風光の佳絶なると、絹の製造の盛んなるを以て名あり。伊太利の諺に「傘破里を見て後死なん」といへり。猶我が國に於て「日光を見ぬ内は、結構といふべからず」といへるに同じ。その名勝の地たることは、此の諺のみにても明かなり。

ヴエスヴヰアスは、傘破里の東南に當れる火山にして、府と相距ること凡そ四哩。中にチーブルス灣を隔つ。山麓にポムペー、及びヘルキユラニアムの遺跡あり。此の兩府は、一時繁盛の都會なりしが、今を距ること一千八百餘年前、火山破裂の際、全府熔岩等の爲

高低ある曲線のごとくいと面白く殘したるを見る。然してその遺跡は皆その異れる時代毎の精華と粹美とを極めて遺憾なくあらわし盡したるものたるを思へば、誰かローマの市府のいかに遊覽に値し、研究に値し、將又追懷の料たるべきを疑ふものあらんや。これ羅馬の古趾の價値なり。

吾等をして羅馬の古趾を記するに先ちて先その市府の歴史否この大歴史を有する羅馬の市府の始て基礎を打立てたる時の以前を想像せしめよ。其處には尖りたる茅葺屋根あちこちに點綴せられ、長く低く丘蜒蛇として遠く黄なるチイベルの河岸を縫へるを認むべし。これ則ち有名なるパラティン、カアピトリン、エスキユリンの諸岡にして、就中最も高く最も廣きエスキユリン岡は更に分れて二つとなれり。右なるをビミナル及びクウヲリナルの二岡とし、左なるをシエリアン岡と爲す。而してパラティン丘の後、チイベルの河岸にはアベンチンの低き山脈綴く靜かに迤なり渡れり。あはれこの七つの岡！この七つの岡こそは實に羅馬の歴史を讀む人の常に思ひ出づる處にして、この諸岡を連續せしむる數箇の谷地は一ッとして有名ならぬものとては無かりき。カピトリン岡とパラチン岡との間に横る平原には後來熱鬧なる演説公開場開かれ、パラチン岡とアベンチン山との間の一帶の平地には人群雜沓する有名なる劇場マキシム座建てられ、カピトリン岡の彼方には繁榮なるカンプス、マルテユイスのひろげられたるを思へ。

されぞその最初は如何に荒涼寂寞たる光景を呈したりしか、谷地の低き處は沼、高き處は矮き樹林を以て蔽はれ、到る處に今日猶ロウマンカンパニヤの野に見るごとき低き蒼き雜草廣く充ちわたりて、殆ど人の住み得べき處とも思はれざりき。昔時の物語に、曾てこゝに一人の恐るべき妖魔住みて、年々人間より一人或めに押沒し、爾來一千餘年の間、世人の爲に知られざりき。然るに西暦一千七百十一年、即ち我が正德元年、或る農夫、井を掘らんとて、不圖樣々の古物を掘り出せしかば、コハ不思議なりとて、之を蹤跡し、始めて地下二丈餘の處に宏壯なる建物の存在するを知りければ、數万の人力を以て遂に地中の都會を露出することを得、奇巧巨麗なる高堂邃宇、商店より、珍寶貨材日用の器具に至るまで悉く之を目擊することを得たり。是れ則ちヘラキユラニアムの遺跡なり。

其の後數年を經て、亦ポムペーを掘り出だせしが、亦許多の宮殿樓閣伽藍等より、財寶家具及び珍奇なる器物に至るまで、悉く備具せざるはなく街衢溝渠なども依然現存し居れり。

チユリンは、ポー河畔にある美麗の都會なり。人口三十三萬五千九百。近來に至るまで撒丁の京城たり。大學校、圖書館あり。絹帛の製造地なり。

ゼノアは、同名の海灣に在り。人口二十一萬五千三百。閣龍の古鄕として知らる。その生家今猶存すといふ。此の地は、伊太利屈指の海港にして、曾て共和國の首府たりしことなり。

ミランは、人口四十三萬三千四百。北部第一の都會なり。ロムバーデーの首府にして、名勝遺跡頗る多し。

フロレンスは、タスケニーの首府なり。人口十一萬。名畫、古器物甚だ多し。

ヴエニスは、國の北端、墺地利と界を接する、ヴエニシアの首府なり。人口十二萬。七十二箇の小島に跨れる府にして、歐洲最奇の都會たり。市街到る處として川ならざるはなく、水を以て道路と爲し小舟を以て車馬に代ふ。府民終身田圃山林を目擊せざるもの多し。支那の廣州府と恰かも東南一對の奇觀といふべし。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

伊太利本國の西南、地中海中に三箇の島嶼あり。一は南に當り、他の二つは西に當る。南に當れるを西々里島と稱す。西に當れる兩島の南なるは大にして、北なるは小なり。大なるを撒丁島といひ、小なるをコルシカ島といふ。西々里島と撒丁島とは、伊太利に屬し、コルシカ島は、佛蘭西に屬す。

西々里島は、長靴の足跡に當れる大島なり。北部は、地味肥沃に、山嶽峻嶮ならざれども、東部には、エトナの火山高く聳へて、火漿地面を蔽ふ。此の島古代に在りては、希臘の殖民地たり、其の後加爾達領（亞非利加洲チユニスの部巻看）の爲めに併はせられ、又羅馬の版圖に歸せしが、

は二人の人身御供を取ることを常としたりしが、ある時村に非常に膂力強き一人の英雄出でゝ、漸くそれを退治し了り、それより村は穏かなる生活を營むことを得たりといへり。されば此の羅馬一帶の地は人智發達せざる當時に於ては決して住みよき極樂郷にてはあらざりしなるべく、氣候は蒸暑く、惡疫は流行し、土地には荒蕪多く、こを開くにもまことに難くべき年月と勞苦とを要したるに相違なかりしならむ。それにも拘らず、最初の住民は何故に先このローマを開き始むるに盡力したるか。これには理由なるべからず。

そは羅馬一帶の地の極めて便利なるに由れり。其地は海に近く、その海に續くべきチーベルの河ありて、しかもその河には常に溢るゝばかりなる水滔々として流たるのみならず其地はラティユム、サアビエム、エトルリヤに通ずる交通點とも言はるべき所にして、その各地方の物産爾來交々諸國の覇扼を受け、遂に伊太利の有とは爲りぬ。曾て此の地にアーキメデスと呼べる大學者あり。凹形の反射鏡を用ゐて羅馬の軍艦を燒き盡したることあり。今左に其の小傳を掲げん。

アーキメデスは、西暦紀元前二百八十七年（我が人皇第八代孝元天皇の御宇）西々里島のシラキユース府に生る。有名なる幾何學者にして、物理學に關する諸機の發明者なり。物理學の鼻祖と稱せらる。幾何學に於ては、ユークリットの後進たり、哲學に於ては、プラトの高弟たり。

アーキメデス曾て埃及に行きしとき、螺旋を發明して揚水機を造り、又この螺旋を航海に應用したりき。

アーキメデス又物體が水中に在りて輕減する重量は、此の物體の水中に入りたるが爲めに溢れ出でたる水の重量と均しきことを發見せり。この一事のみにても、今の物理學者を益すること少小ならず。されば、シラキユース王ヒエロは、金冠を賜ふて其の功を賞せり。

世に傳ふる所に據れば、アーキメデス此の發明を爲したるは、浴室に在りし時の事なり。當時アーキメデスは、風呂桶の中に入らんとしけるに、桶中に盈ちたる湯は、我が身體の入るに從て溢れ

製造品等を交換するに極めて便利なる所なりしをや。モンモセン氏は「ローマは最初より一市場なりき」と言へるは、まことにその肯綮に中れりと言ふべし。且ローマは一市場なりしと共に、また一ツの恰好なる隱遁所なりしに相違なし。見よ、その時代の物語には、失望したるもの、野心深きもの、冒險に失敗したるもの、隣國より遁れ來りたる不幸なるものなどの跟跡いと多く明かに記されたるを見るにあらずや、而してこのさまゝなる人種の次第に其處彼處より集り來りて、漸く一種の國民性を形づくり、遂に一大文明國の歴史を世界に遺したるは奇ならずや。

吾等は今日ローマの遺趾を訪ひて、いづれの處にかこの諸種族の集りて漸く羅馬國民の性質を形ちづくれる頃の最初の遺趾を認むるを得べきか。その古き紀念物は極めて稀なれど、吾等は猶その一二のめづらしきものを見る事を得ざるにあら

出でしかば、不圖前陳の原理を按出して、狂喜し、我が身、一糸を存留せざるをも打ち忘れて、「予は發見せり、予は發見せり」と絶叫しつゝ浴場を出で、裸體の儘に市街を走りて、我が家に歸りしといふ。

又一奇談あり。羅馬國がマーセラスを大將として、西々里を攻めシラキユースを圍みしとき、シラキユースの人民は、策の運らすべきなく、只當惑の外なかりしが、アーキメデス忽ち奇計を按出し、一大發明に由りて、厄災を攘へり。その法、凹形の反射鏡は能く光線を燒點に集合するの理に基き、金屬を用ゐて巨大なる反射鏡を製し、日光を之に受けながらに、敵の軍艦に翳して之を燒き盡したりとぞ。此の話は頗る作話に類し、近代の人をして眞僞如何を疑はしめけるにぞ、佛國の博物學者ブーフオン西暦一千七百四十七年を以て、凸形の透鏡を用ゐて試驗を行ひしに、能く遠距離の木片を燒き、又は鉛を溶かすことを得たりといふ、

* * * * * *

西々里島に在る都會の重もなるものを、パレルモ。メッシナ。及びカタニアとす。

パレルモは、北岸に在り。人口二十七萬六千。島中の大都會にして、

ず。されど最初の移住民は彼等の生活上必要とする所のもの則ち外來の敵を防禦する事と惡疫を拒ぐ事とにのみ力を用たれば、今日われ等の見る事を得るは惡疫の本となるべき、その平原の沼澤の惡水をチイベルの大河に流入せしむべき非常なる大暗渠の跡と、敵を拒がんが爲めにサアビアス、トユリアスの下に造られたる高き石壁の斷礎とあるのみ。羅馬に於るわれ等の古代の研究は、かくて先グレーカー、マキシマ、及びサアビアスの石壁より始めざるべからず。されどこは羅馬遊覽者に取りて決して難き事にあらず、グレーカーの入口はかの有名なる公開演說場(forum)に近く、サアビアスの高壁の重要なる部分も亦停車場を距る事太だ遠からざればなり。古代の高壁の壯大なるさまを見了りて、猶一層深くその珍しき古跡を探らんと欲せば、更に歩を進めて、アヘンチンの岡に於るサンタプリスカの寺院を訪はんこと必要なり。その寺に對して聳えたる同じ石壁の遺跡は三十メートルの高さを備へて、一見人をして人智進まざる古代猶この大建築を思せしかを驚かしめずんばあらず。豈啻驚くのみならんや。われ等はこの古壁を見たるのみにて、羅馬に住みし古代の人民の、將來を思ふの念に富み、美術を愛好するの心を有したるを知ると共にその頃より渠等は既に不朽の一大市街を建つるの資格を有したる人民なりしを想像する事を得るなり。渠等はその壁を造るに於て、巧に石と石とを繼ぎ合はすの術を知りたるのみならず、烈しき抵抗力を與ふるが爲めに、上を狹くし下を厚くするの建築法を知れり。渠等は上代に於ても決して一個の野蠻種族にあらざりき。

この人民の性質より實に羅馬帝國の文明は生れたるなり。さればこの古代建築の希臘の古代建築に比しては到底その上に立つ事能はざるは勿論なれど、その規模風光の美、人を驚かす。

メッシナは、東北岸に在り。人口十萬。海岸に砲臺を設く。

カタニアは、エトナ山の南麓に在り。人口七萬。穀物、菓物、氷塊、蠶絲の輸出多し。

撒丁島は、地中海中に在り。海岸には、阜頭多けれども、內地は、連山重疊して、木材、葡萄等を產す。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

伊太利の政體は、君民同治にして、立法の權は、上下兩院に於て之を掌握し、行政の權は、國王の手に在り。結搆可ならざるにあらず。然れども財政非常に切迫して、殆んど進退維谷の苦境に陷り、百事不振の狀況を呈せり。

國內養蠶盛んにして、絹布は、歐羅巴第一たり。又美術音樂の如きは、歐羅巴人之を稱して世界無比といふ。されど如何せん、人民の懶惰にして、徒に光陰を消費するを。

(乙) 伊太利の沿革

伊太利は上古よりゴール種族、エトラスカン種族、ラビジアン種族、伊太利種族と名る四大種族の住する所たり、ゴール種族は、北伊太利、即ちゴーリア、シザルピナの大半に住し、亞爾伯以北(今の佛蘭西)に住するゴール種族の一派たり。エトラスカン種族は、アルノ、チベル兩河の間に位せるエトルリアに住せり。又伊太利種族は、伊太利の沿革に大關係を有する種族にして、中央伊太利の大半を占めたり。この伊太利種族にも亦數多の種類あり。中に就て羅甸人といへるは、羅馬の上代史に特別の關係あるものなり。

詩人ヴアージルが吾人に傳ふる所に據るに、トロイ落城の後、公子イーネアス妻子を率ゐて、伊太利なるラチアムに上陸し、茲に居を定めて、子孫繁殖せり。羅馬帝は則ちその苗裔なりといふ。又羅馬史の鼻祖リヴ井ー、及び有名なる英雄傳の著者。プルタークの說に據るに、アルバ(伊太利に在り)王ヌミトルの女レア、シルヴ井アなるもの、マース神軍の神の女巫たり。偶々双生兒を產みしが、時に皇弟アミユリアス、王に迫りて、位を奪ひければ、双生兒成長の後、讐を復せんことを恐れ、二兒を桶に入れて、チベル河に投せしめたり。然れども河水漲溢の後、水低かに減じたるが故に、桶は依然として陸上に止まり、二兒牝狼の爲めに乳せられ、且つフヲースチユラスなるもの、爲めに養はれたるを以て、恙なく成長することを得たり。ロミユラス、及びレマスとよべるは是れなり。此の二兒成長の後、アミユリア

の壯大なる點に於て、將又美麗よりも壯觀に傾きたる點に於て、確かに羅馬帝國千有餘年の大建築、大美術の面影を備へたるは、疑を容れず。あゝまことに意味深きはこの古代の羅馬の高壁ならずや。顧みて共和制時代の赫灼なる日は來りぬ。しかもこの黃金時代の遺趾、紀念碑等の多く今日に傳はらざるは、後の帝政時代の諸王おのれの事業を誇大にせんが爲め、前時代の偉觀を悉く破壞し盡したるに由れり。されどその古跡は全く湮滅したるにあらず。その時代の髣髴は猶羅馬の市街の處々に殘れり。旅客もしそれを觀んと欲せば、ピイアザ、デ、ウエヂチアよりトラヂヤンの forum を訪ひて、それより右折して、サリタ、デ、マルフヲリオに登らざるべからず。其處には有名なるハブリシアス、ヒフラスの墓、珍らしき文字を記されたる古壁の殘片なぞあり。されど是等の遺趾には決して虛飾を用ひたる跡もなく、誇大なる頌詞を刻したるものもなく、いづれも單純、素質、壯大なぞの趣を備へざるはなし。これ則ち共和制時代の思想にして、他に破壞されたる古紀念碑等も皆この特色を帶びたるに相違なし。

しかも一われ等はその共和時代の面影の猶分明にその forum の中にのこりたるを認む。まことにその公開演說場の大部分は帝政時代の下に幾回となく改築せられて、立派なる禮拜堂は建てられ、圓柱と立像とは据ゑ付られ、その舊觀は全く失はれたるには相違なかるべけれど、われ等は猶その大體を共和時代の遺趾として見る事を得るなり。其處には最早、カト、グラシイ、シセロ等の大演說を聽く事能はざれど、その遺趾はかれ等が一度そこに上りて大いに人衆を狂せしめたる所なるを思へば、帝政時代の立派なる遺趾にありても、猶其共和時代の繁盛を眼前に掬かざること能はざるなり。ましてその公開演說場の背後にはカミラスに依て建

ースを誅して、ヌミトル王の位を復せり。既にして、二人の間に爭を生じ、ロミユラス遂にレマスを殺せり。

紀元前七百五十三年（我が神代）ロミユラス羅馬府を建設し外人を集めて一都會を爲さしめ、自立して王と爲る。是れ羅馬王の始祖なり。然るに第七世の王タークヰニアス惡虐なりしかば、人民之を逐ふて王政を廢し、共和政府を建設したり。時に紀元前五百九年（我が人皇第四代懿德天皇の第二年壬辰）なり。

爾來四百八十二年の間は、共和政治の世なりしが、その間に有名なるピユツク戰（羅馬と加爾達額との戰）あり。貴族黨と平民黨との爭ひあり。而して一方には、シラの如き、又一方にはマリユースの如き、奸雄出でゝ劍背を削りしが、更らに一變してシーザル。ポムペイの爭ひとなり、國家は終にシーザルの有に歸しぬ。然れども名義上に於ては、尚は未だ帝王と稱せず。

シーザルがブルタスの刃に斃れてより、オクタビアス。マーク、アントニー。レピダスの三人政治となりしか、オクタヒアス遂にマーク、アントニーを倒して帝位に即き、アウグスタス帝と稱す。是れ則ち羅馬帝世の初めなり。

爾來累世相受けて帝位に即きしが、後世に至りて、漸く尾大掉はず。

四夷闖入して、邦家分崩離析し、さしも廣大なる羅馬帝國は殺亡せり。

此の時より伊太利の地は、久しく墺國の有に歸せしが、輓近撒丁王ウ井クトル、エマニユエルは、有爲の主にして、輔弼の臣またカブール伯、及びガリバルヂーの如きあり。實に王の好仇にして、之が干城となり、腹心となりければ、終に墺國を排けて、伊太利獨立國を建つるを得たり。今の伊太利國是れなり。

第十節　西班牙。衛蒭牙

（甲）西班牙

歐羅巴の西南隅に突出したる一箇の半島あり。分かれて兩國と爲る。東なるを西班牙といひ、西なるを衛蒭牙といふ。西班牙は大にして、衛蒭牙は小なり。然れどもその言語宗教に至つては、兩國相同じ。」

西班牙は、佛蘭西の西南に隣れる國にして、中にビスケー灣、及びピリニース山を隔つ。西に大西洋あり。東に地中海あり。南方僅かにジブラルタルの海峽を隔てゝ亞非利加洲と相對す。面積十九萬四千九百四十五方哩、人口一千七百六十七萬三千八百三十八あり。此の國は、一時最も隆盛を極め、歐羅巴の一等國と稱せられたるこ

てられたるコンコルド寺院依然として舊のごとく、その傍には古代美術の最大傑作と稱へられたる最大なる圓柱發え立ち、シセロが「ローマの政治的制度の完全なるをあらはしたる世界唯一の立派なる紀念碑」と言ひたる言葉も偲ばるゝのみならず、われ等の空想は愈進みて、吾等の過ぎ行くサクラ、ピアノ路に、昔の英雄の姿を畫き、昔の美姫の面影を想像し、殆どその盡くる所を知らざるに至らしめずんばやまざるをや。

されど帝政時代に至りては、想像は總て無用なり。いかにと言ふに、その時代の紀念物は今日猶到る處に殘りて、そのある物は極めて丁寧に保存せられたればなり。オーガスタス大王は曾て誇りて言ひき、「煉瓦にてつくられたる羅馬をわれ大理石を以て建て直したり」と。こはまことなり。渠は人民をして共和時代の繁盛と榮華とを忘れしめんが爲めに、悉くその前時代の建築を破壞し、兼ねてそれより

とわり。當時兵力頗る強大にして、地中海の諸島、及び伊太利の諸部を併呑し、又海外に殖民地を作りたり。彼の閣龍が亞米利加を發見せしも、此の國の皇后イサベラが寶玉を典して、三艘の舟を購ひ、之を給與したりしに依りてなり。北亞米利加洲の部參看　爾來國王チャールス一世は、コルテズ。ピザロ。及びアルマグロ等を大將として南北亞米利加の各部を蠶食せしめしかば、兩洲の大半は此の國に屬せり。羅馬帝國以來、歐羅巴に於て、此の國の如く廣大なる版圖を有するものはあらざりき。然れども恰かも當時宗教改革の機運に遭ひ、マルチン、ルーテルなるもの獨逸に起りて、改革の必要を唱へけるに、チャールス元來無二の天主教徒にして、痛く此の機運に抵抗しければ、是れより爭亂傾かに激しさを致せり。然れども、チャールスは、英蘭の君主なれば、之が爲めに國家の衰頽を來たすこともなかりしが、嗣王フヰリップ二世性殘忍にして無數の新教徒を殺戮せるより、爭亂益々甚しく、加ふるに和蘭の勢ひ漸く強盛となりしかば、海外の屬地漸く我が手裏を脱し、又英國の爲めに敗られたるより、國運次第に萎靡し、今は第二等國として蔑視せらるゝに至れり。

首府をマドリッドといふ。人口四十七萬二千二百二十八。王宮の閑麗なると、工藝館の巨大なるとに由りて名あり。然れども周圍は猶

も數十倍立派なる壯麗なる建築を起し始めたるなり。久しく共和政治の下に安んじたる羅馬人の容易に新政に心服するものにわらざるを知れる身の、渠は建築に由ておのれの權力の大なるを示すと共に傍ら不平なる人民をして大なる市街の建築と裝飾とに熱中せしめんとの政策を取りぬ。かくて渠は劇場を興し、寺院を建て、立像を造り、公園を開き、祭禮を盛にし、並立圓柱を刻み、凱旋門を築くなど、殆どその全力を盡して、その羅馬市を改造したり。而してこの政策は假令十分ならざりしにもせよ、また少なからざる功を奏せしかば、これよりの歷代の帝王皆その建築を興すことを怠らず。三世紀の長き間、世々の帝王のその名を大寺院或は大紀念碑の上に殘さゝるものとてはなく、羅馬市は一躍して世界にその比を見ざるべき光輝極りなき不朽市街となるに至りぬ。殊に、羅馬の建築物を見るに於て、最も注意すべき特色の一ッは、

地にして樹木に乏しく、市街は頗る寂寥を極む。只夏日の夕、都人の散歩して涼を納るゝが爲めに稍々賑ふのみ。

トレドは、首府の南に在り。刃劒の鋭利なるを以て知らる。バーセロナは、地中海に濱し、製造貿易甚だ盛なり。國内第一の都會と稱す。セヴ井ル、及びヴアレンシアの二府は、亦製造貿易の都會なり。廣大なる烟草店多し。マラガ府は、葡萄酒、乾葡萄の名產あり。

ジブラルタルは、國の南端亞非利加と相對する處に在り。英國に屬す。此の地は、巖巒大陸と相連り、屹然屏障の如く、海中に峭立し周圍殆んど攀ぢ登るべからず。世界最强の要害地なり。堅固なる砲臺を備へて、英軍常に之を守り、以て地中海の咽喉を扼す。

政體は君民共治にして國會の設けあり。然れども國民は固陋にして舊習を墨守し、百般の事毫も進歩を見ず。宗教は依然天主教盛に行はれ、執迷の心未だ脫し難し。

此の國、一時は、外國貿易繁盛に赴くの傾向ありしかど、輓近漸く衰へ、又内國貿易は、道路の不便に妨げられて盛大に至るを得ず。獨り養蠶のみ稍々盛んなりと稱すべく、絹糸生糸の製造は、伊太利に次ぐと稱して可なり。

屬地には、カナリー諸嶋等あり。

その石材の煉瓦にも普通の石にもわらぬトラハーチンと稱せられたる一種の鑛物なる事にて、この鑛物は日の光を受くる時恰も黄金のごとき光を放つといへり。されぞこの產出額は左程多量なるものにあらざりしかば、後にはその鑛物全く盡きて、普通の石材を用ゐたる處も亦尠なからずと聞く。

羅馬に遊ぶ人の最も深き興味を感ずるは實にこの帝政時代の偉大壯麗なる遺趾の中を逍遙するにあるなるべし。されぞそを詳しく探らんとするには少くとも一月或は二月を費さゞるべからず。これ到る處帝政時代の紀念を以て充され、いかなる市街の片隅にもシーザーの古跡を留めぬ處とては無ければなり。今は只その著名なるもの二ッ三ッを此處に擧んと思ふ……。而して先足をパラチンの岡へと向くるは、羅馬遊覽者の取るべき正しき順序なるべし。こは帝王の宮殿のある處なるが其岡は千八百六十年までファーチー公園に占められて、綠樹徒にシーザー王の宮殿を蔽ひ、市民は其裡にその貴ぶべき古趾の隱れたりとは更に夢にも知らざりしを、今は綠樹は伐り倒され、雜草は芟り盡され、丘は全く赤裸になりて、シーザー王の古宮殿は隱るゝ處なく遊覽者の眼に入るやうになりぬ。宮殿は依然として更に昔時に異る事なく、王が諸州の君主を接見したりといふ大理石を以て四柱を造られたる大なる室、一日の政治を執りたる後寵臣等と酒を酌み力を角して遊びたる一室など、凋落したる蛇、蝋母の像の粧飾のまゝ歷然として殘りたるを見る。其他リバア宮なる帝王の休憩所もありて、其處にはローマ府中最もすぐれたりと稱せられたる繪畫を藏したればいかに急忙なる遊覽者もこの一室を見落すこと勿らん事を勸ひ。

パラチン宮殿の大なる古き階梯を下れば其處はやがてかの有名なる公開演說場の跡なり。此處に共和制時代の紀念碑の多

(乙) 葡萄牙

葡萄牙は、西班牙の西南に在り。西方一帶大西洋に面す。屬島を併せて面積三萬四千零三十八方哩、人口四百七十萬零八千一百七十八あり。

地勢山脈多けれども、嶮峻なるに至らず。富田沃野多く、氣候また人身に適す。然れども震災屢々至り、就中一千七百五十五年の震災の如きは、京地の家屋を顚覆し、三萬の生靈を亡はしめたり。

首府をリスボンといふ。人口二十四萬二千二百九十七。國の西岸に在り。三百餘年以前は、歐羅巴第一の繁榮地と稱せられしも、今は衰頽して復た昔日の如きこと能はず。然れども猶國內に於ては、第一の繁榮地たり。而して殊に良港と稱すべし。

オーポルトは、國內第二の都會にして、ポルト酒の輸出頗る夥多し。

屬島の重もなるものをアゾール諸島。ケープ、ヴエルデ。及びマデーラ諸島とす。その他亞非利加の東岸モザムビクに屬地を有し、又同洲の西岸、及び東印度諸島にも屬地を有す。

* * * * * *

此の國、今を距ること凡そ三百年前、我が德川幕府の初に當りては、國力强大にして、航海の業を勸め、世界を濶步するの勢ひあり。有名なる航海家グアスコ、ダ、ガマ、又はマゼランの徒がこの國より出でたるは當時に在り。パラレンの壁をして、我が日本國に基督教を弘布せしめんと謀りたるも亦當時に在り。左れど痛ひべし。今は衰運に陷りて昔日の舊に服すること能はず。徒に歐洲列國のその一つに算へらるゝのみ。

物產は、酒、鹽を第一とす。又礦物に富めども、之を得るの術精しからず。

政治、及び宗教は、西班牙に同じ。風俗も亦西班牙と大同小異なり。

第十一節　土耳其。羅馬尼。塞爾維。

モンテネグロ。

(甲) 土耳其

土耳其は、又阿多曼帝國と稱す。其の版土亞細亞、歐羅巴、亞非利加の三大洲に跨りて、面積人口左の如し。

歐羅巴土耳其　面積　六萬六千五百方哩
　　人口　五百六十萬

き事は既に說きぬ。されど帝王は皆その大部分を破壞せしめて、各その公開場を飾ることに盡力したれば、シユリアスシーザーの公開場、オーガスタスの公開場、ネーパーの公開場などの名目はいつともなく市民の口に上るやうになりて、今も猶その目を稱ふるもの多し。就中最も旅客の眼を驚かすものは、トラヂヤンの公開場を以て第一と推すべし。此處より珍らしき圓柱、禮拜堂、圖書館等の廢殘したるものを見つゝ、カピタルへと通ずるコルソーの大路に出づ。

こは昔のローマ人のカンプス、マルチアスに往來せしところにして、今はこのコルソートチイベル河との間、人屋櫛比し百貨輻輳する有樣を呈したれど、昔はそのひろき遊園に競爭、競馬、高飛などの遊戲盛に行はれて、ローマの少年の絕えず來りて遊びたる所なりき。されど帝政時代に至りては、帝王この遊園のローマの青年を腐敗せしむること一方ならざるを見、全くそれを禁止して、その地にさゝ〳〵なる建築物を建てたるなり。而して今日其處に猶その偉觀を留むるはアウガスタス大帝の計畫したるアグリパの合祭廟、オクタビアの圓柱室、マルセリアスの大劇場などなるべし。就中合祭廟は尤も價値ある大建築にして、ローマの黃金時代の面影はよくこの一廟の中にあらはれたりと稱せらる。

羅馬の帝政時代に於るわれ等の研究を完全ならしめんと欲せば、われ等は今少し遠く逍遙せざるべからず。マルセリアスの劇場を去りて、われ等は先ベルアブラムダ古跡を訪ひ、それよりパランチンの丘に登れば、其處にチタスの門の巍然として聳えたるを認むるならん。この一帶の地はシーザーの後を承けたるフラビアン一家の古趾の集れる處にて、門の向ふにはローマの建築の最も偉大莊嚴なるものゝ一とせられたる圓形劇場ところ〴〵に殘りて立てり。高さ五十二メートルを

亞細亞土耳其
- 面積　六十八萬七千六百四十方哩
- 人口　二千一百六十萬零八千

亞非利加土領
- 面積　四十萬零九千四百四十方哩
- 人口　八百十一萬八千

計
- 面積　百十六萬三千五百八十方哩
- 人口　三千五百三十二萬六千

總

此の國、北は羅馬尼、及び塞爾維に界し、東は黑海に面し、西はアドリアチック海に臨み、南は希臘に連り、又群島海ダルダネルス峽、及びマルモラ海を隔てゝ小亞細亞に對す。

域內を別ちて七部となす。南部なるセサリー、及びルーメリアの一部は、則ち昔の馬悲頓にして、宇內を睥睨したる歷山大王の本國なり。

國內第一の高山をバルカン山といふ。國の南方ルーメリアとブルガリアとの間に在り。河の最も大なるをダニユーブ河といふ。遠く塊地利より塞爾維を經て、來りて北部を橫斷し東の方黑海に入る。

京城を君士但丁と稱す。皇帝即ち支丹所在の地なり。人口八十七萬三千五百六十五。遠く之を望むときは、宮殿樓閣の宏壯なる、天然の風景の佳絕なる、筆紙に盡し難し。然れども親しく府內に入るときは、道路の不潔なる、家屋の粗造なる、人をして意外の感あらしむ。

アドリアノープルは、君士但丁の西に在り。國內第二の都會なり。貿易繁盛にして、香油を以て名あり。サロニカ亦著名の都會なり。

ブルガリア公國は、國の東方に位し、バルカン山脈の北。羅馬尼の南に在り。名は土耳其の屬國たるも、其の實は、獨立の姿を爲す。他の地方の回教を奉ずるに似ず、獨り基督教を奉せり。

氣候は、所に由りて一樣ならざれど、要するに人身に適せり。物產は、米、小麥、綿、酒、罐蕷、橄欖、橙、無花果等にして、又馬牛等あり。

* * * * * * * *

土耳其は、往昔東羅馬帝國所在の地なりしが、今を距ること六百年前、韃靼の酋長西南亞細亞より起りて歐羅巴に侵入し、東羅馬帝國を滅して之を建設したり。今の土耳其國是れなり。帝又其の後、益々四隣を攻畧して、遂に北部亞非利加の地を平定せり、左れば、此の國、一時は强盛を以て、歐洲各國の爲めに畏怖せられしが、其の政の苛刻なるに由りて、漸く民心を失ひ、露西亞、墺地利の爲めに版圖を削られ、各部の副王は、半ば獨立の狀を爲して、

踰え、優に十萬の觀客を容るゝを得べしとは豈慨かるゝ偉觀ならずや。されどその大建築の全く廢墟に歸してよりは、破壞すべきものは次第に自然の力によりて破壞せられ、中古時代にはまたローマ人の入寇を防禦する堡壘となりて、その細密なる部分は全く破壞し盡されたれば、今日に殘れるは、纔かにその重なる部分をとゞめたるに過ぎず。しかしその規模の雄大なる、マルチイルス氏が遙かに埃及の古塔に過ぐと言ひたる言葉も實にやと點頭かるゝばかりなり。思ふに、この時代はローマに於て最も建築術の發達したる時なるべく、この時代の遺趾と覺しきものの猶ローマ市の他方面に殘りたるものも少しとせず。停車場に近きデオクレチオンの廢趾、コンスタンチン大帝の公開場の入口なる禮拜堂など確かにその時代の建築なり。されど多くは頽敗に歸して、その全豹をうかゝふに足るもの極めて少し。ことに細巧なる彫刻物に至りては、風雨全く蝕し盡して、更にその殘骸を認むべからざるは、古代美術上大に惜むべきの事なりとす。

その他ローマに遊ぶ人は、この廢趾の外に、宗教的歴史を有する寺院、墳墓等を探ぐること肝要なり。ローマは基督教の最も完全、發達したる所にして帝政時代につゞいさて來れる中興時代は殆どこの宗教的特色を帶びざるなく、法皇の權力のみひろく一國の政治の上に加はりて、寺院の設立、墳墓の粧飾など、そのすぐれたる建築術を全くその方面に用ゆるやうになりぬ。シント、アクチス、シント、ションラテルラン、シントプオル等の寺院一ツとして詳しく研究すべき價を有せざるものなく、廻廊の壯大、寺門の雄麗など、まことに世界無比の稱にそむかず。就中、シントペートル寺院のごとき、その大さに於て、その廣さに於て、將又、その美麗なる點に於て、その名は世界の盡頭までも傳誦せられ、羅馬國帝の命を奉せず。加ふるに、土耳其帝以下の士民は、皆蒙古人種にして、回教を奉せるに、屬國の内には、歐羅巴人種に屬し、基督教を奉ずるもの多きを以て、彼此の間水魚の如きこと能はず。希臘先づ獨立し、塞爾維、羅馬尼の兩王國、及びモンテネグロ公國の如きも赤相續で獨立し、ブルガリア公國も亦獨立の狀を爲せり。

是れより先き、今代の國帝、即ち支丹は、衰勢を挽回せんと欲し、我が明治九年を以て從來の君主專制を改め、國會を開設したりといへども、因襲の久しき、尚陋習を蟬脫すること能はず。學問技藝の如きも、他の歐洲各國に及ばず。

國民は、寬衣を纏ひ、紅帽を戴き、或は布を蒙むるものあり。女子は、外被を垂れて、毫もその面を見はさず。士民恭敬を旨とし、曲禮を守りて、上下の區別甚だ嚴なり。平素椅子を用ゐず、坐褥の上に坐する狀は頗る我が國人に似たり。回教國の常として、一夫多妻の風行はれ、數十人の妻妾を蓄ふるもの少なからず。

(乙) 羅馬尼。塞爾維。モンテネグロ

土耳其の北に列して、墺地利と界を接ゆる三國あり。其の東部に位して最も大なるを羅馬尼といひ、中間に位して、次に大なるを塞爾維といひ、西部に位して、最も小なるをモンテネグロといふ。又羅馬尼の南にブルガリア前に出づあり。塞爾維と殆んど其の大さを均しくす。四國の面積人口等は左の如し。

羅馬尼	
面積	四萬九千二百六十二方哩
人口	五百五十萬
政體	王國。立憲政治
塞爾維	
面積	一萬八千七百二十方哩
人口	二百二十五萬零七百十二
政體	王國。立憲政治
モンテネグロ	
面積	三千四百八十六方哩
人口	二十三萬六千
政體	侯國。立憲政治
ブルガリア	
面積	二萬四千方哩
人口	二百萬人
政體	公國。立憲政治

此の四國は、曾て土耳其の所領たり。然れども上文既に述べし如く、土耳其の政府は、壓制苛虐を極めしかば、民心漸く背き、而して羅馬尼は、我が明治十四年を以て獨立の王國と爲り、塞爾維は、

を知るものにこの寺院の名を知らぬものはあらぬに至れり。

中興時代の文藝美術の復興は、法皇ニコラス二世の時より始まる。こは千四百四十年頃より始まりて、殆ど百年の長き間に及びぬ。而してこの間に於ける最大功勞は、埋れたる古代の傑作を博捜遍探して悉くこれを後世に殘したるにあり。この功勞なかりせば、希臘、羅馬、拉典の古代美術は全くその價値を知れざりしのみならず、十九世紀の藝術も決してかく圓熟せる境に達する事能はざりしなるべし。而してこの諸傑作の集められたる所をかの有名なるヴアチカンの書籍館と爲す。この基礎の始めて計畫せられたるは法皇ニコラス五世の時なりしが、渠はアスコリーのエノック其他數名の學者を獨逸の諸寺院に遣して、そこに深く藏せられたる書類及び諸傑作を取り來らしめ、希臘の諸學者を遠く土耳格の內地に入り込ませて、ホーマー。フラーオの遺書を求めしめぬ。而して渠の死する時ヴアチカンの書籍館には既に早く五千卷の價値ある書冊を收むるに至れり。それのみならず歷代の諸王も亦父祖の業をつぎて、盛に古文書採訪を行ひたれば、時の間に珍書、逸品は限りも知らず集り來りて、今日は二萬五千の書畫を有する世界にその比を見ざる大書籍館となるに至れり、且その藏する所の書冊は大抵皆無限の價値あるもののみにて、世界の文明も少なからざる影響をこの書籍館に負ひたりと言ふに至りては、誰かその規模の大なるに驚かざるものあらんや。ことにその書籍館の構造の美麗なる、廊下は悉く大理石を布き、室は悉く壁畫の傑作を飾り貴重すべき古文書の一二は、一見入館者の注目すべきやうに硝子を張りたる棚の上に陳列せられたるなど、極めて遊客の目を注がしむ。

書籍室の外に古代美術を藏したる大なる室あり。これ最もヴアチカンの光榮とす

その翌明治十五年を以て亦獨立の王國と爲り、モンテネグロは、是れより先き、明治十一年を以て、獨立の侯國と爲りたり。獨りブルガリアは、猶土耳其に屬すといへども、殆んど獨立に均しきこと前既に記せるが如し。

四國概ね氣候溫和にして、地味膏腴に、穀物、烟草、菓實、葡萄酒を產し、又家畜の名產あり。

羅馬尼の首府をブツカレストといふ。貿易繁盛なり。塞爾維の首府をベルグラードといふ。堡寨を以て固めたる市都なり。モンテネグロの首府はチエツチニートにして、ブルガリアの首府はソフヰアなり。

四國の人民概ね希臘教を奉ず。

第十二節　希臘

試みに地圖を披らきて歐羅巴の南部を視るときは、五箇の半島國あるを知らん。此の半島國の最も西なるを西班牙、及び葡萄牙といひ、最も東なるを土耳其といひ、その中間に位するを伊太利といふ。希臘は、伊太利と土耳其との間に挾まれる半島國なり。

此の國、今は最爾たる小國にして、勢力甚だ微弱なれども、歷史を繙きて遠く三千年の昔に遡るときは、學問の高尙なる、技藝の精妙なる、歐洲各國に比類なく、大人豪傑出でゝ模範を後世に遺し、西洋文明の本源を爲せり。今聊か同國の沿革を叙述せん。

上古の事は、覺ひるが如く、夢みるが如し。ホーマーの詩篇イリアッド及びオデッセーあり、神代紀なるものありて、吾人に報ずるといへども、其の言固より荒誕不經にして、信を置き難きが故に、姑らく之を省き、その後の事迹に就て言はんに、當時希臘は、數箇の小邦に分裂し、列國相對峙する狀は、宛ども支那の春秋十二列國の如く、將た戰國の七雄に似たり。中に就て最も後世に知られたるを雅典。斯巴爾達及び齊武と爲す。雅典は文化を以て知られ、斯巴爾達は勇武を以て知られ、齊武は、憂國の士に富みたるを以て知らる。有名なるエパミノンダスの出でたるは、この島なり。

斯巴爾達は、南部希臘（一にペロポンチサス半島といふ。今はモレア半島と稱す。）の一國たりしラコニアの首府にして、面積は、他の列國より廣きにあらざれども、士氣頗る振起せるを以て、他を壓倒し中央希臘なる雅典と相拮抗して、勇を南方に恣にせり。蓋し斯巴爾達が此の如く勢力を得たる所以を尋るに、ライカーガズ（Lycurgus）と呼べる豪傑出で、一種特別の制度を立てたるに由れるに似たり。

るところにして、且羅馬帝國の世界に訪るものの隨一なり、曾て一度は殆と世界の半をその領土と爲したる羅馬帝國の事とて世界の逸品と稱すべき逸品、傑作と稱すべき傑作は全くその手に採集せられたるなるべし。されどそは決して一時に集められたるにあらず、國民の美術に對する智識漸く加り、その趣味また養はるゝに從ひ、埋れたる傑作は次第に國民の間にもてはやされ、漸次今日の盛大を致すに至りしなり。アポロ、ラオコオンなどの美の漸く認識せられたるは、實に十五世紀以後にありと聞ては、今更ながら美術家の不過の思やらるゝにあらずや。且この室に希臘の古代美術の多く蒐集せらるゝはまた極めて多とすべき者あり。リスピスのメレージャー、アスレット、フレキシライルスのファウン、ヘルガムス派のアゼンポライス、ダイニンク、クライテイアトル、ベナス、オブ、グニタス、メンナンテル、ソホクルス等を見るものは、その古雅幽雋なる趣に感じて、殆その身希臘の古趾の中にある心地せぬはあらぬなるべし。われ等旅客たるもの亦こゝに一片の心を捧げて、この貴ぶべきものを集めたる羅馬古代の學者に謝せざるべからず。

否それのみにはあらじ、猶此處に記すべきは、この古代美術の中古時代の諸天才を刺衝して、ブラマンテ、ラファッエル、ミケラアンジェロを起たしめたるにあり渠等は皆このヴァチカンの宮に藏せられたる古代美術をモデルとして、更にその上に無限の新意を出したるにて、この古代美術なくば、ローマ中世の美術は決して此の如く赫々たる光を放たざりしなるべし。而してこの三天才のいづれもローマに生れたるものにあらずして、只その國の美術に引よせられつゝ、來りて此地に名を轟かしたるなるを思へば、われ等は更に深く羅馬の美術の府たることを覺えずんばあらず。

ライカーガズの制度の主眼は、強壯に、且つ清廉なる人物を養成するに在り。此の制度に據れば、男子七歳に至れば、父母の膝下を離れて、公共教育者の手に薫陶せらるゝを法とし、爾來公共の會食場に出でゝ、疏食を食ひ、常に武を講じ、體操を習ひ、六十歳に至るまで毫も怠ること能はず。又故さらに饑渴に苦められ、寒暑に惱まされ、往々苛刻なる鞭撻の苦を蒙ひらざるを得ず。故に強壯のものは成長することを得れども、虚弱のものは、夭折するを多しとす。又權謀に長じ、秘計に熟せしひるが爲めに、時として縊盜を行はしめ、而して巧に之を行ひ得たるものは、之を賞すれども、誤つて半途に發覺したるものは、嚴罰を被らざるを得ず。傳へ聞く、斯巴爾達の一少年曾て狐を盜みて、之を素肌に隱せしものあり。狐は百方逃れんと欲して、其の少年の膚を裂き、鮮血淋漓として、殆んど死に垂んとしたれども、少年は、發覺して、恥と罰とを受けんことを恐れ、遂に隱し得たりといふ。女子も亦男子と同じく體育を養はれ、巴御前、板額女的のものたらざるを得ず、

斯巴爾達の政體は、一種特別の政體にして、上に二王あり。相共に軍事祭事を司る。然れども其の實は、徒に虚器を擁し、常に元老院、及び代議士院の箝制する所たり。故に名義上に於ては、君主政治なるも、事實上に於ては、寡人政治たりしなり。

* * * * * *

雅典は、中央希臘なる亞的加の首府なり。此の國は、斯巴爾達と其の起源を同ふし、成長を共にするも、國體は全く異にして、文學技藝を尊び、彼れの尚武の風に似ず。希臘文明の中心にして、學者、政治家、軍人、詩傑、文豪、技藝家輩出し、古今に卓絶したるものなき程なり。哲學者にては、ソクラテス。プラト。歴史家にては、スシヂデス。ゼノフヲン。政治家にては、ソロン。クリスセニス。セミストクリス。ペリクリス。戲曲家にては、エスキラス。ユーリピデス。ソフヲクリス。彫像師にては、フリヂアス。プラクシチリズ。など其の尤なるものなり。

雅典は、初め他の列國と同じく、國王を上に戴きしが、ゴドラス王がドリアン人の亂に戰沒したりしより、爾來復た王を置かず。大統領を設けて之に政を委ねたり。累代の大統領の中にて最も著名なるをソロンと爲す。ソロンは、希臘七賢人の一にして、智力に富みたる人なれば、其の選ばれて大統領と爲るや、舊來の弊習を一洗し、官民調和、國家安全の目的を達したり。時に西暦紀元前五百九十三年なり。

あゝこの古代美術を深く藏めたる不朽市の意味深さよ。

チープルス

羅馬より百六十二哩（一等汽車賃卅二法三十五、二等二十二法六十五）にしてあり。これ古より「チープルスを見れば死すとも可なり」と言ひ傳へられたる勝地にして、東にはヴエスピアス火山、四時煙を噴き、海上には、プリ島横りて恰も入江の蓋の如き地位をとり、西にはヴアーヂルの墳墓あるポリンポの小丘あり。

市街の廣は他に比して稍狹しと雖も、敷石完全にして街衢亦區劃の整然たり。會の數は二百五十八あれど、今其重なる者のみを記さむ。ゼナロ大寺院には古名家の墳墓多く、殊に聖ヤヌアリウスの廟を以て世に誇る。其他キアラ、アヌンジタ、アンヂエロ、ドメニコ、チリ等あり。大博物館は第一壁畫部、第二古代大理石彫刻部、第三埃及部、第四古代銅像部、第五誌銘部、第六中世硝子工藝部、第七パピラス部、第八圖書部、第九寶玉部、第十貨幣部、第十一小銅像部、第十二花瓶及びポムペイ遺物部、第十三私用寶物部、第十四繪畫部に分たる。

古畫にはポムペイ、ヘルキユレヌム、スタビア等の遺跡より蒐集したる者千六百餘點あり。いづれも耶蘇生存期以前のものなり。

古代大理石彫刻は千五百餘點、重なる者は、アマゾン、グラヂアトル、アルカス父子、ヘラクレスとオムファール、アグリピナ等の像なり。此他像としては、大理石、青銅を以て造りたる、全身半身のもの近古に亘りて甚だ多し。

パピラスには三千餘通あり。中には年代古くして字体の不明なるものもあり。寶玉部には古代の裝飾品たりし寶石金銀等燦爛として輝けり。

繪畫には九百餘點あり。秀でたるもの少

同三十七年、貧民黨の首領ピシストラタス勢ひを得て他黨を壓服し自立して獨裁主と爲る。ピシストラタス二子あり。長をヒッピアスといひ。次をヒッパーカスといふ。共に父の後を繼ぎしが、ヒッパーカスは、暴徒の爲めに非命の死を遂げ。又ヒッピアスは、暴徒を恐るゝの極、之を虐遇したりしかば、忽ち國民の怨を買ひ、遂に國外に逐はれたり。

是に於て國内動搖し、獨裁主の復た出でんことを恐れしが、クリセニス出でゝ自由の政を復し、天地再び泰平とは爲りぬ。

* * * * * * *

爾來雅典は、駸々として長足の進歩を爲し、斯巴爾達亦益々勇武を磨きしが、會々亞細亞西部の大國、波斯來侵の事あり。（波斯國の部に就て看るべし。）

雅典人は、サラミス。プラテア。マイケールの三大戰に、セミストクリス等の戰略に由りて大に波斯軍を破り、波斯人の心膽を寒からしめしかば、漸く强大を致して、他の列國を壓倒するの勢ひあり。而して一方に於ては、斯巴爾達も亦レオニダスがセルモピレの戰死等に由りて武名を聽かしければ、茲に兩國の間に確執を生せり。偶々智勇兼備のペリクリスが雅典の尊俎の間に立ち、巧に外交政略を弄したるに依りて、彼此相調和し、交運を空前絶後の隆盛に達せしめたりといへども、滿の損を招くは、常數の然る所にして、また如何ともすること能はず。ペロポンヂサスの戰に、雅典は、一敗地に塗れ、斯巴爾達また一時少康を得たりしも、鷸蚌の爭ひは漁夫の利。希臘全國は、一朝にして、北方なる馬其頓國の王フヰリップの管轄に屬し、又其の子歴山大王の遺命に由りて、麾下諸將の分領する所となり、紀元前三百二十二年、大國羅馬の呑滅に遭ひ、羅馬亡びて後、土耳其の爲めに蠶食せられて、數百年間その配下に屬せり。然れども土耳其の政、苛刻を極めしかば、希臘人之に堪ゆること能はず。苦戰數回の後、我が天保三年壬辰を以て全く其羈絆を脱し、獨立王國と爲れり。

* * * * * * *

域内を分ちて三大部と爲す。南部、北部、屬島是れなり。北部は、直ちに大陸に連りて土耳其に接す。面積二萬四千九百七十七方哩、人口二百十八萬七千二百零八。

北部の地を總稱してヘラスといふ。亞的加は、此の部内にあり。亞的加の都は則ち前に記せし雅典にして、今猶この國の京城たり。然れども前代の如く隆盛なること能はず。

なしと雖も又チオポリタン派の繪畫發達の徑路を知るに足れり。シバグノレチ、ヅルエル、コレギオ、チ、アン等の作あり。中に嶄然頭角を露はすものは、ラフアエルが「聖き家族」之なり。

チープルスの圖書館は二十餘萬部の書と三千餘通の古文書を藏す。レアレ宮は千六百年の建築にして、ドリック、イオニックの兩式を折衷したり。內部にはラフアエルがマリア、チ、アンのマグダレナクマリア等の名畫を懸く、此宮殿の左側はカロル劇場にして、伊太利最大のものたり。又右側は機器局、王宮は市外の丘にあり。

チープルスに遊ばむには、九月十月を以て適したりとす。此地氣候溫暖にして、身體の健全ならざるものは、皆此に來遊して保養す。又四月と五月とは、歐洲中最も樂しき地として、各國より集り來る旅客群をなす。

チープルス附近こそ、チープルス市の磐南部は、僅かにコリンスの地峽を以て北部に連れる半島にして、前既に記せし如く、上古はペロポンチサス半島と稱し、今はモレア半島といふ。モレアとは、桑葉の義なり。其の地形桑葉に似たるを以て此の名あるなり。

屬島は、ユーベア島、アイオニア諸島、及びシクラデス諸島等より成る。ユーベアは、東岸に在りて最も大なり。アイオニア諸島は、西岸に在りて、上古西洋哲學の鼻祖ターレスの出でたる處なり。シクラデス諸島は東南に散布す。島の一つをシラといふ。其の都シラは、貿易の要港にして、土京君士但丁を往復する船舶の碇泊場たり。

政體は、君民共治なり。

第四章　亞非利加

第一節　總論

亞非利加は、亞細亞の東南に當れる大陸にして、北は地中海を隔て歐羅巴に界し、東は、紅海、印度洋に瀕し、西は大西洋に臨む。

價を高からしむるものなり。イスキア島は面積二十五方哩の小島にして、ウエスビアス火山の全形を眺め得べく、其西方には溫泉出づ。此他灣の北岸なるポッゾリ、バイエ等は、いづれも羅馬時代より存在したる地にして古跡多く、風景に富む。

さてチープルスに至て、必ず一見すべきは、ポンペイなり、チープルスより一時間許にして達すべく、汽車賃は一等二法七十五、二等一法九十なりとす。

ポムペイ

ポムペイは耶蘇紀元七十九年八月二十四日を以て地下に埋沒したる市なり。是より先き其一部は、ヴエスビアス火山の噴火のために、破壞せられたれど、漸く是を假ひて、市內再び壯麗を極めたるの時、俄然同日に至つて、同火山噴火して、ラバを流出せり。土石飛びラバと混じて、ポムペイの全市を埋め、後大洪水來りて、往時は、蘇士の地峽を以て東北の一角を亞細亞に連接する一大半島なりしが、明治の初年に此の地峽を鑿ちて地中海と紅海との聯絡を通じてより、全く一箇の大陸と爲れり。

面積一千百五十萬二千四百九十方哩。歐羅巴に比すれば、三倍以上の大さあり。然れども其の大半は、熱帶の中に位して、暑氣堪え難く、一望千里の沙漠その五分の一を占め、且つ猛獸毒蛇の害あり。疫病に惱まされ、蠻夷に襲はるゝの恐れあるを以て、內地の形勢を探ぐること甚だ難し。

流石探檢殖民に熱心なる西洋人も、百年前迄は、其の海岸に二三の貿易場を設けて、少許の物品を交換し、又は黑奴を買ひ入るゝ等の事に止まりしが、爾來科學の漸く發達するに從て、リヴイングストン(Livingston)一八一七年(我が文化十四年丁丑)生れ、同七三年(我が明治六年癸酉)死す。蘇國有名なる亞非利加探檢家なりの如き勇爲果敢の人々あり。地學研究の爲めに、又は殖民等の爲めに、危險を冒して、深く內地に入り、不充分ながらも其の模樣を探りたれば、爾來稍々之を詳悉するを得るに至れり。又近年スタンレー(Stanley)一四〇年(我が天保十一年庚子)生る　といへる人が同地を跋涉して、首尾能く英國に歸りしことは、讀者の既に知る所ならん。

亞非利加の地勢を記すに當りて、第一に擧ぐべきは沙漠なるべし。

輕さは之を流し、重さは土塊砂石を以て蔽ひ、昔日の偉觀たりしポムペイは、地下十數丈に葬られたり。然して其發掘せられたるは千七百四十八年を以て初とし爾來着々業を進めて、今は其三分の二を現はせり。されど全市を露出せんには、尚五十餘年を要すべしといふ。旅客は二法を拂へば、案内者を雇ふて三時間許に内部を見得べし。

入口の市街を墓の市街といふ。葬儀を行ひたる所なるが故に此名あり。是を行けばヂオメドの大厦あり。是れポムペイ中最大の家にして、内には十七人の白骨を發見せり。(其一はヂープルスの博物館に納めらる)。其傍にはシセロ莊あり。ヘラキラヂウム門は煉瓦を用ゐたり。それよりアルビナス、セルモポリウム等の寺院、外科醫、火神々社、舞踏堂等に行く。テルメー街には、ポムペイ中最大最美の建築パンサあり。是よりアポロー、悲劇詩人、メレアンガー等の堂宇に達し、フオラム街には運命神の堂、學校等見るべし。又此市街には三箇の大凱旋門あり。用材は煉瓦、大理石なれど、ラバ之に附着して、定かに知るを得ず。此傍にはヂエプター、ヴエナス神の寺院、獄牢、マーキユリー、オーガスタス等の堂廟あり。又此市街の一方には大劇場あり。二千餘人を入るべし。ヂプチユーン神廟、兵營(此内に六十三人の骸骨ありき)等、皆此市街にあり。されば昔日に於いては、此市街こそ、ポムペイの中心なりしなるべし。

伊太利探勝の旅客は、斯くヂープル及びポムペイを見了らば、再び羅馬に歸りて、行李を理め、今回はフローレンスに向つて、發足するなるべし。

青草綠樹

われ等もいざや見に行かん
伊太利名所の東西を
青草綠樹蔭消く

沙漠は、洲の南北に各々一箇ありて、北なるを撒合拉といふ。面積二百三十八萬六千三百六十二方哩。宇宙無比の大沙漠なり。南なるをカラハラといふ。其の他、内地は、際限なき大平原にして、中央幽邃の地は人跡未だ嘗て至らず。周圍には、山脈相連る。東に在るを月山といふ。脈中のキリマンジャロは、洲内第一の高峯なり。又ケニアと名くる高峯あり。洲の北に聳ゆるをアトラス山といひ、西に聳ゆるを昆山、水晶山といひ、南に聳ゆるを雪山といふ。

河の數は、甚少なしといへども、世界の大河と稱すべきもの三あり。一を尼羅河と名け、二をコンゴ河と名け、三をナイゼル河と名く。尼羅河は、古代より音に聞えたる河にして、苟くも上古史を讀む者は、その名を知らざるはなし。此の河は、毎歳六月より九月に至るまで、溢れて沿川の地に泥土を流し、その田圃を肥す。埃及地方の雨なくして、穀類の善く熟するは、之が爲めなり。

湖の有名なるは、多く赤道直下、及びその南隣に在り。最も大なるをヴヰクトリア、ニアンザと爲す。尼羅河の源たり。此の邊、毎年數月の間、大雨、盆を覆へし、尼羅河をして漲り溢れしむ。

動物には、獅子あり、駱駝あり、河馬あり、犀あり。象は、亞細亞産よりも大なれど、決して之を馴らし、之を飼養すること能はず。只牙と肉とを得んが爲めに之を獵るのみ。鱷魚は上古の埃及人、神として之を崇め、鱷魚若し死すれば木乃伊と爲して之れを保存したり。又足の速さ駝鳥あり、毛色の虎に似たる斑驢あり、頸の長さジラッフあり、ゴリアと名くる最も大なる猿あり、赤道近傍なる西海岸に住む。力極めて強くして、直徑三四寸の樹木を扭る。其の他、珍禽奇獸枚擧に暇あらず。

赤道近傍の地は、東の方、印度洋より濕風吹き來れるが故に、降雨の量頗る多くして、地味肥沃なれども、その餘は、尼羅河の沿岸を除くの外、草木繁茂せず。

産する所、アカシヤ、椰子、棗、塞子樹等あり。アカシヤは、亞剌伯護謨を取る樹なり。棗は、他樹の生長せざる旱魃の地に繁茂し、人、馬、駱駝共に其の實を食して飢を凌ぎ、又土人は其の汁より酒を釀す。

人口は、一億八千二百七十一萬八千二百二十八あり。其の大半は野蠻曚昧の民にして、甚しきは人を喫ふといふ。但し地中海に瀕する地方、及び極南の地方には、歐羅巴人の住するあれど、その數纔かに數百萬に過ぎざるなり。

本洲の重もなる國々は左の如し、△は獨立國なり。

來れば夏もうちわすれ
肌のあせも消え失せぬ
見渡せば樹樓彫閣相交え
泉水みぎはに流れ澄み
貴紳のすみかと知られけり
ガリバルヂーの銅像は
風丰凜乎いにしへの
英雄茲に久しくも
名譽を千世に殘しけり。

フローレンス

羅馬より北方百八十哩（一等汽車賃三十五法十、二等二十四法六十）に在り、アルノ川中央を流れて全市を等分に區別す、往時此市は堅固なる城壁を以て圍まれたれど今は無し。

フローレンスは中世紀に於いて、繁榮を極めたる地にして、中世美術の淵叢と稱せらるゝ程なれば、其美術品に就きて見るべきもの甚だ多し、然れども是を一々に記述しなば、餘りに長きに亘るが故に、今其中最も有名なる者のみを紹介せむ。

市中第一の偉觀は、大寺院是なり、是れ千二百九十二年を以て礎を定め、フローレンス人が空前絶後の大建築たらしめむとの意氣を以て、着手したるものなれば、其壯嚴なる、實に世界に冠たり。されど其全く落成するに至りしまで、餘程の年代を經たるものにて、第一に考案を廻したるはアルノルフにして、次でギオット其他數人の建築家を煩はし、ブルヂレッシに至つて、遂に大圓頂の建築せらるゝに至りぬ。かくて寺院となりしは千四百卅六年。千五百八十八年に至つて、ギオットの完成せざりし一部を取除きて、新に此部を建築するとなりしが、往年千八百七十五年に至り、漸くエマニュエル大王の基石を定むるとなり、千八百八十七年を以て落成せり。建物の屋頂三百呎、十字架は三百五十二呎、廣さは長五百五十六呎、幅三百四十二呎にして、用材は燦瓦黑白大理石にして、其内部には、

國名	面積	人口	政體
モロッコ	三一、三五〇〇	五〇〇、〇〇〇〇	君主獨裁
ボルヌー	五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇〇	君民共治
リベリア	五、二九一七	一〇六、八〇〇〇	共和政
トランスヴァール	一一、三六〇〇	六七、九二〇〇	共和政
オレンジ自由國	四、一四八四	二〇、七五〇三	共和政
英領	二四七、七六〇〇	三九四二、五〇〇〇	—
佛領	二一五、一一〇〇	二〇〇〇、〇〇〇〇	—
獨領	九二、〇九二〇	八三七、〇〇〇〇	—
伊領	四〇、九四四〇	八一一、八〇〇〇	—
葡領	五四、六一〇〇	六二五、九〇〇〇	—
西領	七三、五三〇〇	四四三、二〇〇〇	—
埃及領	二四、三九〇〇	一三、六〇〇〇	—

第二節　埃及、亞比西尼亞

埃及は、世界最舊國の一なり。獨逸の哲學者ヘーゲル（Hegel）一七七〇年（我が明和七年庚寅）生れ、一八三一年（我が天保二年辛卯）死す。の說に據るに、支那の開國は、遠く紀元前三千年に溯り、司馬貞の補史記に引く所の春秋緯には盤古より獲麟まで凡そ三百二十七萬六千歲とあり。亞西里亞は、同二千二百二十一年、埃及は、同二千二百七年、印度は、同二千二百四年に溯るといふ。此の說固より信據すること能はずといへども、推して以て埃及の舊國たるを知るべし。

然るのみにあらず。四千年の昔、既に屈指の開明國たり。彼の歐洲文明の母と稱する希臘の人民すらも、其の初は、埃及の學者に就きて、諸般の學術を傳習したること、王朝時代の我が國人の入唐僧に然るが如く、維新以後の新日本人が物質的文明を歐洲に取るが如したるが如く、然れども宗教に惑溺したると、好色に耽りたるとに由りて、漸く萎靡不振の姿に陷り、爾來希臘羅馬の兩國相次で隆盛を致すに及びて、一たびは、馬基頓の歷山大王（Alexander the Great）希臘の部參照に滅され、其の後又羅馬のアウガスタス帝（Emperor Augustus）に滅されて、屢他國に屬し、今は土耳其の屬國と爲る。近來文武の制度一に西洋に倣ひ、亞非利加に在りては、文化最も進みたる國なれども、人民は尙無識にして迷想を懷く者多く、奴隸の數少なからず。殊に英國の干涉を蒙ひりて、身體財產の自由の纒かに縲の如くに存する狀は、宛ながら古事談に在る未通女が鼠に見込れて、羅然骨立し行步に拙えざるに似たり。埃及人士の憤懣想ふべし。偶々アラビー、パンヤ（Arabi pasha）の如き有爲の志士ありて、挽回の策を企つるも

種々なる想像の外に古今の彫刻、名畫を陳列す。彫刻にはミケランヂエロ、バンヂヲリ、繪畫にはバサリ、ッケリ等の作多し。

此大寺院の大門に對して洗禮所あり。こはフローレンス人の洗禮所にして、千百年頃を以て着手せられたる者なり、敷石に大理石を用ゐ、諸方の壁具他柱には、精巧なる裝飾を施す。殊に名高き美術品は、三枚の青銅製大扉にて、其中央なるはギーベルチの作と傳ふ。ミケランヂエローが、天國の門戸と叫びたるは此扉なり。

市の北方にサンロレゾ寺院あり。ブルヂレッシの圖案に成れりと雖も、ヅオモ寺院に比して遜色あり、されど是に附屬する二大建築、乃ち聖堂及び圖書室あるが爲に、本堂の遜色を償ふに足る、聖堂はミケランヂエロ壯年の建築にして、内部には亦此美術家の裝飾せるもの多し。其中ギウリアノ侯が廟の上なる『晝夜』の像は、彼が一代の傑作と稱せらる。又是に對して『暮夕』の像あり。此他マドンナ、コスマス等世に隱れなし。

プリンス寺院は第十七世紀の建築にして九十萬磅を費さでは、到底全樣に造り能はざる程の建築なりと。此寺院亦裝飾品を以て秀でたりと雖も、殊に其所藏なる希臘、羅馬文家の書蹟一萬通、ペトラルカの書翰は、他に覓ひべからざる者なり。又サンロレンゾ院はいづこも猫の裝飾を施して甚だ奇觀なり。

サンクロース教會は大墓地にして、ガリレオ、マキャベリー、アルフヒエリ、ダンテ、ミケランヂエロ、ボーナロッチ等古名家の墳墓あり。

ウフヒジー宮といふ、繪畫陳列所、國民圖書館、郵便局等を包含す。繪畫展覽所は第二層にして階段の數百二十六あり。其重なる畫には、チヽアンのウルビノのヴエナス、ラフアエルのマリア、ミケランヂエロの聖き家族等をはじめ、ルイニ、時利あらずして、韜略悉く黄餅に屬し、適々敵に口實を與ふるに足れり。

政體は、君主獨裁にして、世襲の副王、即ちケヂーブ(Khedive)政を執り、名は土耳其の屬國たるも、其の實は、只六十九萬五千七百九十二磅の年貢を納むるのみにして、他に殆んど附庸の迹を見ず。却て英國の爲めに檢束せられ、三千五百の英兵、國内を横行するも之が罪を糾すこと能はず。

埃及の住民は、土耳其人、亞剌伯人、及び葱來の埃及人の三種族より成る。而して、官吏は、皆土耳其人なれども、人民は、亞剌伯人亞剌伯人の土耳其の大半を占む。舊來の埃及人は、甚だ少なし。又希臘人、子孫なり黑人、雜種人等あり。人口凡そ一千六百五十萬。宗教は、回教を奉ずる者多し。

* * * * * *

此の國は、亞非利加の東北部に在りて、地中海に臨み、下埃及、中埃及、上埃及、蘇丹、双比亞を合せて、面積一百十二萬五千零五十九方哩。首府をカイロといふ。尼羅河畔に在り。人口三十七萬四千八百三十八。我が東京に比すれば、僅に四分の二に過ぎず。アレキサンドリア府は、人口二十三萬一千三百九十六。歴山大王の開きたる港なり。二府共に鐵路、蘇士に通ず。史傳に載す。歴山既に埃及を征服して後、一大都會を同國に設けて、希臘人を移住せしめんと欲し、適當の地を相しつゝありしが、偶々夢むらく、威ありて猛からざる白髮の老人、我れに近づき來りて歌て曰く。

High o'er a gulfy sea the Pharianisle (一海灣の上にフアロス島あり。)

Fronts the deep roar of disemboguing Nile (洋々たる尼羅河に面す。)

〔希臘の詩聖ホーマー(Homer)の傑作『イリアッド』(Iliad)の中にある句なり。〕

歴山夢覺めて、直ちに起きてフアロス島に到る。フアロスは、當時、尼羅河の上流に近き邊に在りたる島にして、縱横能くその權衡を保ち、一方は大湖に臨み、一方は海に面して、最も通商に便なり。王覺えず手を拍つて感嘆して曰く「噫、ホーマーの多才なる、亦建築師たるの性格を具ふるか」と。遂に都を作り、我が名に因みてアレキサンドリアと名けたりと。

蘇士は、ボートセードと相對して、蘇士運河の兩岸に在り。蘇士運河は、佛人レセップの開きたるものにして、我が安政六年巳未に

コレギオ、ヴルエル、アンドレア、バルトルメオ、其他大家の手に成りし者千五百枚以上あり。彫刻は廻廊の周圍をはじめ、別に一部を取りて陳列せらる。ニオベの間には、ニオベと其子の大理石彫刻數種あり。又羅馬諸帝、諸神、名家の肖像、いづれも生々たるもの多し。

ピッチ宮はフローレンスの富豪ピッチが千四百四十年、ブルネレッシに囑して造らしめたるものなり。されど着手後半世紀ほど中絶したりしが、其孫の代に至つて落成せり。内部には亦展覽所ありて、ラファエルがマリア像二種、ムリリヨのマリア像等、古今獨歩の繪畫を藏す。

博物館は伊太利の中世以後の美術發達の跡を示すを主とせれば、學者の參考すべき藝術品甚だ多し。此他アカデミア、アルチ亦美術品を集む。ミケランヂエロのダビテ像、最も貴重なり。

フローレンスにはミケランヂエロの家今日尚保存せらる、内部にはテーブル、上靴、仕込杖等、此大家の所持したるものを陳列して觀覽に供ふ。次に天文學者ガリレオの古家も存す。

劇場の最大なるはデルラペルゴラにして二千餘人を入るゝに足る、さてアルノ川には六大橋あり。其尤も古きは千二百三十七年に架せられたるポンテ、アルレ、グランテ橋なり。庭園にはボ、ロ園あり、一哩半程の小園なれど、茲には昔日の城壁の形見を存し、四邊寂として眺望甚だ廣し。又近郊の風景には、サンミニアト、ペロスグアルド、フヒーソーン等あり。

フローレンスの地たる、古代羅馬の時、殖民地として定められたる所なれど、二三の圓形劇場の外に遺物なく、又第十世紀頃迄は、殆ど世に隱れたる地なりき。其勃興したるは第十二世紀にして、是より第十四世紀の末に至るまで、伊太利文化の中樞となれり。去れば此市の遺跡遺物は、此間の時代の物を以て最上とすべし。又實際に於いて首位を占む。

始めて工を起し、十年の星霜を經て、明治二年已に功を竣へたり。長さ八十七哩。地中海のポートセード港より、殆んと一直線に紅海の蘇士港に達す。尼羅河より亞細亞に至るべき航路なり。毎年通行する船舶の數凡そ三千四百餘艘。噸數凡そ六百八十萬。英船其の四分の三を占む。乘客凡そ二十萬人。明治八年、英政府、四萬磅を出して此の運河の株券を買ひ取りたれば、往來税として毎歳得る所の一千二百萬許は、概ね彼れの收むる所となるといふ。

此の運河の未だ開けざりし以前は、遠く亞非利加の南端喜望峰を廻航したりしが、此の運河の開けてより、航路三分の一を減じたるを以て、從前よりも三十六日の日子を短縮したりとぞ。

此の國に數多の三角塔あり。カイロ近傍に在るものを第一とす。高さ凡そ五百呎、十三エークルの地を掩ふ。内に累代諸王以下の木乃伊を藏む。木乃伊とは、死屍の臓腑を去り、防腐劑を施して、永久に保存する所のものにして、死屍亡失するときは、靈魂住ひべきの處を失ふとの觀念より、大切に貯へ置くなり。又スフヰンクス(Sphinx)と名くる獅身女面の像あり。高さ百二十五呎。また上代の遺物なり。現今は、概ね沙中に埋沒し、地上に見はるゝは、纔かに肩より以上のみ。

物産は、稻、綿、小麥、玉蜀黍、藍等にして、尼羅河畔肥沃の地に種藝す。重もなる輸出品は、綿、穀物等なり。

奴比亞は、國の西北沿岸に在り。その大半は、瘠土にして穀菜を生せず。只尼羅河畔の地のみ肥美なり。首府とカーツームといふ。隊商集會の場處に供せらる。

* * * * * *

亞比西尼亞は、奴比亞の東南に在り。面積十二萬八千六百八十四方哩。國内山嶽多けれども、灌漑の便宜しきを以て、美田彌望、農産物に富み、穀類、烟草、ヅーラ黍の甘蔗、藍等を藝う。珈琲は自然に生長し、護謨と共に主要の輸出品たり。或る地方に於ては、食糧を貨幣に用ゆ。山間の者は牧畜を業とす。野獸にはジラッフあり。

人口凡そ三百萬。白人、黑人等より成る。白人その大半を占むれども、性殘忍にして戰鬪を好み、通商、又は製造の事を知らず。政體は君主獨裁なり。首府をゴンダーといふ。

第三節　北部亞非利加即ち巴巴黎諸國

附撒合拉

フローレンスの西方に當りてピザあり。地味豐沃なるアルノ川の下流沿岸を傳ふて、二時間許にして達すべし。

フローレンスを出づれば、山は深うなり、路は遠くなりて、水聲いづれにか隱れぬ、汽車は折節小暗き隧道に出つ入つして、乘客の顏はや〻鼠色を帶び來りぬ。やがてして山頂に達するに茶屋あり乘客爭ふて食を貪り、われ等の如き異國人は、麥酒一椀すら飲むことを得ざりし、ボロンナに至りて再生の思をなせり。伊太利の夏の旅は、通なる人のすべきものにあらず。

ボロンナ

フローレンスより八十四哩許北方に在り。伊太利最古の市の一にして、アペナイン山脈の盡くる所に位す。

ボロンナに於て先づ第一に見るべきはヴイクトリオエマニユエレ宮にして、是に對してコムナーレ宮あり。前者は千八百八十六年の建築にて、其内部には鮮畫多し。後者は千二百九十年の建築にてマドンナの像を以て知らる。又此附近にポデスタ宮あり。其前面には有名なる泉あり、池水の中央にはジハンの作海神の銅像あり。

ペトロニオ寺院は、若しも原圖のまゝにて建築せられなば世界最大の教會たりしものならむ。伊太利、ゴス等の式を用ひ、大門三あり。此寺院に於てカール五世は獨逸帝の戴冠式を擧げたり。

此寺院の左側にはアルキギナシオといふ建物あり。こは元は大學なりしが、今は古物陳列所に當てられ、三百年前の鮮畫、埃及の古物、二十餘萬部の書籍を藏す。

これより左方に行けば、國立銀行、ドメニコ教會、ピートロ教會あり。

紀念物陳列所の大なるはカムポサントにして、こゝよりサンルカ、ボスコ等の諸寺院を眺め得べし美術館の繪畫部にはボロンナ派の名畫多し、アルバニーのマリ

（甲）巴巴黎諸國

巴巴黎諸國は、亞非利加の北部に在り。東は埃及に界し、南は撒合拉に隣り、西南は地中海に面す。面積百一萬五千百三十五方哩。モロッコ。アルゼリア。チユニス。トリポリ。バーカの五國に別つ。

住民は、巴巴黎人、亞剌伯人、ムーア人の三種あり。巴巴黎人は、モロッコ、及びアルゼリアの山地に住み、農業に從事す。巴巴黎なる名は、此の種族をバーバースと稱するより起れるなり。亞剌伯人は、平原に住みて、牧蓄に從事し、名馬羊毛を出すを以て知らる。ムーア人は、都會に住みて、商業製造に從事す。モロッコなる名は此の種族より起れるなり。

重もなる輸出品は、穀類、巢、巴旦杏、蠟、蜂蜜、家畜、柔皮なり。隊商遠く撒合拉の沙漠を渡りて洲の中央部に至り、本綿、及びその他の製造品を以て、同地の護謨、象牙、金、駝鳥の羽毛と交易す。

* * * * * * *

モロッコは、面積三十一萬三千五百方哩。人口五百萬。五國の中の最も西に位する獨立國にして、支丹、即ち帝、之に君臨し、生殺與奪の權、一にその手裏に在り。住民は、蒙昧にして、開明に進むことを知らず。物産は富まざるにあらざるも、商業發達せず。首府を亦モロッコといふ。アエズは、赤帽製造を以て名あり。

* * * * * * *

アルゼリアは、モロッコの東に在り。西はチユニスに界す。面積十二萬二千九百十方哩。佛蘭西に屬す。人口三百八十一萬七千四百六十五。

此の國は、もと海賊の巢窟にして、その海城は、地中海に出沒し、商船を惱ませ、商業社會の頗る忌み擯るゝ所たりしが、一千八百三十年（我が天保元年庚寅）佛國の有に歸してより、同國屬地のもつとも緊要なるものとはなりぬ。首府をアルジールスといふ。主要の海港たり。

* * * * * * *

アルゼリアの東北に當りて、地中海に突出し、半島狀を爲す所の一小國あり。之をチユニスといふ。西南はトリポリに界し、東北西の三面は海に望ひ。面積四萬四千九百二十方哩。人口凡そ百五十萬。名は土耳其の屬國たるも、其の實は、佛蘭西の屬國と稱して不可なきに似たり。

首府を亦チユニスといふ。人口十四萬五千。巴巴黎州第一の大都會にして、絹、毛布の製造盛んなり。

ア、レニーの慘殺（傑作なり）、フランシテの耶蘇の遺躰、ラファエルのセンソア等逸品なるものなり。又此以外に於て繪畫を陳列したるは、ザムボニーのルイギザムボニー教會なるべし。

ボロンナには高塔多し。就中古色を帶びたるは、アシチリー塔（千百九年）及びガリゼンダなり。前者は三百二十呎、楷段四百五十、後者は千百十年の建立にて百六十三呎なり。最後にボロンナの地に關して記すべきは、古來此地より多くの羅馬法王を出し、又博物學者ガルヴアニ、アルドロヴアンヂ、天文家マルングリ、畫家ギオド、ドメニキオ、アルバノ、ミカラッキも此に生れたると是なり。

ヴエニス

地中海の一部分が殆んど伊太利全國の面積と同じき程細長く希臘、伊太利の間を通じて、「アドリアチック」と稱し、遠く北方に入り墺、以の境界に近き以傾に至往昔加爾達額と名くる大國あり。今のチユニス近傍に在り。その版圖は、ジブラルタル海峽より、シーレンの境に跨り、西部地中海の商權を握りて、西々里、撒丁、コルシカ、西班牙に屬地を有し、貿易もつとも繁盛を極め、工業亦發達して、文化の度は、其の頃の羅馬より上に位せり。

政體は、共和政治（寡人政治）にして、政權、貴族の手に在り。高等官は、皆貴族の撰ぶ所にして、任期を一年と爲し、凡て俸給を有せず。主宰官は、二名ありて、サッフエッツ（Suffetes）と名く。サッフエッツとは、裁判官の義なるべしといへり。案ずるに、彼のヘブリウ國の士師（舊約全書に詳なり）と略々性質を同ふせしものならん。元老院議官は、三百名ありて、羅馬の元老院議官（伊太利の部參看）と其の組織能く相似たり。參事官は、一百名より成れる終身官にして、至大の權力を有し、殆んど主權者の如し。

此の加爾達額の起原を尋ねるに、今を距ること凡そ二千八百年前、即ち我が神代の頃、タイア王ベラス（Belus）の妹ダイド、又エリッサ（Dido, or Elissa）なるものあり。ヘルキユリスの僧シケアス（Sicheaeus）と合巹の禮を擧ぐ。タイアの嗣王ピグマリオン（Pigmalion）、シケアスが巨萬の富を累ぬるを見て、惡意を生じ、之を殺

りて「ヴエニス」灣となる、此處に一小市あり「ヴエニス」と云ふ、二百二十二箇の石門を以て、幅五間の汽車道を支へ、本陸に通ずる三英里、大小百十七の島嶼、水を出る僅かに尺餘、全市悉く此上に築き、四百の橋梁と、百五十の水路によりて交通す、海上の浮市として世に其名高く、全島を合せて僅かに長さ二十五哩、幅九哩、人口十三萬を有する一小市に過ぎざるも、四時諸國の旅客を惹く此市の如きは、蓋し世界唯一の場所たる可し。此市のある「ヴエニス」州の舊き歴史を尋ぬれば、遠く千年の昔にありて、少數なる「ヴエニチアン」人種が他邦人に追ひ惡くして、禍を避け逃げ來りしに始まれり。當時小邦分立の頃、又一邦として屢々戰亂の渦中に投じ、土耳古人に攻められ、墺國に合併し、後降りて奈翁に苦められ、數多の時代を經て、終に現伊太利王國に屬することゝなれり十五世紀の始めは「ヴエニス」全盛の時代にして、其の富を奪へり。ダイドは、最愛の所天がピグマリオンの爲めに、非業の死を遂げたるを見て憤懣に堪へず。嗣王と天地を同ふするを厭ふの心より、西曆紀元前八百六十九年（我が神代）を以て、タイア人若干名を隨へて、亞非利加の北岸に航し、一部の地を購ひて茲に城を築く。之をビルサと名く。是れ加爾達額の起原なり。

爾來土地漸く擴がり、人口漸く加はりしが、偶々モーリタニア王ヤーバス（Iarbas）、ダイドに想を懸けて婚を求めしとき、之を拒絶しければ、王は大に怒りて、侵伐せんと脅かし、ダイド恐れて更らに熟考の爲めに三ヶ月の猶豫を乞ひ、その期内に薪堆を設け、その上に登りて、臣民の目前に自殺せり。

〔羅馬の詩人ヴアージル（Virgil）、オヴヰッド（Ovid）の說に據れば、ダイド深くイーチアス（伊太利の部參看）に想を懸けしに、イーチアスは其の地を去りければ、失望の極、遂に及に伏せりといふ。孰れか眞なるを知らず。〕

爾來加爾達額人は、漸く近隣を蠶食して版圖を擴げ、亞非利加の北岸、地中海に沿ふて、シーレンより大西洋に達せり。又バレアリック群島（地中海に在り）及び撒丁を征服し、西々里の北岸に殖民を爲せり。

二十萬の人口を有し、三百の商船、四十五隻の艦隊と、一萬一千の船員を以て、一時東歐貿易の要所として知られしも、同世紀の尖に土耳其人が「コンスタンチノープル」を奪ふに至りて、邦勢振はず、降りて十八世紀の初めより渡く歐洲の政史に遠ざかり、僅かに北部以太利の小部分を守りて、世上の風波に逢はざりしが十八世紀の末後に至り、佛國革命の起るありて、「ポナパート」の同盟を申込むに當り、堅く取りて動かざるのみか、佛國の新政略に反對して局外中立を守りしかば、勝誇りたる佛國忽ち之を併呑せしも、故ありて墺國に讓り。後墺、伊の兩國に合併せらるゝこと兩三度にして、全く現以太利領となりしは最近千八百六十六年以後にあり、市街は長二哩、巾三十間餘の大水路を以て、殆んど同じ大さに等分し、華麗なる樓屋を有する「リアルト」橋と、他に二箇の跳橋を架し、四百の橋梁は此大水路より分かるゝ小水路に架して、一種古風なる「ゴンドラ」船にて交通の便に供し、全市悉く大理、花崗又はイストリア石等を敷き詰め、或一小部分を除くの外、全く車馬を用ゆ可き街路なし、その人道と稱する所は僅かに家の檐下、水邊、及路次にして、市中重立ちたる家屋のある所は、前後側面皆水路なり、されば家は全く水中より突出したるかの如く見へて、頗ぶる奇觀なり、全市多くは造船業に從事し、以國の軍艦、商船中此處に進水せしもの多し、產物は諸國より入り込み來たる見物人に賣込む可き、レース、絹物、寫眞、硝子細工等なり、硝子細工の巧みにして、他國人の及ばざる一種の滑色を含まするは、此地附近の特有にして、其名廣く聞ゆ、硝子細工は如何なる細密なるものにても器械を用ひて、恰も飴細工の如とく硝子管を吹いて形を造り、之れに手工を施すのみ、其製造場は政府の監督にかゝる、レース製造場と共に衆庶の觀覽に供す、市

加爾達額人は、商業的人民にして、企業心に富み、其の船舶は、地中海より大西洋に至るまでの航路を往復して、西亞非利加の沿岸、及び西班牙と有無を通じ、大不列顛島と貿易を爲したることもありしといへり。

是時に當りて、羅馬人は、四隣を蠶食して、威を伊太利部内に震ふといへども、首を擧げて前途を觀れば、伊太利の南端より僅に一葦帶水を隔てゝ強大なる加爾達額國あり。羅馬の日に旺盛に赴くを視て竊かに猜忌の念を生じ、百方之に妨碍を加へんとせり。羅馬人亦之を怒らざるにあらざるも、加爾達額が海軍の精鋭なる固より羅馬の比にあらず。加ふるに、施治者の地位に在る貴族は、各國より募りたる多衆の饒勇なる傭兵を有して、其の勢ひ當るべからず。是を以て暫らく憤を忍びて、其好意を買へり。然れども、兩國の間に早晩破裂を生ずべきは識者の夙に認むる所なりき。

果せるかな、紀元前二百六十四年我が人皇第七代孝靈天皇の第二十七年丁酉遂に破裂を生じたり。之を第一ピユニック戰といふ。其の詳細は姑らく畧き、此の戰は、羅馬の勝利を以て其の局を結べり。

此の戰に壯觀を加へたるは、羅馬のレギユラス(Regulus)、加爾達額のハミルカー(Hamilcar)を最とす。レギユラスは、身を以て國に殉し、神色自若として屠所に赴き、欣然として無上の慘刑を蒙むる。其の剛膽、義俠、誠忠、千載の下、猶人をして忻慕せしむ。ハミルカーは、外敵羅馬の跋扈を憤り、會稽の恥を雪ぐの意を決して、必成の手段を求め、幼兒ハンニバル(Hannibal)に神廟に誓はしめて、百歲の後に備ふ。誠忠、智略、遠謀、他人の遠く及ばざる所なり。

爾來凡そ二十四年の間は、先づ何事もなかりしが、紀元前二百十八年我が人皇第七代孝靈天皇の第七十三年癸未に至りて、復た第二ピユニック戰起れり。此の戰に、加爾達額に於ては、不世出の英傑ハンニバル、神出鬼沒、奇を運らし、巧を奮ひて、一時非常の功を奏したりといへども、羅馬にも亦伯仲の名將シピオ(Scipio)ありて、能く其の鋒を制し、天運の然らしむるところ、殆んど加爾達額を滅せり。

ハンニバルは、加爾達額空前絕後の儁傑にして、古今第一流の人物と稱すべく、其の飈舉電發、ピリニース山を超え、ローン河を渡り、亞爾伯山の絕頂を橫斷して、敵の意表に出でたるが如き、千辛萬苦の其間に、麾下一人も暴動を企つる者なかりしが如き、推して以て其の異常の人たるを察すべし。惜かな、時

街は小なりと雖も敢世紀の間戰亂に逢ひしことゝて、恰も羅馬又は歐洲の古市に住々見る所の如き城壁を以て、市街を圍繞す、又砂堤、木杭、イストリア石等を以て、高三丈、幅五丈の强壁を以て外海よりの潮勢を防げども、春冬の際、東風吹き續かば、平素僅かに水上に出で居る人道さへも、海水數尺の高さに及び、「ゴンドラ」船を以て往返するに至る。四方より多くの遊客來ること年中絶間なければ、店舗も中々繁昌し、汽船、汽車、銀行諸會社、郵便電信局、警察署を始めとし、湯屋、酒屋、咖啡店等一として備はらざるなく、各國の領事館もあり、旅館の如きも可なり整頓せり、「クエニース」劇場は以國三大の一にして、觀客三千を容るゝに足ると雖ども開くこと稀なり、場所に不似合に大なればなり。旅館の如きは古建築にかゝるもの多きを以て、天井頗る高く、併も寄木又は我國神社佛閣に能く見ゆる如く、四角の巨材を以て

利あらず。雖逝かず。胸に孫吳の兵法を蓄へ、良平の智謀を懷きつゝ、兵敗れ、身亡びて、怨を呑んで死したりといへども、人の智愚、才不才は、成敗に由りて、之をトすべきにあらず。

シピオに至りては、沈勇深慮、能く勁敵に勝ちて國威を宇内に輝かす。亦是れ羅馬第一流の人物なり。

爾來凡そ五十二年を距てゝ、又第三ピユニック戰起れり。第三ピユニック戰は、紀元前百四十九年我が人皇第九代開化天皇の第九年壬辰に始まりて、同百四十六年我が同上。第十二年乙未に終る。其の間前後凡そ四年にして、加爾達額全く滅亡し、世界の地圖上に其の痕迹を絶てり。

第三ピユニック戰に於ては、敗餘の羸國固より富强の大國に敵すべきにあらず。然れども、志士が愛國の衷情に至りては、路易大王（Louis the Grand）が配下の强佛民に優れり。小シピオ（Scipio the Younger）戰勝ちて、ホーマーのトロイ滅亡の哀歌を吟じ、盛者必滅の理を察して遙かに羅馬の他日あるを悲む。何ぞ其の志の優なるや。

＊　＊　＊　＊　＊

トリポリは、巴巴黎諸州の最も東に位するものにして、土耳其に屬す。面積三十九萬九千方哩。人口凡そ百零一萬。シーレン、バレア、

碁盤の目の如く組みて、細密なる彩色、彫刻をなし、其外部屋の戸、椅子、戸柳寢床等家財道具總て近世のもの、如く、無暗に「ペンキ」を塗らずして、木目を現はして彫刻をなしたる所抔、中々古風床かしく、倫敦、巴里を過ぎて茲に來らば旅客一種異樣の感に打たるべく、市中百餘の寺院及殿堂、博物館等に至らば小なりと雖ども其昔一ト度は共和國として世に立ちしの跡は歴々として見るを得べく、「ジエニチアン」派の美術に於ける精粹は、殆んど悉く此市に集り居れり、氣候は三十七度より七十七度の間を昇降し、至りて溫和なり、此市の如く精良なる空氣を有し居る市街は世界其比を見ざる可し、如何となれば本土を離ること三哩、全市海上に築かれ、水路を以て街路となし、僅かに殘る人道は悉く石を敷きわたして、塵埃の立つことなければなり。

全島日夜梵鐘の音高く、一幅の水彩畫にトレマイス、アポロニア、ベンガジ等の古蹟ありて、杖を曳く者をして頗る興味を覺えしむ。首府を亦トリポリといふ。

バーカ、及びフエザンは、此の國の屬地なり。

（乙）撒合拉即ち大沙漠

撒合拉は、北部亞非利加と中部亞非利加との間に在り。世界第一の大沙漠にして、大約本洲の五分の一を占め、歐羅巴と殆んと其の大さを均しくす。渺漠たる沙洋にして、年中一滴の降雨なく、地球上熱氣もつとも甚しき場所なり。時にサイムーンと名くる炎風沙塵を飛せば、天地も爲めに晦きことあり。又時に一望千里の地、毫も道標とすべきものなく、單に道路に散在する駱駝若くば人の骨に賴りて沙漠を渡るを得ることあり。此の白骨は、旅中に喉渴き、或は病に罹り、又は沙風に逢ふて死亡したる隊商若くば駱駝の白骨なり。沙漠を渡るには、駱駝の助を假らざるを得ず。故に此の獸を稱してオエシス（Oases）と名くる處あり。沙漠中の肥沃なる地にして、椰樹繁茂し、旅客に食物と樹蔭とを與ふ。又清泉あり、以て渴を濟すべし。

似たる淡青にして緩かに流る、水路に響を傳へ、鐵路車馬轟々の聲なき、此靜かなる仙寰に宿るものをして、時ならざるに眠りを覺さしむること多く、殊に月明かに星稀なるの夜、欄に倚り金波に響き渡る鐘聲を聞かば、萬感蝟集、爲めに天涯の旅客をして愁ひを催さしめ又詩歌の嘯みあらんものは、名吟秀句立ぞろに成る可し。

市街の重なる部分は大水路の左右にあり水路の最も廣き所は幅三十五間餘、セイント、マーク廣庭に於ける鐘樓は高三百二十二尺、西曆八百十八年に起工し、夫れより四百四十一年を經て再び工事に取掛り、又八十八年を經て大理石を以て上層を築き、更に金色眩ゆき高さ一丈六尺の女神の立像を立て全部落成せしは、起工より六百二十九年後なる、十六世紀の尖ばなり、一名に付我三錢を取立て衆庶の爲めに毎日開く、最上層には出火番人望遠鏡を以て用心し居れり、若し夫れ天晴れ氣朗らかなるの日、之れに登らば海上に築かれたる「ヴエニス」全市を見下ろすのみならず、淡青なる「アドリアチック」海、及其海岸より兀として聳へたる「イストリア」、又遠く高き「アルプス」の連山を雲影模糊の間に眺め、風景壯絶、而して最も奇異なるは、此高塔に登り、大小百五十の水路を有する「ヴエニス」の市街を見下ろし、只一水路を見るのみにして、他の百四十九水路は家に隱れて見へざるの一事なり、登塔の好時刻は早朝か、又は暮色蒼然たる頃にあり。

「ヴエニス」特有の小舟は「ゴンドラ」と稱し、乃ち他の都市に於ける馬車に代用するものなり、此小舟の客待所は、大なる「ホテル」の附近又は家なき廣場の水路に面したる所にあり、形は同じけれども大小二樣あり、六名乃至八名を容るるに足る、何れも黑塗りにて船体細長、低く輕く黑色皮製の腰掛けあり低き屋根ありて前面及左右に窓を有し金色の飾り物あり

撒合拉の住民は、その數甚少なく、駱駝を牽きて、オエシスよりオエシスに往復し、隊商の財貨を掠奪するを業とす。

第四節　中部亞非利加

中部亞非利加とは、撒合拉の南に始まり、赤道を超えて其の南方、南亞非利加に至る迄の一圓の地をいふ。之を別ちて蘇丹、コンゴ等と爲す。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

蘇丹は、撒合控の南に在り。東は埃及に界し、西はセネガムビアに隣り、南はギニー、及びエシオピア（コンゴ自由國）に接す。別ちてボルヌー、ハウッサ、バムバラ等の諸國と爲す。ボルヌーは中央より、稍東に位し、チアッド湖畔に在り。一箇の獨立國にして、君主、政を專にす。面積五萬方哩。人口五百萬あり。ハウッサは中央に位し、バムバラは西部に位す。

蘇丹の地は、炎熱熾くが如しといへども、地味膏腴にして、降雨の量多く、物産に乏しからず。彼の隊商が大沙漠を渡り、危險を冒して此の地に旅するも、畢竟此物産を得んが爲めなり。

蘇丹の住民は、皆黑人なれども、水草を追ふの風なくして一處に安

じ、野蠻中の稍々開明に近きものなり。

ナイゼル河は、源を北の方、コンゴ山に發し、南流して國の南端に至り、復た北流してギニーを過ぎて大西洋に入る。國中第一の大河なり。又チアッドは國の東北に在り。是れ亦この國の第一の大湖なり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

コンゴ自由國は、赤道の南北に在り。コンゴ河、即ちリヴ非ングストン河の南北に跨れる地方をいふ。面積凡そ一百萬方哩。地味膏腴にして、椰子油、護謨、蘇木を産す。護謨殊に多し。又象牙の名産あり。

此の地は、固より禽獸に近き野蠻人の巢窟なれども、歐羅巴の列强及び北米合衆國は、我が明治十七年、乃至十八年を以て、その獨立を認め、その條項として自由貿易の主義を守るべきを以てせり。

土人は、黑色人種に屬し、中には、人を食ふものありといふ。

第五節　西部亞非利加

西部亞非利加は、綠樹重陰の地にして、氣候極めて暑く、往々外人の死亡を免かれ難き場處あり。然れども、その海岸は、健康を害す

屋根の全部は黒色の切地を以て掩ひ、長く後へ垂れしめたる所、一見我國維新前の轎に於ける舸、又は洋風の葬式馬車を、舟の中部に乘せたる如く、一名又は二名の舟子黒服にて、然かもズボンは至つて細く我國の股引の如きものを着し、櫓を船の側面上部の格子に當て、櫓聲輕く掛け聲をなして漕ぎ行く所、風雅言ん方なし、此舟の起りは十一世紀の終りにありて、黒色に塗りしは十五世紀に於ける或法律によりて定められたるなりと聞く、賃錢は人數、晝夜、水路の遠近等によりて差違はあれど、六人乘、一名舟子一時間一「フランク」にて其後は一時間毎に半「フランク」を加ふ、又は一日十時間六「フランク」の約束にて買切るを得可し。

「セイント、マーク」廣庭は「ヴェニス」市の心髓にして、此地の街き歴史は皆此處より生じ來りしなり、廣庭は「セイント、マーク」伽藍の正面にあり、長さ百〇五間、幅は伽藍のある所五十間にして、庭の盡くる所三十間餘、悉く大理石及白色イストリア石を以て敷き詰め、伽藍に向ひたる三面は「ヴェニス」市中最舊く、又最も價ひある建築なり、伽藍に對して右方なる二層三層は、現國王の離宮にして、下層は店舗なり、左方は故事來歷多き建物にして、今や皆、店舗に用ひらる之れ等の家屋は悉く非常の價を有する大理石を以て築かれあれども、數多の時代を經し爲め、一種言ふ可らざる古色を帶びて、外見大理石とは見へす、此廣庭に於て夏期には夜間冬期には午後に、毎週三度づゝ、陸軍樂隊の奏樂ありて、男女老幼集まり樂む、人之を屋根なき坐敷と稱す、鳩あり數萬羽群集の間に飛下す、聖鳥として人之を傷けざるが爲め、只に群集せる人間を恐れざるのみならず。帽や肩に飛び來り、餌を求むる樣可憐なり、紙片を持居る人あらば、數千羽其人の身邊を取巻き離れず、之れ紙片は豆を入れたる袋と、何時の代よりか心得居るが故

ること甚しきに至らざるを以て、英、佛、葡の諸國茲に殖民地を有せり。

土人は、黒色人種にして、性殘忍に、且つ戰鬪を好む。然れども簡易なる製造術を知り、又牧畜農耕に從事し、歐洲の商人と貿易を營み、己れ等の椰子油、護謨、象牙、金砂等を以て、彼れ等の銃砲、小刀、火酒等に代ふ。

* * * * * *

西部亞非利加の大半を概稱してギニーといふ。赤道の南北に跨る。別ちて上ギニー、及び下ギニーと爲す。北に在るを上ギニーといひ南に在るを下ギニーといふ。

上ギニーの西南海岸にリベリアあり。面積五萬二千九百十七方哩、人口百六萬八千。黒人の獨立共和國にして、我が文政三年庚寅（西暦一八二〇年）米國殖民協會の助に依り、解放の奴隷の建設したるものなり。而して我が弘化四年丁未（西暦一八四七年）歐洲列强、及び北米合衆國の爲めに其の獨立を認められ、爾來人口漸く增加し、文化また日進の勢ひあり。

首府をモンロヴヰアといふ。當時合衆國の大統領たりしジエームス、モンルー(James Monroe)の姓を取りて斯くは名けたるなり。

* * * * * *

リベリアの北にセチガムビアあり。セチガル、及びガムビアの兩大河あるを以て此の名を得たり。獨立黒人の占むるところにして、其の海岸は、英、佛、葡の殖民地なり。英の殖民地をシラレオチといふ。奴隷賣買を禁ずるが爲めに設けたる所にして、奴隷船の海中を通行するものを捕へて、其の奴隷を解放し、之が避難所に充つるなり。首府をフリータウンと名く。

* * * * * *

リベリアの東にアシヤンチーと名くる部落あり。首府をクーマシーといふ。土人殺伐を好みて、戰鬪斷えず。

* * * * * *

その東隣にダホミー國あり。殘忍苛刻なる獨立の君主を戴く。君主の誕辰に數多の奴隷を屠りて之を祝するといふ。推して以て其の風俗の野蠻なるを察すべし。首府をアボミーと名く。

* * * * * *

下ギニーには、葡萄牙の領地多し。奴隷の賣買盛なり。又各地に、人肉を屠りて、市に鬻ぐ場處あり。

なり、又此市の犬は悉く口に輪を箝し居れり、蓋し鳩を偽けしめざる爲めならん東西國を異にするも、恰も我國宮島の鹿と趣を同ふす、此多くの鳩は中世迄は公費を以て飼養せしも、其以降は只市人及諸國より寄り集ふ參詣人の慈善によりて生育す。

「セイント、マーク」伽藍は「ヴエニス」市の靈場にして、建立の起原は遠く西暦八百二十九年にあり、九百七十六年の大火後再建し、十一、二世紀に及び、多くの費用と勞力を以て修築を加へ、夫れより幾多の世變に逢ひつゝ、今日に至る。敷地は希臘十字の形に造り、場大部は長四十二間、幅二十八間あり、中央に大圓塔あり左右前後に又數箇の小圓塔あり、建築は各色大理石、イストリア石を以てし、後部に間々煉瓦を以て修繕せし所あるは近世の工事と見ゆ堂の内外大小大理石の柱を用ゆること其數五百に餘る。裝飾は内外共に大理石の彫刻、銅像と、五彩燦爛たる繪畫を以てす、目に映ずる所、柱と云ひ壁と云ひ、天井と云ひ、悉く是れ十世紀より十六世記間に於ける美術の標本たらざるはなし、堂前に三本の巨大なる彩色したる旗柱あり、東歐の戰亂小邦の紛爭、多くは世波に漂ひし頃、嘗て之に共和の旗を飜へせしことあり、今は日曜及祭日に現國王の旗を掲ぐ、此伽藍に四馬の置物あり、高さ五尺の錢銅にして得難き逸作なりとて、古代美術の標本として、嘗て羅馬に於ける多くの「アーチ」を飾りしことあり、「コンスタンチーン」之を「コンスタンチノープル」に移し、後「ダッジ」「ヴエニス」に持歸りたりと云ふは、千二百年代の頃と覺ゆ、後殆ど六百年を經て奈翁一世之を奪ふて巴里に持行きしも、間もなく奈翁の失敗となり、一千八百十五年、又も此古代の名作たる四頭の錢銅馬は、「セント、マーク」伽藍の置物となれり、堂内の寶物は毎年「イースター」日に一度開いて、衆庶の縱覽を許

第六節　南部亞非利加

南部亞非利加は、概ね英國の屬地たり。而して此の英國の屬地を大別してケープ、コロニー。其領ホフラリア、及びナタル等と爲す。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

ケープ、コロニーは、南部亞非利加の南端に在り。東南西の三面、印度洋、及び大西洋に臨む。氣候溫和にして土地肥沃に、葡萄、烟草等を產し、又羊毛の名產あり。又金剛石、駝鳥の羽等を輸出す。駝鳥は、人工に由りて、その卵を孵し、之を養ふ者少なからず。此の地は、我が日本國と殆んとその緯度を同ふし、而して南北を異にするが故に、我れの夏は彼れの冬に當り。彼れの夏は我れの冬に當るなり。

住民は、英人、蘭人多く、又カフル種族、ホッテントッツ種族あり。カフル種族は、强壯にして脊高く、ホッテントッツ種族は、短小なり。

首府をケープ、タウンといふ。人口凡そ五萬。卓子山の麓に位す。市街に鐵道、園囿、瓦斯燈などの設けありて、宛ながら歐洲の都會に髣髴たり。第二、第三の都會をキムバーレー、及びエリザベス港

といふ。キムバーレーは人口凡そ二萬八千。エリザベス港は、人口凡そ二萬三千あり。

喜望峰は、ケープ、コロニーの西南端に在り。風光の佳絶なる、名實、相稱へりといふべし。オレンジ河は、國の北境を流るる大河なり。雪山は國の中央を東西に橫斷す。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

カラフリアは、ケープ、コロニーの西に在り。獨立國と稱すといへども、只虛名のみ。其の東にナタルあり。その西北にオレンジ自由國あり。面積四萬一千四百八十四方哩、人口二十萬七千五百三。和蘭移住民の建てたる國にして、共和政治たり。鑛物に富み、農業を專とす。首府をブローム、フアウンテーンといふ。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

オレンジ自由國の北は、則ち輓近英杜戰爭を以て有名なるトランスヴアール共和國なり。面積十一萬三千六百方哩。人口六十七萬九千二百。亦蘭人の建設に係る。一時、英國の屬地たり。其の後獨立國となりしが、今又再び獅子王の餌に供せられんとす。優勝劣敗は自然の定則といふといへども、抑も亦天道是か非かの歎なき能はざるなり。

し、其外は毎日十二時より二時の間を限り些少の觀覽料を取りて見物せしむ。東歐古代歷史の資料頗る多し、伽藍の北側に降りて時計臺あり、高さ百尺十五世紀に於ける當時の名工によりて作らる、時間は羅馬字と、古記に於ける獸類の鬪樣によりて指示せらる、巨人の銅像二個ありて、時間毎に鐵槌を以て鐘を打つ、其建築彩色の異樣なるを以て直に旅客の意を惹く、伽藍に斜に向ひて離宮の一部たる書籍館は、十六世紀に於ける建築の、以國に現存する最美の一として名高く、屋上の立像數多き二重の圓柱、屋外の彫刻一として建築家、美術家の材料たらざるはなし、前面に於ける花崗石の石標二箇は、十二世紀の終り「シリア」より持來りて建てしものにて、一は「セオドーア」の立像と、一は巨大なる羽翼を有する猛獅の置物あり。此附近は今や群集遊樂の場たりと雖ども、嘗て戰國の世、多く政治上の罪人を死刑に處して血を流し、時人を戰慄せしめし所なり、廣庭を隔て、書籍館に面し、伽藍より南の方側面大水路に至る宮殿は。「ヴェニス」開山の祖たる「ダッジ」第一世が、西暦八百十四年に建築したる所にして、時の政廳亦茲にありしなり、後五度の火災に罹りて改築し、十四世紀に於て西側を造り、十五世紀に於て南面を建て、「セント、マーク」伽藍を一方に取り、中庭を殘して茲に三面の大厦成る、三棟共に間口各々四十二間餘あり、外面は種々の色合を含みたる無數の大理石を組み合せ、下層に七十一と上層に三十六の大なる圓柱ありて、百七の「アーチ」を支ふ、何れも昔床しき唐草模樣、衣紋形、人獸の形狀等を彫刻して、色合濃厚に組立てたる所、歐洲稀れに見る所の古建築にして、美館なり、內部も悉く大理石を用ひ、廻廊の如きは巨大なる圓柱を以て之を支へ、多くの彫刻物あり、中に一と際目立つは、大なる「アダム」「イーブ」の像なり、宮殿內に博物

此國は黃金その他の鑛物を產す。首府をプレトリアといふ。住民はカフル種族多し。

オレンジ河以北、コンゴ自由國以南の地は、凡て蠻夷の巢窟なり。

第七節　東部亞非利加

東部亞非利加は、亞非利加東岸の地にして、印度洋に接し、北は亞丁灣より、南はデラゴア灣に至る。之を大別してソモーリー。ザンゲーバル（異人種の義なり）モザンビクの三國と爲す。各異の種族茲に住し。牧畜を業とする者十の八九に居れり。

* * * * * *

ソモーリーは、三國中の最も北に位するものなり。國內數十部に分たる。その地、乳香、沒藥に富む。

* * * * * *

ザンゲーバルは、ソモーリーの南に在り。月山、その東に連亘し、キリマンジャロの高峰、山脈の中央に屹立す。內地の種族は、獨立の黑人にして、常に爭鬪を事とし、海岸の種族は、亞剌伯の王族、ザンジバル支丹の統轄に歸す。支丹は、ザンジバル府に住す。此の府は、同名の小島に在り。此の國は、象牙、護謨、丁子に富みて、貿易は、多く印度、及び亞剌伯の商人の司る所たり。

* * * * * *

モザンビクには、葡萄牙の殖民地多し。首府を亦モザンビクといふ。葡國太守之に住す。物產は、象牙を第一と爲す。蠵龜多く、玳瑁の輸出おびたゞし。

第八節　亞非利加島嶼

亞非利加屬島のもつとも大なるものをマダガスカルといふ。モザンビク海峽を隔て、本洲の東南に在り。世界第三の大島なり。面積凡そ二十三萬方哩。英の本國に倍し、佛蘭西、又は獨逸よりも大なり。土地肥沃にして、多く米穀を產す。人口凡そ三百萬、乃至四百萬。數多の種族より成る。中に就て、最も勢力あるをホヴァ種族と爲す。イメリナと名くる、中央の高地に住す。首府をアンタナ、リヴヲといふ。人口凡そ十萬。政體は君主獨裁にして、國人概ね殘忍なり。

タマタヴは、此の國第一の港にして、首府より七日路程の處に在り。その他、モジャンガ。トリア。ブアラドフエー。マナンジャラ。

室、書籍室等あり、博物室部内に十六世紀以前に於ける名畫の粹を集めありしも、惜む可し千五百七十七年火を失して一朝烏有に歸し、今は其以後の畫伯たりし「チントレット」、「ジョバーン」、「ヴエロニース」等數氏の作を餘すのみなれども、尚以て世界の畫家をして嘆美措く能はざらしむ、歴史畫と聖畫を最も多しとす、博物室部内に於ける二十八間に、十四間の大廣間は、其昔「ヴエニチア」共和國の頃、文武の百官を集めて政議せし所なりと云ふ、天井の高さ五丈、二十一の大畫を以て天井と壁を蔽ひ、最大の畫は長さ十四間、幅五間以上に及ぶものあり畫と畫の間は極彩色をなしたる巨大なる彫刻の枠を以て之を隔つ室内に飾り付けある地球儀二箇徑一間以上もあらん何時の世に作りしや、垢しみ汚れて文字は讀む可からず、壁に畫ける大なる地圖は、「ヴエニチア」人が四方に遠征せし跡を現はし、「モーロ」によりて畫かれたる地圖マハノロ。ヴアトマンドリーの諸港あり。

* * * * * *

マダガスカルの東にモーリシアス、及びリウニオンの二島あり。甲は英國に屬し、乙は佛國に屬す。共に火山島にして、且つ屢々恐るべき颶風あり。

マデーラ島は、本洲の西北に在りて、葡國に屬し、酒類を以て名あり。

カナリー島は、又その南に在り。西班牙に屬す。彼のカナリヤと名くる鳥は、もと此の島より出でたるなり。

またセチガムビアの海岸を離れてヴエルデ島あり。

遠くその南方に當りてアッセンション島あり。

またその西南に當りて、有名なるセント、ヘレナ島あり。英國に屬す。拿破崙一世、晩年此の島に流され、怨を呑で死せり。先師が古戰場を過ぐるの時に云く。

白骨沈レ沙恨未レ平。英雄事業又何情。茫々烟草空原夕。月暗時聞鬼哭聲。

塵戰何年償ニ一軍。荒原今日只寒雲。凄風殘照行人絶。又見蒼鷹驅ニ雀群一。

噫、拿氏の終を全せざるは、用兵の罪なり。曾に天之を亡すのみには、近世の地理學上に多くの利益を與へたりと、時代は「コロンブス」が米陸を發見せし三十五年前にあり、聞說らく此室に於ける「チントレット」の樂園の畫は、世界最大の油畫なりと、或に然らん、倫敦、巴理に於ける多くの美術館及以太利の「ゼノア」、「ミラン」、「フローレンス」、羅馬、「チープルス」の諸都市に於ても、亦かゝる大畫を見受けず、彫刻室には多くの希臘、羅馬古代の大理石の作を集めあり、書籍室には三十六萬卷の書冊を備へて、公衆の縱覽に任す、九世紀より十一世紀に於ける古書の多き事は、世に多く其比を見ずと稱す、宮殿内には戰國の世に、多く政治上の罪人を幽囚せし所、拷問所、斬首所等あり、光明の通はざる石造にして僅かに食物を投入せし竇大の穴あるのみ、拷問室には我國の古代に用ひしと聞きし鐵製の責道具あり、斬首所及鮮血を流すに用ひしと稱する溝の如きは、今尚ほ鬼氣人を襲ふ、牢獄の一わらざるなり。

第五章　北亞米利加

第一節　總論

北亞米利加は、西半球の中央以北に在り。東は大西洋に臨み、西は太平洋に面ひ、北に北氷洋あり。南は巴拿馬の地峽を以て南亞米利加に連る。面積七百九十一萬七千二百三十八方哩。之を亞細亞に比ぶれば、二分の一弱に當り、歐羅巴に比ぶれば、二倍强に當る。人口九千五百三十六萬九千百十四あり。

本洲の大陸を大別して四部と爲す。(一)最北を加拿陀といふ。英國の所領たり。其の西北に少許の米領（合衆國の領地）を存す。アラスカと名く。又(二)加拿陀の南に接するを合衆國と爲す。本洲中のもつとも開けたる部分なり。(三)その南に、墨士哥あり。他部に卒先して開明に進みたる土地なれども、閑龍後の發見に次で、西班牙人の爲めに殘滅せられてより、元氣衰弱して、文武兩つながら復た振ふこと能はず。(四)本洲のもつとも南に位するを中部亞米利加と爲す。西半球の中央を占むるを以て此の名あり。別ちてグアテマラ、ホンヂー

部は今「ヴェニス」市の監獄たり。之を要するに「ヴェニス」市は、歐洲に漫遊するの旅客が見物するに於て、最も興味利益多き場所の一ならん、而も以國の北部にありて、瑞、佛、何れよりするも道程遠からず、最も便利なりとす。

ミラン

ミランは伊太利國中、最一の美街なり、その繁華羅馬の上に出で、地はロンバヂーの高原、オロノ川の清流に沿ふて、家屋櫛比す、其もとはゴール人の部落なりしが、其後羅馬人の有に歸し、(第五世紀頃)、爾來ゴール人の襲來すること屢にて、一盛一衰、ナポレオンの時代に至つて、一たび伊太利の首府と定められたれど、千八百五十九年に至つて、伊太利新王國の一部とはなりぬ。人口四十二萬六千餘市街整然たる、家屋の建築概して美術的なる、道に伊太利一等の都なり。大寺院は千三百八十六年を以て礎を敷かれ、爾來或は業を棄てられ、或は繼續せられ、ナポレオン第一世の時に至りて、漸く落成するを得たる白大理石の建築なり。奥行四百九十呎、間口二百九十八呎、塔の高三百六十呎、尖頭百〇六、背像二千餘、四千餘人を入るに足る、其内部に於ける重なる寶物には、聖アムブロゾ、カルロの等身大銀像、三百人の聖畫を緻密に刻したる三の窓、マリア婚禮の圖等にして、其他目を驚かす美術工藝品甚だ多けれども今は一々に錄さず、吾人は是等を見ぬ人は、いかに想像力强しと雖も、到底想像し及はざるを一言し置かむ。さて又其外部の彫鏤甚だ精緻なり。觀者は多少の金錢を拂へば其屋頂に登るを得べく、爰よりはヴイフ、センス等、雲に聳ゆる峻峰アルプスの環峰等を瞻望すべし。獨逸の詩宗ゲーテをはじめ、ユースステース、ストリート等の文家此に遊びて、詞を極めて激賞せり。

アムブロギオ寺院は、疇昔破壞したるバラス。サルヴアドル。ニカラガ。コスタリカ。及びベリーズの五國と爲す。初めの四國は、獨立英和國にして、終りの一國は英領たり。

ベリーズ一に英領ホンヂーラスと名く。

又島嶼には、東南に西印度諸島あり。東にニウ、フアウンドランドあり。グリーンランドは、歐羅巴のアイスランドと共に北氷洋の中に在りて、寒氣もつとも烈し。共に丁抹に屬す。

以上諸國の面積、人口、及び政體は左の如し。

國名	面積 方哩	人口 人	政體
合衆國	三五〇、一〇〇〇	六二九七、九七六六	共和政
墨士哥	七五、一四九四	一二〇八、〇七二五	共和政
加拿陀	三〇〇、〇〇〇〇	四八二、九四一一	―
グアテマラ	四、六八〇〇	一五一、〇三二六	共和政
ホンヂーラス	四、七〇九〇	四三、一九一七	共和政
サルヴアドル	七二二五	七八、〇四二六	共和政
ニカラガ	四、九五〇〇	三七、五〇〇〇	共和政
コスタリカ	二、三二三三	二六、二七〇〇	共和政
ハイチ	一、〇二〇四	九六、〇〇〇〇	共和政
英國ホンヂーラス	七五九二	三、一七四一	―

本洲は、亞細亞と同じく、熱中寒の三帶に跨り、殊に高山峻嶺相連れるを以て、各地の氣候同じからず。物産また異なり。今その重もなるものを擧れば、金、銀、穀類、烟草、綿、砂糖等なり。就中烟草は、他洲の人の夢にだも知らざりし昔より飲用せり。七面鳥も亦本洲より他に移したるものなりといふ。

本洲は、閻龍の發見以後始めて世に知られたれば、歐洲人、本洲と南亞米利加洲とを新世界と稱して、東大陸(舊世界)亞細亞。亞非利加。歐羅巴等と區別すれども、コハ只世間に知られたる日の新しきを以て新世界と稱する迄の事にして、閻龍の發見以前既に邦國を爲し、稍々開明の域に進み居りたることは、下文に記すところに據りて明かなり。

(勿論碩學ヘーゲル「Hegel」獨逸の哲學者なり。羽化生著「獨逸文學史」の中に傳あり。の說に據れは新世界は、その成立に於ても、新世界たるがごとし。左に彼れが筆に成りたる『歷史哲理講義』「Lectures on the Philosophy of History」中の一節を揭げん。

新世界といふは、亞米利加及び壕洲が、吾人に知らるゝ日の淺きによりて稱ふるところの名なれども、此の諸洲は、獨り發見上に於て新世界たるのみならず、其の物質的結搆より觀察する

ツカス宮の跡に建てられたる者にて、其礎石は十二世紀の初を以て敗かれたるならむ。内部にはフエラリーの鮮畫をはじめ、第十二世紀時代の鮮畫、依然として壁に鮮かなり。

此他有名なる教會にはアレキサンドロ、バロメオ、ロレンゾ、マリアデラグラジー寺院等なり。殊にマリア寺院には、ヴインシの畫きたる「最後の晩餐」あり。是れ古今の大傑作にして、觀る者自ら襟を正す。

ブレラといふ大建築は二部に分る。一部は美術品陳列所にて、他は科學部なり。油繪中重なる者はラフアエルが「マリアとヨセフの結婚」、ドメニキノの「耶蘇とマリアと約翰」、レニーの「彼得と保羅」等なり。

圖書を集めたるは、公開圖書館（三十萬部を藏す）と、アムブロシア圖書館なり。後者は伊太利中最も有名なるものにて、パピラスの書、其他古書十六万部余を藏す。

ス、將た精神的結搆より觀察するも、眞に新世界たるなり。請ふ之を說かん。

此の諸洲は、地理學上の關係に於て、一も舊世界たるを證すべきものなし。但し吾人は、世界創造の際に、此の諸洲が舊世界と時を同ふして海中より涌き出でたりといふことを否まず。然れども、南亞米利加と亞細亞との間に散在する群島（太平洋中に散布する大小數千の島嶼、即ち大洋洲をいふ。）は、物質的に於ても、不成熟の徵候を呈はし、島嶼の大半は、深淵より涌き出でたる巖面を土もて薄く覆ひたるがごとく、新成の徵歷然たり。濠洲も亦同じく不成熟の跡ありて、英領より遙かに內地に進むに從ひ、無數の溪流未だみづから水路を穿つ迄の度に發達せずして、沼中に沒するもの多し。……

（精神的探道の論に略す）

さて南北亞米利加に就て、吾人の知らざるべからざるは閣龍が發見の一事なり。

閣龍は、一千四百九十二年（我が明應元年壬子。即ち足利十代將軍義植の時。）總かに三艘の小舟と、百二十人の水夫とを率ゐて、渺漠たる大洋に航し、亞米利加發見の偉功を奏したる人なり。今その傳記を尋ぬるに、氏は名をクリストフアー（Christopher）といふ。同三十六年（我が永享八年丙辰即ち足利六代將軍義教の時。）伊太利國

す。

スカラ劇場は伊太利中第二の大劇場にて三千六百餘人を入るべし。大病院は十五世記の建築、城廓は嚴重なる建物にて、今は兵營にあてらる。公園は、ヴイットリオニマニユエル宮の傍にして、其宮殿內には近世鮮畫及び彫刻物多し。

ミランの地たる、管に美術品を以て優るのみならず、又絹物、リボン、陶器、手套の製造地として第一位に在り。さはれ其市中の紀念碑は、皆五世紀以後の者なり。是れ此頃を以て侵入したるゴス人が美術眼なきことゝて、當時存在せし、諸の紀念物を破壞したるが故なり。まことに遺憾なることゝもなり。

夜の巴里

巴里は玻璃なり、諸事硝子づくめの、奇麗事ばかりにして、別けて夜の景色の面白さ、見世など開け居る家の、內外に電燈花瓦斯を點して、賣子の多くは別嬪な

熱耶亞府に生る。その少時の經歷は詳かならざれど、父は同府在住の梳毛者なりしといへば、氏は貧家に人と爲りたること推して知るべし。されど猶學校に入りて普通の教育を受け。殊に天文學、地理學に腦漿を絞りたりといへり。

抑も伊太利の地たる、大氣極めて清朗にして、水天一色、藍青の如く、花卉馥郁として、人をして仙境に在るの念ひあらしむ。されば、老少、心あるも、心なきも、精神恍惚、徒に天地の美觀に醉ひて、懶惰に貴重の光陰を費すを常とす。獨りクリストフアーは、正反對の方針を執り、曩さに修め得たる少許の學識を基礎として、更に一層の學識を蓄へんと望み、先づ地圖を研究したりしより、切に世界經歷の志を起し、父に勸めて、共に海に航することも少なからず。

クリストフアー以爲らく『大地は必らず圓體ならん。而して大西洋に出で、限なく西に航せば、必らず亞細亞の東端に達すべし』と。是れ氏が發見の大功を遂げたる張本なり。

既にして成年に達しければ、船を地中海に浮べて葡萄牙に行き、暫らく其の首府リスボンに滯留せり。氏が伉儷を得たるは正さに此の時に在り。但し新婦は、伊太利出生の少女にして、故ありて鄕土を去り、葡都に移りたるものなり。』結婚の後は、地圖、及び海圖を

るも美くしく、往來より眺めては、金魚をフラスコに入れたらん如し、われはその景を見んとて、晩餐濟して後、宿を出で、電車に乘る。巴里には交通の機關、殘る所無く備りて、網の如く、縱に横に連りたる鐵路を、馬車の行くあり、電車の行くあり、其他空氣壓搾車、オートモビールなど、會社は各々異れども、一つ線路を連絡して、瞬時も轔々の聲絶ゆる間無く、車は大抵二階造にして一階目を上室に宛て、天井を二等とせり、一階は各車とも、巴里市中いづれの地にても、その會社の線路の許す限りは、賃三十文にして、天井は半額十五文なり、雨ならぬ日の天井は、しかも眺望快濶にして、風も涼しく、巷の賑はひを眼下に見ながら、目的の地に行かるゝのみか、直が半分といふ所から、安いに追ひつく不繁昌なく、いつも滿員の札を建てゐるぞ憎らし、この夜の馬車も天井裏に、チウ〳〵接吻の客を見ながら、日本ならば本郷と

作りて生計を營めり。されど、然る間も猶異郷を尋ね、奇跡を探らんと欲するの念、勃々として、みづから禁ずること能はず。只如何せん、身貧にして、宿望を貫くの資なければ、心ならずも臂を撫りて歳月を過せしが、かくて果つべきにあらざれば、意を決して葡萄牙王に謁し、船と金とを賜ふて發見の航海を補助せられんことを乞へり。然れども王は此の要求に應せず。自ら閣龍の意見を實行して發見の功を奪はんと欲し、竊かに一艘の船を送り出して發見を企てしめたり。

然れども閣氏の鐵腸ありて然る後始めて能く此の大目的を達することを得べし。無腸漢焉んぞ達するを得んや。王が發送せる水夫の一行は、一も爲すところなくして、悄々として歸り來れり。畢竟冒險の氣象に乏しく、只管鄕里に在りし時の安全に戀々たればなり。」されば閣龍は、自説の到底行なはれ難きを悟りて、斷然葡國を去れり。

さて氏は失望落膽の餘りに葡國を去りしが、是れより先き、妻は既に世に亡き人となりければ、嬰兒を携へて鄕里に歸りけるに、朋友故舊みな自家の業に忙はしくして氏の説を聞くに暇あらず。況して金を醵して未知地發見の擧を助けんなどゝいふは、夢にだも考へ及も云ふべき、學生區に入りぬ。こゝは博覽會には少しく遠く、車馬の響も左までには五月蠅からず、物價も高からず、研學の地には極めてよろし、前にはレキサンプルの美術館ありて、公園その四圍を繞り、綠樹紅花、四季の眼を飾れり。歸路二法を奮發して、大臣馬車に乘る、紺色の羅紗をもて粧飾せる、一頭車なり。これは一時間三四人迄にて專用し、定めの賃銀は一法半なるを酒代として五十文を與ふれば、馭者は高帽子を脱して、メルシイを唱ふるを常とす、その乘心地よき、俄に大臣に立身して、長安を乘り廻したるは廬生の夢、こゝは粟炊ぐ煩ひも無き、麵麭の名所なれば、アワ〳〵いふて飛下りる苦勞もなく、悠々たる日月天地長しと酒落ながら、車上にふかす實より、更かす夜毎の珈琲屋は、寄席やオペラの散ねてより、なは一入に賑はひ合ひて、いづくの店にも客足多く、入り交りたる地窩子の顔に、電燈の光はマンベンばざるところなれば、閣龍は、共に語るべからざるを察し、去つて更らに西班牙に向へり。

（ワシントン、アーヴヰング「Washington Irving」「閣龍傳」の著あり。合衆國有名の文人なり。）

曰く。閣龍が志の堅さや、此の際といへども、毫も屈撓せず。たとひ一身を危地に陷るゝも、宿望を空ふせざらんことを決せり。）

此の旅行の間に、一日父子共に飢え疲れて一歩も進み難く、或る寺院の傍に休息ひて一片の麵麭を乞へり。偶々通行の一老僧憫みて過分の食物を與へ、且つ父子が顔色の憔悴したる狀と其の欝々たるとを見て、「卿等は何者の果てにて、何の爲めに斯く流浪せらるゝや」と問ふ。閣龍、實を以て答へけるに、老僧聞きて感嘆措かず。閣龍に向て言へらく、「卿は眞に多く得難き賢人なり、イデ恐僧は、卿の爲めに一臂の力を添へん」。と言ひ畢るや否や、直に西班牙王（フエルナンド）に在り。後及び皇后（イサベラ）に見えて、閣龍より聞き取りたる、一伍一什を上聞に達し、あはれ、かゝる奇特の者を保護し給はれかしと願ひければ、兩陛下には早速其の所願を嘉納あらせられ、閣龍を補助し給ふ。されば、閣龍は、茲に始めて宿望を遂げ、一千四百九十二年（上文卷末十月三日）を以て、西班牙のパロス港より未知の地に向て纜を解

無く映りて、コテと塗りたる白首、ポンチットの花の色はうつろひても、止められぬは斯道か、桃花のステッペ長く地を曳き摺りて、客を呼ぶ口笛、車の上に屈くも可笑しく、いづれ女の墜落は、腰から下の三悪道、地獄とは好い形容詞ならずや、巴里はこれが名物にして、その數三四十萬ありといへば、煙に捲かるゝ外客は、實にや榮華の夢現、瞬く隙に秋風吹いて、懐中の金は麥酒の泡の消ゆるより、一層早く無くなるべく、萬事は用心に如くはなしと、語り合ふて旅宿に歸りぬ。

高塔觀望

或日の事なり、ルウブルの美術館を見、シャンゼリーゼーを馬車駈けさせて、凱旋門をくゞり、ボアートブーロンの公園に遊びぬ、綠樹十里、林間翠草の上を踏んで、才子佳人の戀を語るを見る、園中動物園あり、風船を弄ぶ者あるに氣がつき、この好日和、碌々として、日蔭者となり了せんことの殘念さに、また大博覽會に入り、トロカデローを過ぎて、エッペル高塔に上れば、天清ふして雲無く、地濶らして、人烟簇れり、遠く郊外を望めば、セイン河流れて、一帶の丘陵、水に沿うて開け、樹間塔尖を洩して、脈々たる人家、大都に迫れり、近く博覽會場を瞰下せば、白堊の高閣脚下に起りて、彼水彼園、紋樣の如く、人間蠢々として、虫耶豆耶、天の美、地の美、一盼の裏に落ち來りて、その妙云ふべからず、階上には郵便電信局ありて。紀念の通信をなさしめ、各階上には料理店ありて、客の好むに任せたり。嗚、國勢幾回か變遷して、帝政となり、共和制となり、英傑廢ば起りて、忽ちにして滅ぶ、山河長に翠にして、古今の歴史、悉くこの塔下に聚れり。那翁の墳墓は彼か、渠が築きたる凱旋門は、綠樹紅樓を抽でゝ、千丈高きにあらずや、渠が敗れたる陣營は何處ぞきぬ。

（「萬國地理」に云く。閣龍、葡萄牙を去りて西班牙に赴き、西班牙王に說きしに、同國學者の頑迷なるが爲めに妨げられて亦容れられず。欝々として歸國の途に就かんとす。適々同國皇后イサベラは、我が寶玉を典して三艘の船を購ひ、之を閣龍に給せしにぞ、閣龍は是に於て始めて素志を貫徹し、一千四百九十二年十月三日を以て、西班牙國パロス港より纜を解き、千辛萬苦の後、遂に新世界を發見したり。是れ則ち南北亞米利加洲なりと。）

さて敵日の間は茫乎たる大洋と、悠々たる蒼天との外、他に一物の目に遮るなく、其の心細さ言はん方なかりしかども、閣龍の目的は、一に最後の勝利に存するが故に、困難の中にも、おのづから愉快を覺え、百折聊かも屈せざりき。勿論當時氏の艱苦危險の度が如何ばかりなりしかは、今之を詳悉すること能はざれども、或る機、水夫どもは、いたく不平を鳴らし、己れ等を死地に陷れたりといひて閣龍を非難したりといふ。是の時に當りて、閣龍若し歩を讓りて彼れ等の請求に任かせたらんには、恐らくは米洲に達すること能はずして、半途に引き返へさゞるを得ざりしならん。然るに氏は、一切彼れ等の請求を斥け、偶々貿易風の逆風なりしにも拘はらず、艱れて後己まんとの勇氣を持したりしかば、遂に遙かに陸地を認ひるを得たりしとぞ。

聽て其の地に到着しければ、直ちに上陸して宿望の達せるを上帝に謝し、其の地を西班牙王、及び皇后の御料にぞ加へける。實に一千四百九十二年十月十二日の事にして、此の地は、南北亞米利加の間に横はれるバハマ諸島（四印度諸島の中なり）の一なり。閣龍之をサン、サルヴァドルと名けたり。初め閣龍未だ亞米利加洲なるものあるを知らず。以爲らく「大地は圓體なるが故に、西班牙の港を發して、限りなく西方に航せば、遂に必らず亞細亞の極東に達せん」と。されは、今てのサン、サルヴァドルに着するに當りて、之を亞細亞の印度ならんと思考し、其の土人を印度人と呼べり。西印度の名は、是れより起れるなり。但し其の西印度と稱して西の字を冠する所以は、後年に至りて、亞細亞の印度と區別せんが爲めに加へたるものなり。

久しからずして、閣龍またキユバ。ハイチ（二者共に四印度諸島の一なり）及び其の他の西印度諸島を發見し、然る後西班牙に歸りて此の好成績を兩陛下の上聞に達しければ、兩陛下の叡感斜ならず。諸種の榮譽を閣龍の身に被ひらせ給ひ、且つ僅かに六箇月を隔てゝ、更に閣龍に十七艘の船と、千五百人の水夫とを授けて、第二回の渡航を命じ給ふ。

や、野烟淡く、都門の口を罩ひる處、今も砲臺を置けりなど、左顧右眄、時刻の移るを忘れたり。句に曰く、

揚雲雀の雲を見上げて登りけり

萬國會議

かゝる事して巴里に滯在し、興に乘じては寫眞の技に耽り、或はセインの清流に舟を泛べては、セープルに遊びなどしつゝ、二十日餘を過しぬ、かくて後予は萬國版權會議に出席せり、今其始末を略記せんに、萬國文學及美術協會は、歐米諸國の文學上又は美術上の十八學會と協同して著作權會議を開きしかば、予は山田大學助教授と共に之に臨まんとを申込みしに、會頭書記長は喜んで承諾なされば、博文館を代表してそれに出席せり。七月十六日は午前十時より正午迄豫備會を開き、午後二時より文部大臣臨席正式の開會式を擧げたるが五時に至りて閉會し、八時より國立劇場テヤートル、フランセイに招待され、賢婦人及びチリユクトの二劇を觀しが、一は悲劇にして一は喜劇なりき。十七日は朝九時より十二時まで著作權法草案の第一讀會を開き。午後一時より一同をシャンチー城に招待せしかば、北の停車場より火車に搭して十里を距つる同地に赴きぬ、シャンチー城は古跡にして、山青水白頗る幽邃の地なりき、十八日午前九時より本議事を開き午後五時まで連續し、議論百出していと面白かりき、午後十時より工務大臣ポンダン氏の夜會に招待せられしが、餘りの壯觀に予は呑暈せんとしき、これを終りて午後十時より十二時まで演劇を見しがフエローデー及びベール兩丈の演劇は最も喝采を博せり。十九日午前九時開會、法律草案について議し、午後五時より巴里市廳の招待を受け、立食の饗應を享けしが七時に至りて散會せり。二十日朝九時より開會し、議事錄を報告し、第二議案を討議したりしが、山田教授の演說は閣龍此の渡航に於て、米洲他の諸地を發見したり。既にして又第三回の渡航を試む。南亞米利加の發見は此の第三回渡航の時に在り。但し當時上陸したるは、同洲の海濱にて、パリアと呼べる地なり。

是の時に當りて、閣龍を西班牙王に讒するものあり。王怒りて閣龍を逮捕し、本國西班牙に護送せしむ。噫〻閣龍は、西班牙國に對し、將た天下後世に對して大功ある人なり。如何に殺伐の時代なればとて、一朝の怒に此の功臣を辱むるとは、暴も亦甚だしからずや。然れども、閣龍は辛して、その寃を證することを得、再び青天白日の身と爲るを得たりしかば、更らに第四回の渡航を爲せり。されど年老ひて復た前日のごとく四方を奔走すること能はず。慾深き同行の水夫等は、只管懷を肥すことにのみ勉めて、發見の事を度外視しけるに依り、閣龍また爲すべからざるを察して、快々として西班牙に歸れり。然るに氏が眞正の知己なるイサベラ皇后（Qeen Isabel）は既に殂し、無情なるフエルヂナンド王（Ferdinand）は、氏を冷遇しけるにぞ、氏が終生の苦辛も全く徒勞に屬し、貧困の晩年を送りけるぞ無殘なる。

閣龍は、一千五百六年（我が永正三年丙寅。即ち足利十一代將軍義澄の時。）七十一歲を一期として死せり。

合衆國の史家。閣龍を評して曰く。氏の境遇は宛ながら古の摩西のごとく、徒に約束の地を窺ふのみにして、之に入ることを得ずと。（摩西の事は舊約全書に詳かなり。摩西。イスラエルの人民と共に、曙らく鄕土カナンを避けて埃及に在り。但し摩西は、埃及に後カナンの地に歸るべしとの神命を受けしかど、イスラエルの人民、上帝に禮を失ひしかば、神罰忽ち身に報ひ、歸鄕の旅中に、道に迷ひて、四十年の間カナンの地に歸ること能はず。摩西の賢なるも、猶山上より遙かにカナンの地を望むを得たるのみ。本文此の事をいふなり。）

閣龍は、その身只未知の境裏に入るを得たるのみにして、その實益を得ること能はず。其の發見したる大洲亞米利加の名義すらも他人の名を附せられたり。世に傳ふるところに據るに、閣龍が米洲發見の事、幷に米洲に就ての奇譚など漸く四方に傳播したりし際、世人は恰かも探檢熱に犯されたるがごとく、苟くも强壯の身體を有する人々は、爭ふて其の奇を探り、利を占めんと狂ひたりし、そが中にアメリゴー、ブエス、プッシー（Amerigo Vespucci）と呼べる伊太利の少年あり。亦同洲に航せしが、性怜悧にして且つ剛毅に、

いとも面白かりし。午後四時三十分より世界博覽會の工藝館に入り、八時よりオペラ、コミックに招待せられき。廿一日は午前八時より開會せられ十一時に至て終決を告げしかば、午後一時より會員一同セーブルに出遊して離別會を開く可き報告をなせり。午後一時半より巴里の中央ブラース、ド、ラ、コンコルドを經て、セーヌ河を遡り、兩岸の蒼々たる茂林を眺めながら、セーヴに達し、有名なる磁器製造所を見、四時よりサンクルーに至て公園を逍遙し、五時航して歸プエルヴユーの佳望館に入て、盛なる離別會を開き、其終りたるは夜三更四邊寂寞たる頃なりき。

かく悠々自適の間、予は英京倫敦に遊ぶ、北の停車場より、車中多はく安眠して途中の形勝を知らず、カレー、ドーバの渡船にて、夢を破りぬ、ドーバに至たれば、何んとなく日本風なるに嬉しく、ことに各驛の鐵道停車場の、品川神奈川邊に未知の場所を多く發見して、多くの奇譚を持ち歸りければ、遂に此の人の名を取りて、同洲を亞米利加と名けゝるとぞ。

（因に云ふ。秘露の首府リマに於ては、閣龍の美しき記念物今猶現存せり。その記念物は、大理石を以て製せる閣龍の肖像と、印度少女の肖像とにして、その少女は、右手を伸べて、閣龍より十字を受領し、左手に矢を杖けり。是れは野蠻の生活を表したるものなりとぞ。）

閣龍よりも以前に、歐洲人が米洲を訪ひたることは疑ふべくもあらず。然れども、その事邈焉たり。故に米洲の歴史を叙述する者は、寧ろ閣龍の發見より年代を起すを可とせん。

閣龍以後、米洲發見に與かつて力ありたる者は、前にカボット（Cabot）威尼斯人なり。羽化生著『米國獨立戰史』六頁參看父子あり、後にフロビシャー（Frobisher）英人なり。同書第九頁參看あり。移住民の擧に勉めたるものは、ラレー（Sir Walter Raleigh）同第十頁參看スミス（Captain Smith）同第十六頁參看ペン（William Penn）同第三十ウ頁參看ウイリアムス（Roger Williams）同第二十四頁參看の徒枚擧に暇からず。而して僅々二三百年の間に、此の洲の面目を一新したり。左れば是れ等の事は、予が『米國獨立戰史』の中に載せたるを以て之を略す。

あるものと齊しく、わが國の文明の、多はくは例を英より採れるによりて、文物制度の相似たるもの多はきを喜ぶなり、倫敦に着きて、ホテル、ランガムに投ず、直に三井物產會社に渡邊支店長を、正金銀行に中井氏を、其他大倉組、郵船會社、高田商會など、日本人の商店は洩れ無く訪問せり、嚮導は米國留學の紳士星一君なりき。

英京倫敦

倫敦を一見せんには有名なるタワーを中心として之より發足するを順序とす、タワーは世に所謂倫敦塔なりこは佛蘭西にていはゞバスチールのそれに當れど、英國の革命は却て之を保存利用したり、古來の口碑及びシエーキスピヤは其創建をジュリアス、シーザーに歸すれど、其大方堵のウイリアム勝王の建設に係るは毫も疑を容るべきなく、今に十一世紀に於ける保壘建築術の好標本たり、凡そ世界

第二節　合衆國

（甲）梗概

合衆國は、北亞米利加の中央に在り。北は加拿陀に界し、南は墨士哥、及び墨士哥灣に接し、東西は、大西洋、及び太平洋に臨む。北緯二十五度より起りて、四十九度に達し、西經六十七度に始まりて、百二十四度三十分に終る。面積三百萬零々三千九百九十五方哩。

外にアラスカの地五十七萬七千三百九十方哩あり。此の地は、一千八百六十七年（我が慶應三年丁卯）露國より買ひ受けたるものなり。全國の人口六千二百六十二萬二千二百五十。此の中、土人（亞米利加の印度人）十三萬三千三百八十二人、支那人十萬零五千四百六十五人、アラスカ人三萬五千四百二十六人、獨逸人百九十六萬六千七百四十二人、愛蘭人百八十五萬四千五百七十一人、加拿陀人七十一萬七千百五十七人、英人六十六萬二千六百七十六人、瑞典、那威人四十四萬零二百六十二人、蘇格蘭人十七萬零百三十六人、威爾斯人八萬三千三百零二人、その他の外人六十八萬零六百二十九人あり。又純乎たる合衆國人と稱するものゝ中にも、その父母の外人たるもの一千三百零一萬千六百四十六人餘、母の外人たるもの五十七萬三千四百三十四人、父の外

にて倫敦塔ばかり歴史的趣味ある場所も建物もあらず、幾多の王は此に其宮廷を保ち幾多の偉人名士は此に囚はる、こは苟も英國史を繙きしものゝ記憶すべき事なれば一々之れが例證を擧げず、旅客先づタワーに來り、其堅牢なる建築を一見しさて附近なるオールハロース寺院を訪はば、タワーの四人たりし大僧正ロート、詩人サレー伯以下の墳墓を見るべし、それよりビショップゲート街なるクロスビー、ホールを訪ひて古風建築の標本を見、更にセント、ヘレン寺院に赴きて諸名士の紀念碑を見るべし、次に旅客の注意を惹くべきはギルドホールと呼ばれたる倫敦府廳なり、府知事の官宅及び其官衙はマンション、ハウスといへる他の場所にあれど、府知事が毎年十一月九日を以て催し來れる大宴會はギルドホールに於てす、宴會の時は區長、市會議員は役服にて、賓客は大禮服にて此に參集するなり、次にはクリップルゲートなるセント、ガイル寺院を訪ひてミルトンの墓とフォックスの紀念碑とを見るも興あるべし、更にセント、パーソロミユー。セント、セパルカー等の各寺院を歴訪して有名なるテムプルに往き見るべし、テムプルは法學者の住居するところ、所謂法學院是なり、それよりスツランドを經、チャーリング、クロッスなるチャーレス一世王の肖像を見、更にパーリメント街を過ぎてウエストミンスター寺院を訪ふべし、其内部の構造に於ても其紀念碑の趣味多き點に於ても、世に此寺院に優るもののありとしも覺えず、其ウイリヤム、ラフアス堂はゞ壯大なる堂構は他に類あるべしや。

ウエストミンスター寺院にはエドワード懺悔王エドワーズ一世及三世、其王后エリーナー及フィリツパ、ヘンリー五世及七世、エリザベス女王、チャーレス二世ウィリヤム三世及后マリー女王、アン女王を始として王族の墳墓多く、チヤサム、人たるもの百三十七萬七千六百六十四人あり。推して以て此の國の『寄合身上』より成れるを知るべし。（本書脱稿の後、米布合併の事あり。又米西戰あり。その結果は布哇及び東印度諸島の部に述ぶべし）此の國は、四十四州の同盟より成りたる共和國にして、帝王を立てず。政權は人民の手に在り。代議士を撰びて法律を制定せしめ、又一人の大統領を撰びて全國を統轄せしむ。大統領の任期は四年と爲し、滿期の後、之を再撰するを得るも、三撰するを得ず。又各州には知事あり、州會ありて、州内の法律を制定し、之を執行す。故に大統領と合衆國會との職務は全國一般に關係ある法律を制定するに在るのみ。

四十四州の外に、又テリトリー（部落）と名くるもの七つ、ヂスツリクト（京畿）名くるもの一つあり。テリトリーは、大政府の支配に屬す。ヂスツリクトの名をコロムビアといふ。本來四十四州の一なるメリーランド州の領地なりしを、同州より大政府に讓りて、首府（華盛頓なり。下文に在り）所在の地と爲したるものなり。

四十四州は、各自の位置に從て七部に別つ。今その名稱を擧ぐれば左の如し。

（第一部）新英蘭諸州
ニウ、ハムシア州　ヴアーモント州　マツチユセツツ州　ロード、アイランド州　コネクチカツド州
（第二部）中部大西洋諸州
新約克州　ニウ、ジャーセー州　ペンシルヴアニア州
デラウエア州　メリーランド州　ヴアージニア州　西ヴアージニア州
（第三部）南部諸州
北キャロライナ州　南キャロライナ州　ジョージア州　フロリダ州　アラバマ州　ミスシッピー州　ルイシアナ州
テクサス州
（第四部）中部諸州
ケンタツキー州　アーカンザズ州　ミソーリー州　カンザズ州
（第五部）北中部諸州
オハイオ州　インヂアナ州　イリノイス州　ミシガン州
ウ井スコンシン州　アイオア州　ミチンタ州　北ダコタ州
南ダコタ州　子ブラスカ州
（第六部）ロッキー山諸州
コロラド州　モンタナ州　アイダホ州　ワイオミング州
（第七部）太平洋諸州

ビット、フオックス、カンニング、モンク、チョーサー、スペンサー、ベンジョンソン、ドライデン、アヂソン、ガーリック、ハンデル、カムデン、ニユートン、博士ジョンソン等諸名士もまた皆此に葬らる、寺内にはエドワード懺悔王の司廟、エドワード三世の劍及盾、ヘンリー五世の冑、盾及び鞍、英國及蘇國の即位椅子など一見して昔日をしのばしむべき料となるべきもの多し、

ウエストミンスター寺院を出でなば順路、兩院議事堂を一見するもよし、或は歩を西に移してセント、ジエームス宮を訪ふも興あらん、セント、ポール寺院は羅馬のセント、ピーター寺院を模したるものなれど、其壯觀は却て之に優れり。

現代の倫敦にありて尤も人目を惹くは公園及び下院とブラックフリヤー橋との中間なるテームス沿岸の一帶なるべし、

されどナショナルギヤラリー、スクエーアなる國民繪畫館こそ尤も興味ある場處にはあれ、繪畫館は英國博物館にも劣らぬ見物なれど、大陸には除り知られず、其列品は近代品を除きては世界無双といふも不可なし、古畫にてはラファエルのは好標本として見るべからざるも、其他にては無類と評する人多し、馬德里の繪畫館に美を擅にせるヴェラスクエズの畫さへも乏しからず、伊國上代の畫及びフレミッシュ派の畫に至りては一箇の陳列館にて英國に凌駕するものありとも卽かず。

所謂公園とは主として、パイド、パークとケンシントン、ガーデンスとを指す、其他はさして稱すべき價値なし、五月下旬より六月上旬に至る間、近衛騎兵聯隊の行裝ゐかめしくナイツブリッジ營舍よりパイドパークの一隅へ行進するを見るは一壯觀なり、路上の樹木は翠色掬すべく、草地には蕪菁其他美しき花の數知れず咲き亂れたる、騎兵の服裝と相映發して一段の光采を添えたり、かゝる光景と冬期深霧の立ち籠めたる景色とは全然

華盛頓州　オレゴン州　カリフヲーニア州　コロムビア　ヴアダ州

アリゾナ州

首府を華盛頓といふ。初代大統領華盛頓（Washington）一七三二年（我が享保十七年壬子）生れ、同九九年（我が寛政十一年己未）死す。英國發兌の書に曰く。倫敦に距ること三千八百五十哩。人口二十三萬零三百九十二。（コロムビア京畿の人口を含む。）衢街廣大にして、大統領の官宅、及び議事堂みな其の中に在り。公園の數また少なからず。

合衆國の都會は、東方、大西洋の岸に新約克、費府、波士敦あり。西方、太平洋の岸に桑港あり。桑港と新約克との中間にシカゴあり。皆繁盛の地なり。

新約克は、此の國第一の大都なり。人口百五十一萬五千三百一。世界の第六位を占む。商業の繁盛なるは、倫敦に次ぎ、各國より每年二萬餘艘の船舶、港内に輻湊すといふ。

新約克と河を隔て、其の對岸に在る都會をブルンクリン府といふ。人口八十萬零六千三百四十三人。人口の點に於ては、此の國の第四に位す。近來河上に鐵橋を架して新約克と聯絡せり。

費府は、ペンシルヴアニア州に在り。一千六百八十二年（我が天和二年壬戌）有名なるクエーカー宗の殖民者ウヰリアム、ペンの建つるところ（羽化生著米國獨立戰史一第三十九頁參看）にして、フヰラデルフヰアとは、同胞相愛するの義なり。建設の兩三年に於ては、人口僅に二千に過ぎざりしが、爾來漸く繁盛を加へて、今や人口百零四萬六千九百六十四の多きに達し、此の國の第三位を占め、製造の業盛んなり。殊に獨立を天下に布告したるの地として、名を東西に知らる。

波士敦は、マッサチユーセッツ州に在り。人口四十四萬八千四百七十七。此の國第六の都會にして、貿易製造の中心なり。一千六百三十年（我が寛永七年庚午）の建設に係る。合衆國獨立の本源は實に此の府に在り。有名なる『波士敦虐殺』（米國獨立戰史一第百二十四頁參看）の如き、『印度舞戲』（英國船載の茶を海に投したるなり。同書第百五十三頁以下參看。）の如き、皆この府の出來事なり。

桑港は、カリフヲーニア州に在り。人口二十三萬。西岸第一の良港なり。橫濱。香港。ホノルゝ。及び其の他の諸港と定期交通を爲し、東洋貿易の要路たり。我が國より合衆國に至るには、橫濱を發して先づ此の港に着す。其の間僅に十六七日を要するなり。

カリフヲーニアは、桑港所在の州にして、金坑多く、世界第一の金山として、名を萬國に知らる。近年合衆國產出の金額年々凡そ三千萬圓に達せりといふも、全く此の州あるが爲めなり。

シカゴは、イリノイス州に在り。人口百零九萬九千八百五十。新約

別樣の觀あり、濃霧深く封ずるや乘客を劇場或は料理店に運ばんとする一頭馬車は、馬丁の前驅するにも拘はらず。往々敷石道に乘り上げ、車輪をランプ柱に打ち付け、又は他の馬車と衝突するとありて乘客は爲に車を下りてスゴ〜と徒歩歸宅するの笑止さ。

外國の來觀者が倫敦にて尤も趣味を感ずる處は、ホワイト、チャペル、盜賊の食事場、さては救世軍本部の倫敦なるべし、換言すれば貧民窟の倫敦なり、倫敦にてはリヴァープール、グラスゴー及ニューヨークに於けると同じく、貧民窟は豪商富家の淵叢と相接して並び存せり。

倫敦にては從來貧民に對する慈善事業に許多の金を費し、また一身を犧牲として此事業に從事する善男善女も頗る多きに効果の十分に擧がらざるは、事業の整理に費す金子の多額に過るに在り、寺院及び會堂等を訪問する貴婦人の喜捨により許多の慈善事業の擧がりたるは事實なれど此事業を全市に擴充するは容易の業にあらず、東端及び南部、クラークンウエル及びホルボーン、セントギル寺院及びドルーリーレーンの附近、フルハム及びメッチングヒルの貧民窟にては、寺院の慈善事業に從へるも多く、其他救世軍及び之に類似せる團體の盡力もあれど、僅に貧民問題の外面に觸れたるに過ぎず、英國特有の制度にして倫敦に尤も善く行はれたる救貧條例によりて擴擧せられたる貧民保護局員は、倫敦にありては平均十萬以上の人口を有する地方を管理す、局員は更に小別したる地方に對して救助委員となり、各小區域には救貧條例醫官一人、救助吏員一人を置く、全地方に對しては一箇の工場、一箇の貧民院及び貧民學校を置き、後者には貧民の子弟を入學せしむ、救助委員は毎週一回會合して、救助の請求者にして直接に工場又は貧民院に入るを願はざるものを見る、救助吏員は委員の會議に臨みて報告

克に次で人口最も稠密なる都會なり。此の地は、新約克と桑港との間に位せる商業の要地にして、內國貿易の中心なり。ミシガン湖に臨む。世界に於て最も大なる穀類の倉庫たり。往年この府に於て開龍大博覽會の設けあり。我が國よりも出品の數多かりき。

ワイオミング州の西北部にナショナル、パークと名くる公園あり。頗る奇物に富めり。就中大沸泉は、有名なる沸泉の一にして、その噴出するに當りては、多量の沸騰水を迸らせ、百四十呎の高さに至らしむるといへり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

アラスカは、北亞米利加の西北隅に在り。面積五十六萬二千方哩。合衆國の五分の一弱に當る。人口三十五萬七千五百十六。初め露國の領地なりしが、一千八百六十七年我が慶應三年丁卯七百二十萬弗の金を出して合衆國に買ひ受けたり。氣候甚だ寒く、住民はエスキモー人と稱する短小の人種多し。漁獵を業とす。輸出品は、氷、毛皮、材木等なり。

(乙) 合衆國の沿革

合衆國は、もとヴァージニア。新約克。ニウ、ジャーセー。マッサチユーセッツ。ニウ、ハムシア。メリーランド。コネチカット。ロード、アイランド。デラウエア。ペンシルヴァニア。北キャロライナ。南キャロライナ。ジョージアの十三州より成りて、英國の殖民地なりき。當時英國に於ては、信教の自由未だ許されず。政治上に於ても、亦兎角壓制の臭氣を脫せざりしかば、自由の空氣を呼吸せんと欲して此の地に移住したるもの多し。就中プリマウス殖民地に移りたる人々のごときは、自由熱望者中のもつとも激しき者にして、クエーカー宗徒として史上に著しきものなり。然るに本國政府は、一千六百二十一年我が元和七年辛酉を以て、「凡そ殖民地に產する煙草、及び其の他の貨物は、先づ英國に陸揚げし、關稅を納めたる後にあらざれば、之を外國の港に運輸するを許さず」との規則を定め、其の後、同五十一年我が慶安四年辛卯有名なる航海條例を設けて、殖民地の輸出入品は、必らず英國若くは殖民地の船舶に積み込まざるべからずと令し、同六十三年我が寛文三年癸卯世界各國より殖民地に物品を輸入するを禁し、只英國より英船を以て輸入するを許す旨を令し、同七十二年我が寛文十二年壬子自今甲の殖民地より乙の殖民地に運送する砂糖、煙草、綿等は、悉く租稅を賦課すべき旨を令せり。是れ等の條例に據れば、殖民地は、凡て他國と直接に貿易を爲すことを得ず、獨り英國とのみ賣買するを得

書を作る、工場に入りたる工人にして一時病に罹り、或は一家糊口の資を作る人にして病を得、獄に下され又は逃走したる場合には戸外の補助を其家族に與ふ、脱走の場合には巡査に賞を懸けて之が捜索に當しむ、收入少き老婦人又は老婦人公債にて救助せらる、救助請求者を工場に送べき必要ある場合には、其兒子を工場に送べき必要ある場合には、其兒子を貧民學校に入れなり、孤兒或は棄兒は其承諾の上にてカナダへ出稼せしむるなり、孤兒棄兒にあらざる兒子には一箇の商業を教へ、男兒ならば工場學校より軍隊組織へ、女兒ならば家事奉公へ、靴屋、仕立屋等の弟子として、それ〳〵遣すなり、倫敦なる各工場は平均千人を有し、何れも老朽衰弱の輩のみにして尤も悲慘なる光景を呈せり、中には身体壯健なる貧民もあれど、こは極めて少數なり、さてまた各處の貧民保護局員は聯合して一箇の避病院を設け、醫員は悉く同局員中より選出し、貧民の傳染病に罹りたるものを入院せしむることゝなれり、たゞに貧民のみならず、他の社會にありても自宅療養にては隔離の狀態を保つべからざる場合には、此病院に入るもの多し、天然痘又は猩紅熱等の場合には患者は直に病院に送られ、自ら資を出すの力あるもの又は友人よりして資を仰ぐものは、何れも救助委員の手を經て出金するなり。

今や窒扶斯は全く跡を倫敦に絶ち、倫敦は大市府中にありて最も健康地と稱せらる、されど其部分によりて大差あり、プルームスベリーにては毎年の死者千に對する十二に過ぎざれど、他の不潔なる箇處にありては千に對する四十に上れり。天然痘の患者はテームス河上の舟上避病院に送らる、同河と陸上病院所在地なる小山との間には天然痘通路と稱する道路あり、患者は天然痘埠頭より別仕立の天然痘蒸汽船にて此舟上避病院に送らる、天然痘患者は決して他の熱病患者を入るべきの定規にして、賣買の間に立ちて其の利を占むるは、英商のみ。左れど殖民は猶幸にして製造の權に干渉せられざりしを以て、紡績の業漸く盛大に趣きつゝありしが、英國の議會は、この狀況を聞きて、頗る嫉妬の念を生じ、言へらく。『殖民地に製造所を建設するは、服從の心を減するの基なり』と。是に於て又法令を發して、『自今米洲殖民地に於て製造する毛糸、及び毛布は、一切他所に運輸するを禁ず』る旨を令し、一千七百三十二年我が享保十七年壬子又當時新英蘭に於て夥多しく製造する帽子を外國、又は他の殖民地に輸出するを禁じ、かば、殖民地到る處、呶々として不平を唱へ、抵抗の精神、爲めに喚起せられたり。是れより先き、新英蘭の人民は、平素節儉を旨とし、且つ製造、貿易、漁獵等總て他州に冠たりしが、以上の諸の條例一たび厲行せられてより、三業共に著しく損害を被むりて、殆んど衰頽すべき勢ひなりしかば、且つ憤き、且つ愛ひて切齒扼腕に堪えず。是れ合衆國をして本國に叛きて獨立するに至らしめたる遠因なり。

一千七百五十四年我が寶暦四年甲戌英人は、米洲殖民地に於て佛人と輸贏を干戈に訴へしが、此の戰爭の爲めに殖民地より費すところ一千六百萬弗。本國に於ても亦五百萬弗を費しければ、英政府は、亦之を口實とし、名を密賣を防ぐに假りて、稅關の小吏を私人の家宅、又は市店に闖入せしめ、密賣品の有無を搜索せしめければ、家内の安全之か爲めに攪破せられて、私人の家復た其の城廓たること能はず。同六十四年我が明和元年甲申英政府は歲計凡そ三百萬磅の不足を生じ、公債償却資本を之に流用するも、猶若干の收入を他に仰がざるを得ず。是に於て亦財源を米洲に得んと欲して證券印紙稅を課せり。是れ革命の一大近因なり。

夫れかくのごとく、英政府は、かへすがへすも米洲殖民を虐げ、不法の手段を以て其の財囊の中に手を投じければ、殖民何ぞ默するを得べけん。不平の氣一たび外に漏れて『印度舞』と爲り、再び漏れてパトリック、ヘンリー（Patrick Henry）羽化生著「米國獨立戰史」第百卒一頁參看の激烈なる演說と爲り、三たび發して華盛頓（Washington）パトリック、ヘンリー。ジョン、アダムス（John Adams）同書第九十三頁參看等有志者の大陸聯合議會を生じ、遂に革命の亂を引き起せり。實に一千七百七十五年我が安永四年乙未なり。

爾來七年の苦戰を經て、米人終に英軍に勝ち、茲に始めて獨立を遂げ、各國と相對峙するを得たり。是に於て聯邦を組織し、共和政府を建て、華盛頓を大統領に選べり。是れ北米合衆國の起原なり。

る病院にて取扱はれず、貧民が工場に對する僻見は幸にして貧民院、貧民病院、貧民學校等に及ばず、今や公共病院及貧民院制度は漸く社會の信任を來し、寄附金にて成立する普通の病院は却て日に衰頽に趣けり。

倫敦市の貧富兩極端の差違は巴里のよりも甚し、一方にはグロスヴェナー、ハウスさてはデヴオンシャイア、ハウスの如き、毎年土地の收入十萬磅以上の所得ある公爵家の邸宅ある市府にして、一方にはジヤツド街地方、クラクンウエル地方、セント、ジョーヂ、ゼ、マーチヤ地方さてはセント、ジョーヂ、イン、ゼ、イーストの如き貧民窟を有す、倫敦にて最も慘憺たるは、曾て大厦の庭園たりし場處にひさくろしき小家屋の櫛比したるに在り しかも貧民はビーボディー、ブロック又は他の兵營所在地附近に住ひを願はずして却て此地方に安んせり、これ其活計とする所の獸皮製革、マッチ箱製造、帽子製造等の職業は、兵營建築の附側にては禁せらるべきを以てなり。

技師、工匠、指物師、煉瓦積築者の組合の如き職人の團體は勞働社會の貴族といふべく、全體に於て歐洲他邦の職人よりは景氣よし、未だ熟練せざる勞働者、殊に婦人の勞働者は競爭の結果、其の工錢大に減せられたり、前掛の裁縫に雇はれたる熟練せる針女にありても十二ダスに對する工錢二シルリング六ペンス（一シルは銀貨二十五錢十二ペンスは即一シルリングなり）には過ぎず、而して一日に四ダス以上を仕上ぐるもの幾人かある、マッチ箱の職人は百四十四箱に對して二ペンス半の工錢を得る割合なれば毎日十二乃至十四時間仕事を續くるも、一週の終にいたりて得る所、平均六シルリング乃至七シルリングに過ぎず、袋の職人、煙草の選り分け、紙箱の製造、製本、襤褸の選り分け等の職人に至りても其工錢至て低し、倫敦には前途或は之に類似したる職業に從事する婦人にして、既にして八年を經過し、華盛頓職を辭して、ジョン、アダムス之に代り、任期滿ちてトマス、ジフアーソン（「米國獨立戰史」第三世大統領に任ず。抑も合衆國は、獨立の初に於ては、財政頗る困難を極めて、一國の體面を維持し能はざるの恐れありしも、アレキサンダー、ハミルトン（Alexander Hamilton）（「米國獨立戰史」第百六十一頁參看）等諸氏の盡力に由りて漸く挽回の功を奏し、國運駸々として隆盛の域に進みしが、第十五世大統領ブカナン（Buchanan）の時、奴隷廢否の事より南北の問に爭を生じ、全國兩分して各々大統領を選び、而して英國は竊かに南部に左袒し、佛國は北部に左袒して、國家限りなく分離すべきの勢ひありしが、南軍敗れて覆水幸に盆に復し、南北再び統一して以前の一大共和國と爲れり。此の戰に北軍元帥の任に當りたるは、未來の大統領グラント（Grent）なりき。此のグラントは、退隱の後、我が國へも來遊したる人なり。

是より先き、我が嘉永六年癸丑、即ち彼れの一千八百五十三年、合衆國の水師副提督ペリー（Perry）我が國に來りて和親通商を乞ふ。朝野之が爲めに騷然たりき。是れ彼の國に於ては、ピーアス（Pierce）が大統領たりし時代なり。翌安政元年甲寅一千八百五十四年日米條約成る。合衆國が我が國と條約の先鞭を着けてより、英佛獨露等爭ふて我れと條約を結び、遂に今日に至りたれば、米人は、今公然として日本文明の嚮導なり、恩人なりと稱し、日本人の中にも、甘んじて此の名譽を彼れに許すものあり。然れども識者の中には、容易く首肯すること能はざるもの多し。

合衆國初代大統領華盛頓より前の大統領ハリソン（Harrison）に至るまで累世の大統領は左の如し。

世	姓名	就職の年	生誕の年	死去の年
○第一世	ジョージ、ワシントン將軍	一七八九年	一七三二年	一七九九年
第二世	ジョン、アダムス	一七九七年	一七三五年	一八二六年
○第三世	トマス、ジフアーソン	一八〇一年	一七四三年	一八二六年
○第四世	ジニームス、マジソン	一八〇九年	一七五一年	一八三六年
○第五世	ジエームス、モンルー	一八一七年	一七五八年	一八三一年
第六世	ジョン、クヰンシー、アダムス	一八二五年	一七六七年	一八四八年
○第七世	アンドルー、ジヤクソン將軍	一八二九年	同	一八四五年
第八世	マーチン、ヴアン、ビユーレン	一八三七年	一七八二年	一八六二年
第九世	ウヰリアム、ヘンリー、ハリソン將軍	一八四一年	一七七三年	一八四一年
◆第十世	ジョン、タイラー、	同	一七九〇年	一八六二年
第十一世	ジエームス、ノックス、ポーク	一八四五年	一七九五年	一八四九年
第十二世	ザカリー、テーラー將軍	一八四九年	一七八四年	一八五〇年
◆十三世	ミラード、フヰルモーア	一八五〇年	一八〇〇年	一八七四年
第十四世	フランクリン、ピーアス將軍	一八五三年	一八〇四年	一八六九年

十ペンス乃至一シルリングを獲んがために終日勞働する者多し。

之を要するに倫敦の一大特色は其廣大なるにあり、府中には許多の廣小路、公園、通路等あり、郡縣會管轄下の倫敦以外に市府い連綴せるを見る、ウエスト、ハムの一區の如き、衆議院に二人の代議士を出し、クロイドン區、チスウイック地方其他倫敦以外の地方にて實際、倫敦と區別し難きもの多し、されど是等の地方を除非し、倫敦本部のみを旅行するも、チスウィックよりハムマースミッス、ケンシントン、ナイツブリッジ、ピカヂリー、スツランド、フリート街、ラッドゲートヒル、チープサイド、フーンヒル、リーデンホール街、アルドゲート、ホワイトチャペル高街、マイルエンドロード、コムマーシャルロードイースト等を通過することなれば、たしかに世界の大觀の一たるを失はず、而して倫敦は實に西より東へと延びたるのみならず、北より南へも同じく延びたるなり、倫敦は一箇の迷宮なり、又蜂巣なり、其漸次發達する有樣は世界の一大不思議として擧ぐべきにあらずや。

倫敦より巴里

倫敦より巴里に赴くには其線路數多あれど、先づドーバー。カレイ間及びフォルクストーン。ブローニュ間の往來最も頻繁とす、右の二路の中、後者に依らば距離に於ては較近く、倫敦より巴里迄六時間にて達すべく、前者より半時間早けれど、潮時を待たざるを得ざる故、出發前に時間を費すとあり、ドーバー。カレイ間は水深へ故斯かるとなく、船の發着に時期を違へしとなきを便利とす、水上の路程のみにて比較せば、フォルクストーンよりする方は、ドーバーよりする方よりは少し遠けれど、船の到着地たるブローニュは、巴里迄の距離カレイよりは近けれど、此間の滊車路にて差引き結局

第十五世ツエームス、アカナン　一八五七年　一七九一年　一八五八年
○第十六世アブラハム、リンコルン　一八六一年　一八〇九年　一八六五年
●第十七世アンドルー、ジョンソン　一八六五年　一八〇八年　一八七五年
○第十八世ユリツセス、エス、グラン　一八六九年　一八二二年　一八九〇年
第十九世ラザフチードバアチヤード、ヘース　一八七七年　同
第二十世ジエームス、アブラハム、ガーフヰルド將軍　一八八一年　一八三一年　一八八一年
●第廿一世チエスター、エー、アーサ　同　一八三〇年
○第廿二世グロヴアー、クレブランド　一八八五年　一八三七年
○第廿三世ベンジヤミン、ハリソ　一八八九年　一八三三年
○第廿四世グロヴアー、クレブランド　一八九三年　……
○第廿五世ベンジヤミン、ハリソ　一八九七年　……

右の表中、○は就職二期に渉りたるもの、●は初め副統領に選ばれ、大統領死去に由りて、大統領に任じたるものなり。

第三節　加拿陀

南北亞米利加に、英國の所領頗る多し。之を總稱して英領亞米利加といふ。英領亞米利加の北亞米利加に在るものは、加拿陀。ニウフアウンドランド。以上北部に在り　即ち英領ホンヂーラスなり。中部亞米利加に在り。及ひ西印度諸島の中の或る部分是れなり。

加拿陀は、オンタリオ（當時上加拿陀と稱したり）クエベック（當時下加拿陀と稱したり）ニウ、ブランスウヰック。ノヴア、スコシア。プリンス、エドワード、アイランド。英領コロムビア。及ひ往時のハドソン灣會社領、即ち今の所謂マニトバ。幷に西北部落より成る。而してオンタリオ。クエベック。及ひニウ、ブランスウヰック。ノバスコシアは東部に在り、英領コロムビアと西北部落とは西部に在るなり。

此の國は、合衆國の北に位し、東西は大西洋と太平洋とに臨み、北は北氷洋に面す。面積凡そ三百萬方哩。歐羅巴と殆んど其の大さを均ふす。人口四百八十二萬九千四百十一あり。

此の國は、一千四百九十七年（我か明應六年丁巳。即ち足利十一代將軍發證の時。）セバスチアン、カボット（Sebastian Cabot）（羽化生著「米國獨立戰史」の中に傳あり）始めて發見したりといふ。然れども、その時より、凡そ四十年の間は詳かならず。一千五百三十四年（我か天文三年甲午）佛人之を領し、一千六百八年（我か慶長十三年戊申）を以て、始めて殖民地を設立す。一千七百五十九年（我か寶暦九年己卯）佛蘭西、印度戰の際に、英將ウルフ（Wolfe）此の地を畧し、同六十三年（我か寶暦十三年癸未）巴里條約に由りて、加拿陀の全地英國の領有に歸せり。

オンタリオは、加拿陀の人口もつとも稠密なる部分なり。首府をオツタワといふ。人口四萬四千百五十四。加拿陀政府所在の地にして

フォルクストーンよりする方が近きことはなるなり、又此道に依らば經濟の點に於ては他者より利益あり、今兩路線に要する賃金を記せば、

ドーバー、カレイ路線にて、巴里迄一等三磅一志六、二等二磅二志六、急行列車は三等客を容れず。

フォルクストーン、ブーローニュ路線にて巴里迄一等二磅十七志六、二等二磅三志六、

又倫敦より伯耳義、獨逸に向はんとするには、毎朝ドーバーよりオステンドに向つて出發する伯耳義郵船あり。

左にドーバー。カレイ路線により倫敦巴里間の行程を記すべし、

倫敦よりドーバー迄七十八哩、汽車賃、急行列車一等十九志六、二等十三志二、普通列車一等十三志、二等八志二、三等六志二

ビクトリア停車場より倫敦を出發すれば先づ廣濶なる郊外を過ぎてタルヰッチ（五哩）に來たる、茲に千六百三十九年に俳優アレーンの創立せし學校あり、主として無資力の學生を教養する所なり、次ぎはサイデンハム、ヒル（六哩）にて茲に水晶宮を一瞥するを得、之より汽車は十數哩の間は殆んど塵煙を絶したる清爽なる田園の風色の間を縫ひつゝコチエスター（三十三哩）に出づ、メドウェー河畔の古市にして上流の丘上に伽藍及び古城趾あり、此城趾は英國の各地に存せるものゝ中に就て最も壯麗と稱せらるゝものにして優に一覽の價値あり、今猶往時の觀を失なはざる宏壯なる牙城の巍然として高く空に拔けるを汽車の窓より望むを得べし、次ぎの驛はチャサム（三十四哩半）にして、人口五萬六千餘、樞要なる市場なり、此地の斯く繁盛に趣きしは全く海軍用品貯藏所の茲に置かれたるが爲めにして、エリザベス女王之を創建し、爾後歷代の國王逐次規模を壯にせり、現時は火藥庫として用ひられつゝあるアブノーの城は、右の貯藏所を防護の爲めにメドウェー河の對岸に築かれしものなるが、千六百六十七年和蘭の海軍大將ブイテル其部下の船數艘を茲に送りて貯藏所を破壞せんとせし際、件

大守茲に駐在す。其の下に軍務書記官、及ひ陸軍大將、民兵大將あり。又議院の設けあり。

クエベックは、加拿陀よりも大なれども、冬日寒氣甚だ強く、毎年四箇月の間、河水氷結して船舶通せず。首府を亦クエベックといふ。人口七萬零々九十。加拿陀の最舊都にして。且つ良港なり。

モントリオルは、人口二十一萬六千六百五十。オッタワ河と、セント、ローレンス河との合流の處に在り。新約克以北に於ける第一の都會にして、貿易盛んなり。

ノヴア、スコシアは、加拿陀の極東に位し、廣さ凡そ十六哩なる狹き地峽に由りてニウ、ブランスウヰックに連る。面積二萬零六百方哩、ケープ、ブレトン島を合せ、あれども、河、湖、入海を以て其の五分の一を塡し、耕地は、全體の凡そ二分の一に過ぎず。人口四十五萬零五百二十三。漁業盛んなり。

ニウ、ブランスウヰックは、クエベックとノヴア、スコシアとの間に在り。人口三十二萬千二百九十四。漁業盛んにして、材木に富み、石炭また頗る多し。

英領コロムビアは、北亞米利加の西北海岸に在り。ヴアンクーヴアー島とシヤーロット女王島とも亦其の中に含む。コロンビア全地の長さ凡そ二百九十哩、廣さ凡そ五十哩、面積一萬四千方哩。その大半は、人跡未だ到らず。金、銀、銅、鉛、石炭、材木多し。ヴアンクーヴアー島は、北緯四十八度二十分に起りて五十度五十五分に達し、西經百二十三度十分に始まりて百二十八度二十分に至る。首府をヴヰクトリアといふ。ヴアンクーヴアー島の東南端に在り。人口一萬六千八百四十一。ヴアンクーヴアー市は、ヴヰクトリアを距ること八哩。人口一萬三千六百八十五あり。近來この地に港を開き州內各地に到るべき鐵道を敷けり。我が横濱より此の港に赴くには、其の日數、桑港に到るよりも二日少なくして達することを得。

オンタリオの西北隣なるマニトバより、アラスカに至る迄の一圓の地を稱して西北部落といふ、際涯なき原野なり。土人、漁獵牧畜に從事するもの多し。毛皮を產す。

ニウ、ファウンドランドは、加拿陀の東に位する小島にして、英國殖民地中のもつとも廣きものなり。面積凡そ四萬二千二百方哩。世界第十二等の大島なり。土人は勉强壯健にして、鮭、大口魚、鯡等の漁獵に從事す。

第四節　墨士哥

の城砦より砲撃わりしにも拘らず、貯藏所内なる數隻の船艦を或は燒き或は沈し上、ローヤル、チャーレスと號せし軍艦を奪ひ去り、爲めに倫敦全市を震駭せしめしとあり、其後城砦は著しく規模を擴張せり、又兵器局は頗ぶる宏大にして、其使用物諸機關の如き優等にして且規模の最大なるものとす。

チャサムを出發して次ぎの名所はケンタービューリー（六十一哩強）とす、曾てケントのサクソン諸王の都せし地にして、今や全英國大僧正の居所及議員撰出區なり、伽藍はケンターービューリー最始の大僧正、聖、アウガスチン及び徒弟たるエセルバート王の創搨に係り、英國寺院中最も華麗なる建物の一に數へられ、創建以來回祿の災に罹ると再三にして大僧ランフランク及其繼續者アンセルムに依つて再建せられ、爾後數代の高僧逐次擴張修營して今日に至りしを以て自から建築の流式數派混交せり、伽藍の周地への通路はマーセリー小路の一端なるプリオー、ゴバドスミッス門に依る、西部の數塔及び唱歌所は、ノルマン式なれども中央の塔、本堂、伽藍及び西部の横邊は垂直式の絶好標本の中に列すべきものとす、唱歌所は其構造雅麗を極めたる上長さ百八十呎ありて、英國の各唱歌所中最長のものたり、之を繞れる外圍亦頗る巧緻なり此外圍の西門に沿うて唱歌所を出で、北西の横邊に來れば、茲は千百十七年十二月にトーマス、アベックットの殺害せられし所たり、唱歌所の背後に貴婦人禮拜所、三位一體禮拜所等あり、石碑の中には彼の黑太子、エドワードのものありて其の人の銅像を付す、其上に太子の用ひたる鐵手套、兜、槍、鞘等を掛け列ねあり、美麗なる禮拜所猶數多あり、又ヘンリー四世及王妃を始め其他大僧正の石碑多し、寺院現時の建物は千〇七十年より千〇八十九年迄の建築に係れるものにて伽藍の全長五百十四呎、本堂の長さ百七

墨士哥は、合衆國の南、中部亞米利加の北に在り。東は墨士哥灣に臨み、西は太平洋に接す。北緯十五度より起りて、同三十二分に至り、西經八十七度に始まりて、百十七度に至る。面積七十五萬千四百九十四方哩。人口一千二百零八萬零七百二十五あり。南北亞米利加に於ける最强國の一にして、閣龍の發見以前より既に大國を爲し土地を耕し、布帛を織り、鐵を除くの外、諸の金屬を鑄、文字あり、學校あり、城邑あり、政府ありて、其の開化の等級遙かに洲中、他の地方の上に位したりき。

（墨士哥王アカマビックの治世の出來事と、其の諸方を征服せし顚末とを記せる粗畫を一閲するに、其の材料は、赤黄青の三色を施せる長方形の木綿にして、左端に青色の幅廣き竪の線あり。梯梯の如き横線を以て、之を十三區に分ちあり。是れは十三年の治世を表するなり。而して每區記號（判じ物やうのもの）を以て其の年の出來事を記せり。又二區に跨れる一箇の花あり。是れは、二年に跨りたる厄難のありしことを表するなり。每區の中央、彩色を施したる部分に載せたるは、重もなる出來事と知るべし。此の部分に、兩回、國王を畫きあり。その中肖像は、容貌嚴正に、軀幹短小にして、顏と足とは淡黄色を帶び、頭には蛇冠を戴き、身には白衣を着し、隻手に二本の矢を持てり。王の前には、一箇の卷物ありて、其の上に、一箇の楯と、數多の鎗を束ねたるものとあり。又乙肖像の前には、四箇の比較的に小さき首ありて、その兩眼は閉ぢ、唇と顎とには血痕を存す。此の血痕は、敵の酋長四人を捕へて、その首を斬りたるを表するなり。四箇の攻略せる都市は、四壁頽れて、屋脊の墜つる狀を畫き、且つ各市の傍に、植物學上、若くは地理學上の或る狀況を記して、その市の位置を表せり。即ちその中の兩市は、特異の樹木を以て之を明かにし、又一市は、傍に湖水を畫き、線を以て、その市と湖水とを聯絡して、同市の湖上に在るを明かにせり。

西班牙のコルテズが墨士哥に侵入せし時、墨士哥灣近傍の人民はその報を聞きて大に驚き、急に木綿、又は蘆薈の葉の上に右やうの畫を書きて、西班牙人上陸の旨を內地に報道したるとあり。今その畫を見るに、數多の大船あり、數多の髯を蓄へたる白皙人あり、數多の火煙を吹き出して、遠近の樹木を焚くところの大砲あり、見るも恐ろしき風情なり。西洋人の說に據るに、當時の墨士哥帝モンテズマの華麗なる宮中に貯へありたる畫卷の中にて、之よりも恐ろしきものはなかるべしといへり。）

十八呎廣さ七十一呎、高さ八十呎あり、彼の血彼の循環を發見したるハーベーは幼時此地の小學校にて教育されし人なり。

ケンターベューリーを出發して風色絶佳なる間を過ぐる中いづしか道路は純白色と變じ來り、宛ながら雪中を行くが如く坐ろに肌寒さが如きを覺ゆるものあり是なん海岸を圍繞せる白堊巖の近づけるを表せるものにして程もなく滊車はドーバーに達す。

ドーバー

佛國の海岸に最近の港にして、市の兩側は白堊巖の斷崖に依つて限らる、人口凡そ四万、市の東端なる丘上に古城あり、海面を抜くこと三百七十五呎、壁内には數多の建物存し、現時は兵營として用ひらる、地下の部分を除くの外城内縱覽隨意なり、城は元羅馬人の築く所にして、其後サクソン人及びノーマン人逐次規模を擴張せり、牙城（ヘンリー二世の築く所に係り、高さ九十二呎、壁の厚さ二十三呎）の天主閣より市街及び港灣の全景を一望すべく、晴明の日には二十三哩を距てたる佛國の海岸を髣髴の間に認むるを得べし、港内西側よりアドミラリチー埠頭突出し、長さ七百八十ヤード、堤上は絶好の遊歩場たり、最端に設けあるる砲臺には八十一噸砲二門を備ふ、市の西部の諸丘も亦堅固なる堡砦を構ふ此丘より一深溪を隔てゝセキスピア巖と呼ばるゝものあり高さ三百五十呎、沙翁の作「キング、リア」の第四段に記されある高丘は之を指せしものならんとの推定より此名目ありといふ。

ドーバーよりカレイの間海路二十二哩、此間は日日數艘の滊船往復し以て英佛兩國の交通を爲す、倫敦巴里の間朝に往いて夕に歸るを得べく、船として兩都往來の客を滿載せざるなし、海路は即ちドーバーの瀬戸と呼び、北は猛漫たる北海に閥龍の發見以後未だ久しからずして、西班牙の將コルテズ（Cortez）此の地を征服して、その王を捕へ、その民を殘ひ、爾來三百年の間、墨士哥は、常に西班牙の壓制の下に屈せしが、我が文政四年辛巳其の羈絆を脫し、今現に獨立の共和國たり。明治二十一年、我が日本國と修好通商の條約を約べり。

首府を亦墨士哥といふ。人口三十五萬。此の邊凡て高原にして、海面を抜くこと七百五十丈。四周、皆高山を以て圍み、風景頗る佳なり。

墨士哥灣に瀕する海港には、ヴエラ、クルーズ。プログレソ。タムピコあり、太平洋に瀕する海港には、マザトラン。ガイマスあり。鐵道に由りて首府と聯絡を通じ、外國貿易の要地たり。

ポポカテペトルは、此の國第一の高山にして、その高さ北亞米利加の第二位に列す。屢々火焰を吹き出すことあり。氣候は、土地の高低起伏するに伴ひて、亦一樣ならず。海濱の低地は、炎熱燠くがごとく、濕氣多くして人身に適せず。内地の高原は四時我が四五月の氣候にして、物産に富み、眞に樂園の名に背かず。又最も高き地に至りては、寒氣烈しく、物産乏し。

鑛山の富は天下に冠たり。殊に銀鑛もつとも多く、世界の銀貨は、概ね供給を此の國に仰ぐなり。

第五節　中部亞米利加　西印度

中部亞米利加は、北米大陸の南端に在り。東西は大西洋と太平洋とに接し、南は巴拿馬の地峽を以て南亞米利加に連る。面積凡そ十七萬五千八百六十七方哩。人口三百零八萬零四百五十二あり。中に五箇の獨立共和國と、一箇の英領とを含む。即ち總論に述べたるがごとし。

西印度は、南北亞米利加の東方、大西洋中に在り。大小凡そ一千の島嶼より成る。その重もなるものを、ハイチ。ジャマイカ。キユバ。バハマ等と爲す。面積合計凡そ九萬五千方哩。人口凡そ四百萬あり。

ハイチは、面積一萬零二百零四方哩。人口九十六萬。一箇の獨立共和國なり。珈琲、木材、椰樹、綿、皮、砂糖、蜂蜜、護謨を産す。首府をポート、オー、プリンスといふ。人口三萬四千。

ジャマイカ、及びバハマは英國に屬す。ジャマイカは、面積四千百九十三方哩。人口六十三萬九千四百九十一。全島を大別して三部と爲す。東なるをサーリーといひ、中央なるをミッドルセックスといひ

連り、西英吉利海峡の漸く蹙りて茲に最も狹窄となれる所にして、總かに一葦帶水を以て大陸と英國の分劃を爲せり、八時餘の航路別に記すべき程の事も無しと雖へど、船に在る間は佛英の兩地を前後に望み、進むに隨つて佛の山漸く明らかに顧みて英山影淡く漸く浮嵐の中に消え去らんとする時乃ちカレイの港に達す。

カレイ

往古よりの港市にして人口一万近千餘、ブローニュより十六哩、大なる城壁ありて港内には砲臺を構へ要害堅固の地にして、街路は多くは廣濶、敷石も整備せり。二個の主なる建物は市廳及びノートル、ダーム寺院とす、寺院はゴチック式建築にしてゼヂェル。ルベン等の手に成れる名畫を藏す、市内の主要なる製造品は紗及び編物にして職工には數多の英人を雇傭せり、又火酒製造所、車輛製造所、造船渠等を有し、ブランデー、葡萄酒、雜貨等の商業頗ぶる盛なり。此地を發して十九哩にして。

ブーローニュー海岸

に來る。此都市は上街下街の二部より成る、上街は往古堡砦を以て固めたるものにて、其城壁今遊歩場となり、晴朗の日には茲よりドーバーを望ひを得べし、市廳、伽藍、城樓等上街に在り、下街は則ち港に沿ひ市街も一層美麗にして人口も夥し、屯營、大病院、劇場、圖書館等を始め數多の宏壯なる建物を有す、滊船は日々此港より倫敦に直航す、巴里迄の滊車は四時半を費す。

此港灣は始め水淺くして巨舶を容るゝには適せざりしが、曾てナポレオン一世之を改良して來近代に至りても重ねて改築を行ひたる故、高潮の時は大艦も自由に出入するを得るに至れり、千八百四年に當りて、ナポレオンが茲に英國攻掠の準備を爲し、十八萬の士卒二千四百艘の百二十萬零八千九百五十一。その大さは我が日本國に五十倍すれども、人口は五分の四に過ぎず。

木洲の重もなる國々は左の如し。

國名	面積	人口	政體
伯西	三一一、九七六四	一四三五、四二一七	共和政
哥倫比亞	五〇、四七七三	三八七、八六〇〇	共和政
委内瑞拉	五九、四三七四	二三二、三五二七	共和政
厄瓜多	二四、八三七〇	一二〇、四二〇〇	共和政
秘露	四六、三七四七	二九八、〇〇〇〇	共和政
玻利非亞	七八、四五五五	二三三、三三五〇	共和政
智利	二九、三九七〇	三二六、七〇〇〇	共和政
亞然丁	一一二、五〇八六	四二五、七〇〇〇	共和政
巴拉圭	九、一九七〇	四七、六〇〇〇	共和政
烏拉圭	七、二一七一	七四、八一三〇	共和政
貴亞拿	……	……	……

右の外に、又パタゴニアト名くる地あり。亞米利加土蠻の住する獨立の部落なり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

第六章　南亞米利加

第一節　總論

南亞米利加は、西半球の南部に位する大洲にして、北は巴拿馬の地峡を以て北亞米利加に連り、東南西の三面は、大西洋、南氷洋、及び太平洋に臨む。面積七百五十萬零七千二百十九方哩。人口三千六百万、西なるをコーンウヲールといふ。物産は、菓物、染料、珈琲、砂糖なり。

バハマ諸島は、面積凡そ五千七百九十四方哩。人口凡そ四萬八千。諸島の中の重もなるものをニウ、プロヴィデンス(即ち首府ナッソー所在の地)。サン、サルヴァドル。アバコ。グランド、バハマ。ロング、アイランド。エリユーセラ。マヤギアナ。ハーボーア、アイランド。グレード、イナギュア。アンドロス諸島と爲す。サン、サルヴアドルは、往昔閣龍が亞米利加發見の際に、始めて到着したる地なり。物産は、海綿を第一とす。

キュバは、輓近西班牙に抗し、獨立を謀りたるを以て知らる。其首府ハヴアナは、人口二十五萬。新世界第二の外國貿易地にして、砂糖の貿易は世界第一たり。

運送船を集めたるが、數ヶ月の遲延の後方向を一變し、軍を率ひて歐洲中部の征討に向ひぬ、斯くて久しからずして、有名なるトラファルガーの海戰に於て其海軍大敗衂を取り、英國攻掠の目的は果されずして罷むに至れり、當時ナポレオンをして此地より直ちに英國放掠に向はしめば、事局如何なる變化をか取りけん、英雄の末路或は爾く速かならざりしも知るべからず、ブローニュの北二里の地に、ナポレオンの紀念碑あり、百七十二呎の大理石圓柱の上にナポレオンの銅像を安置す、小許の謝金を出さば、此頂に登りて眺望するを得べし、『望の快樂』の作者カムベル、及び詩人チャーチルは此ブローニュにて死せし人なり。

市内寺院學校等夥しく、又繪畫展覽所の設置あり、ノートル、グーム寺院は伊太利式の近代建築にして、其圓頂閣は高さ二百九十五呎の半空に聳ゆ、境内十二世紀頃の古墳あり、グランド街に於ける博物館は武具、繪畫等一覽を價するもの多く、圖書館は三萬二千卷を藏す、又一大浴場あり佛國最美の建物の一に數へらるゝ所にして、浴室の外讀書室、舞踏室、會話室等を具へ、周圍には美麗なる花園を構ふ、之に近く巨大なる水族館あり、魚市場の附近に種痘の發見者ジェンナの塑像立つ、除波埠は長さ殆んど二十呎に達し、市民の遊歩場たり。

ブーローニュを通過してリアヌ河畔に沿うて進み、ブリック橋(哩強)より一隧道を過ぎ、それよりベルトン。ノエル。ブランクタック等の諸驛を經て、アベバイル(五十九哩半)に來る、此地はソンム州の主なる都市にして第二流の堡砦あり、市内の主なる觀物は聖ウォルフラムの寺院にして左方に當りて瀘車より一瞥するを得、市廳には十三世紀の建築に係る望樓あり、其他市中に古代の宮邸多く、其内フランソア一世の邸と呼ばるゝものあり、此市を過ぐれば、次ぎにビッククイニー(八十六哩半)

前章既に述べし如く、亞米利加は、發見の初より新世界と稱へ來れども、同地には、最と奇なる神社、圖畫、又はさま〳〵の建物など、地下より堀り出されたるもの夥多しければ、其の舊世界たることは言ふ迄もなきことにして、新世界と稱ふるは、名實相稱はざるに似たり。さてかゝる品々の殘存するより推すときは、數千年以前に、是れ等を造るべきほどの伎倆を備へたる人民ありて、其の地に住せしこと明かなり。左れど、象形文字を以て大石に刻みたるものゝ外記錄を遺さず、且つその文字は、吾人の解し能はざるところなるを以て、吾人は、遂に其の人民の何者たるを知るに由なし。

南亞米利加に於ては、伯西を以て最大國と爲す。實に全洲の半を占ひ。故に土地の大小より言へば、同國より說き起すべきなれども、古物の多く殘存せると、興味ある事項に充ちたるとは秘露なるに依り、予は先づ秘露より叙述せん。

第二節　秘露

秘露は、本洲の西北部に位し、厄瓜多の南に在り。（南亞米利加の西部を北部より算ふれば、第一を哥倫比亞と爲す。次は厄瓜多。次は秘露にして、玻利非亞は其南に在り。玻利非亞の南は、西部を亞然丁同盟國と爲す。二國は、實に本洲の南端に在るなり。東部を巴西と爲し、東は伯西に界し、南は玻利非亞に隣り、西は太平洋に臨む。安的斯山脈、西邊に連亘して一帶を爲し、全國殆んど其の脈中に在るが故に、道路險惡にして交通甚だ便ならず。然れども、近來各處に鐵道を敷設し、漸く便利を加へり。安的斯山の頂上は、四時白雪を戴けども、麓に近き邊は、雜花、樹に生じ、群鳥亂れ鳴きて四顧頗る幽邃なり。

此の山脈は、嶮しく且つ大なるが故に、旅客強て峭壁を超えんとして一歩を過つときは、忽ち千仞の谷底に顚墜するか、又は黯淡たる裂口に陷るの恐れあり。土蠻は、迂廻せる山路を辿り慣れて、其の足の健かなること、おのが牽きたる騾に多く讓らざれども、他國の人に取りては、歩々極めて艱難なり。烈しき霰の急に降り來れるに當りては、旅客獨り魂魄を奪はるゝのみならず、旅客を載せたる騾の物といへども、平素忍耐力の强きを以て知らるゝにも拘はらず往々喫驚して途方に暮るゝことあり。かゝる場合には、風を背にして、頭と耳とを外套の中に包み、かくて危難を遁るべき術を講ずるの外なし。

安的斯山脈の一なるコルヂラス山は、秘露、智利の兩國を其の他の本洲諸國より區分する高山なり。山上には、時々雪嵐の不意に烈しく吹き來ることありて、旅客の爲めに甚だ危險なり。されば、かゝ

を經てアミアン（九十五哩半）に達す、急行列車茲に二十分猶豫す。

此市はソンム州の首都にして全國商業の中樞たり、英吉利海峽より三十五哩を距てゝソンム河の岸に在り、街路直濶、家屋美麗にして、市内に六万卷を藏する圖書館、博物館、劇場、市廳、騎兵屯營等あり、製産物は木綿、毛織、天鵞絨等なり、建物の最著名なるものはゴチック式伽藍にして、十三世紀の建築に係り歐洲有數の華麗なる建物にして内部殊に壯嚴なり、長さは四百七十一呎、高さ百四十呎、塔尖は三百九十二呎の空に秀で、猶竣工せざる二個の塔は各二百呎に達す、此市に曾て英、佛、西、和四國の間の爭點を和解する爲めに千八百〇二年三月二十七日に於て茲に調印されたる所謂『アミアンの平和』なる條約に依りて其名史上に著はる、ピーター、ゼ、ハーミット。ガブリエル、デスツレー。ツカンヂ。及び天文家ヂユランブルは此地に生れたる人なり。

アミアンを出發して數哩の間は見るべきもの殆んどなし、クレルモンを經てクレイル（百四十五哩半）に來れば、此市の近傍小島の中に古城趾あり、シャール六世が其の亂心の間幽囚せられし處とす、此市より巴里迄の間は、急行列車は停車せず、シャンチリ（百五十二哩強）は組絲の製造及び競馬を以て著名の地なり、附近の風景絶佳にして、汽車は暫らく森林の間を通過す、此森林には巨大なる老樹多し、サン、デニ（百七十二哩）に至りて、車窓より壯麗なる伽藍を認む佛國君主の葬式を行ふ所にして、國中最美のゴチック式建物とす、サン、デニを過ぎて僅かに五分、汽車は巴里の北部鐵道停車場に着す、まて數日巴里に滞在して所用を辨じ、一日公使館に至り、西野公使及び書記官公使館員及び、事務局に林學務官長其他に暇を乞ひ、巴里出發の準備をなせり。

る機の避難所に充つるが爲めに、山中に堅牢なる家屋の設置あり。其の四壁は、煉化石を以て築き、箭眼やうの小窓の外、他に窓を設けず。故に暴雪霰と寒氣とを防ぐには、之に越したる手段あるべからず。然れども猶旅客の此の屋内に凍え死することあり。推して以て寒氣の非常なるを知るべし。

往年同行十人の歐客、此の恐るきべ雪嵐に邂逅ひたることあり。當時十人の者共は、迚も此の雪に旅行は出來難しと思ひければ、辛くも一棟の避難所を尋ね當てゝ其の中に入り、堅く鎖して蹲り居れり。爾來其の室内に幾日を過せしやは定かならざれど、是れより若干日を經て後、或る人、不圖同屋内に入りしに、彼の十人の中、六人は既に絆切れ、他の四人は半死半生の體となりて、一言の辭スラ話すこと能はず。百方に手當を加へしかど、更に其の効驗なく、久しからずして黄泉の客とは爲りね。左れば、事の顚末は判然せざれども、只その體爲に由りて察するに、當初彼れ等は、飢餓の餘りに、その牽き來れる數頭の騾を屠りて之を食せしがごとしとさるも能居數日の久しきに渉れるに依り、猶饑き足らで、最愛の一狗を屠り食し、その骨を薪に代へて、一時の凍餓を凌ぎしが、既にして凍餓は益々迫り來れるに、之を防ぐべき材料は皆無となりしかば、遂に堪り得ずして非業の最期を遂げしならん。聞くも憫然なる話にあらずや。

＊　＊　＊　＊　＊

初め閑龍が亞米利加を發見したりしより、各異の冒險者は、陸續歐米の間を往復しけるが、其の都度、米洲には金銀の夥多しきことと、濱の眞砂のごとしなど、仰山なる法螺を吹くものありて、其の風聞忽ち四方に傳播したり。時に、西班牙國にピザロ（Pizarro）一四九六年（我が明應五年丙辰。即ち足利十一代將軍義澄の時）生れ、一五四一年（我が天文十年辛丑。即ち足利十三代將軍義滿の時）死す。秘露征服者なり。と呼べる少年あり。豚の看守を爲して空しく光陰を送りしが、心におもふやう。「何時まで區々の業に從事したればとて何の効あらん。イデヤ職業を改め、彼の寶山に行きて幸運を開かばやと。驟て米洲に到りて土人に取り入り、土人の手より金銀製の裝飾品、幷に同地製造の絹帛、毛布、又は羊駝と名くる負擔の獸を得て、携へ歸りて渡米の證票として西班牙王フエルヂナンド（Ferdinand）に獻納しければ、西班牙王叡感斜ならず、恩賞として「ピザロ」を秘露の知事に任じ、猶一層同地を發見すべき特權を下し給はりぬ。

ピザロ恩命の辱きを感謝し、欣然として『黄金國』秘露をいふ。同地に黄金數多ありたるに由りて、かく名けたるなり。に赴任しけるに、同地には、豫てインカス（我が國にて言へば、天孫人種の如き地位

を經てアミアン（九十五哩半）に達す、急行列車茲に二十分猶豫す。

此市はソンム州の首都にして全國商業の中樞たり、英吉利海峽より三十五哩を距てゝソンム河の岸に在り、街路直濶、家屋美麗にして、市内に六万卷を藏する圖書館、博物館、劇場、市廳、騎兵屯營等あり、製産物は木綿、毛織、天鵞絨等なり、建物の最著名なるものはゴチック式伽藍にして、十三世紀の建築に係り歐洲有數の華麗なる建物にして内部殊に壮麗なり、長さは四百七十一呎、高さ百四十呎、塔尖は三百九十二呎の空に秀で、猶竣工せざる二個の塔は各二百呎に達す、此市に曾て英、佛、西、和四國の間の爭點を和解する爲めに千八百〇二年三月二十七日に於て茲に調印されたる所謂『アミアンの平和』なる條約に依りて其名史上に著はる、ピーター、ゼ、ハーミット。ガブリエル、デスツレー。ヅカンヂ。及び天文家ヂユランブルは此地に生れたる人なり。

アミアンを出發して數哩の間は見るべきもの殆んどなし、クレルモンを經てクレイル（百四十五哩半）に來れば、此市の近傍小島の中に古城趾あり、シャール六世が其の亂心の間幽囚せられし處とす、此市より巴里迄の間は、急行列車は停車せず、シャンチリ（百五十二哩強）は組絲の製造及び競馬を以て著名の地なり、附近の風景絶佳にして、汽車は暫らく森林の間を通過す、此森林には巨大なる老樹多し、サン、デニ（百七十二哩）に至りて、車窓より壯麗なる伽藍を認ひ佛國君主の葬式を行ふ所にして、國中最美のゴチック式建物とす、サン、デニを過ぎて僅かに五分　汽車は巴里の北部鐵道停車場に着す、また數日巴里に滯在して所用を辨じ、一日公使館に至り、西野公使及び書記官公使館員及び、事務局に林學務官長其他に暇を乞ひ、巴里出發の準備をなせり。

る機の避難所に充つるが爲めに、山中に堅牢なる家屋の設置あり。其の四壁は、煉化石を以て築き、箭眼やうの小窓の外、他に窓を設けず。故に暴雪霰と寒氣とを防ぐには、之に越したる手段あるべからず。然れども猶旅客の此の屋内に凍え死することあり。推して以て寒氣の非常なるを知るべし。

往年同行十人の歐客、此の恐るべき雪嵐に邂逅ひたることあり。當時十人の者共は、迚も此の雪に旅行は出來難しと思ひければ、辛くも一棟の避難所を尋ね當てゝ其の中に入り、堅く鎖して蹲り居れり。爾來其の室内に幾日を過せしやは定かならざれど、是れより若干日を經て後、或る人、不圖同屋内に入りしに、彼の十人の中、六人は早既に絆切れ、他の四人は半死半生の體となりて、一言の辭スラ話すこと能はず。百方に手當を加へしかど、更に其の効驗なく、久しからずして黄泉の客とは爲りぬ。左れば、事の顚末は判然せざれども、只その體爲に由りて察するに、當初彼れ等は、飢餓の餘りに、その來き來れる數頭の騾を屠りて之を食せしがごとし。さるも籠居數日の久しきに渉れるに依り、猶饑き足らで、最愛の一狗を屠り食し、その骨を薪に代へて、一時の凍餓を凌ぎしが、既にして凍餓は益々迫り來れるに、之を防ぐべき材料は皆無となりしかば、遂に堪り得ずして非業の最期を遂げしならん。聞くも憫然なる話にあらずや。

＊　＊　＊　＊　＊

初め閣龍が亞米利加を發見したりしより、各異の冒險者は、陸續歐米の間を往復しけるが、其の都度、米洲には金銀の夥多しきことゝ、濱の眞砂のごとしなどゝ、仰山なる法螺を吹くものありて、其の風聞忽ち四方に傳播したり。時に、西班牙國にピザロ（Pizarro）一四九六年（我が明應五年丙辰。即ち足利十一代將軍義澄の時）生れ、一五四一年（我が天文十年辛丑。即ち足利十三代將軍義輝の時）死す。秘露征服者なり。と呼べる少年あり。豚の看守を爲して空しく光陰を送りしが、心におもふやう。「何時まで區々の業に從事したればとて何の効あらん。イデヤ職業を改め、彼の寶山に行きて幸運を開かばやと。驟て米洲に到りて土人に取り入り、土人の手より金銀製の裝飾品、幷に同地製造の絹帛、毛布、又は羊駝と名くる負擔の獸を得て、携へ歸りて渡米の證票として西班牙王フエルヂナンド（Ferdinand）に献納しければ、西班牙王叡感斜ならず、恩賞としてピザロを秘露の知事に任じ、猶一層同地を發見すべき特權を下し給はりぬ。

ピザロ恩命の辱きを感謝し、欣然として『黄金國』秘露たいふ。同地に黄金數多ありたるに由りて、かく名けたに赴任しけるに、同地には、豫てインカス（我が國にて言へば、天孫人種の如き地位なり。

太西洋

新大陸に航せんとて、巴里の旅館を出でしは七月二十五日なり。朝七時柳澤伯を訪ひ、共に相携へて停車場に赴き、八時半の汽車に乘りて、セルブル港へと向ふ。セルブル港は英吉利海峽に面せる一大良港にして、巴里より新大陸に渡航するものの必ず經べきところなり、途中汽關車火を發したるが爲め豫期の時刻より後るる事二時間、漸く夜八時出帆の阿米利加行汽船に搭ずる事を得たり。汽船は獨逸ロイド會社のウィルヘルム大王號にして噸數一萬五千噸を有し、世界有名の快走船なりといふ。廿六日佛英の海峽を出でて太西洋に出づ。久しき間われ等が跋渉したる歐洲大陸の山影は一時間毎に次第に雲烟模糊の中に沒却し行きて、遂には其の髣髴だも認むること能はずなりぬ。あゝ、歐洲大陸の山も遂に見えずなりぬるなり。然もその中に數月を過したる事を思へば、我等は甚だ心の動くを禁め得ざりき。船中の食堂は七百人一時に食卓に列し得るの大堂にして、談話室、音樂室、吸烟室、讀書室等皆美を盡し、善を極めざるなし。これが爲めわれ等は更に太西洋中の船中にあるがごとき感を覺ざるのみならず、却つて一大遊園にあるがごとき心地せらる。談話室、音樂室、甲板上に排列せられたる籐椅子等は多くは婦人連の占領する所となりて、男子は讀書室かさらずば吸烟室に籠城して、或は文讀み、或は火酒をのみ、骨牌を弄するを常とす。われはつれ〴〵なるまゝ故郷に送るべき書翰數通を書きつ。

廿六日正午までに三百九十海里を走り、廿七日正午には猶それより五百五十海里の遠きを走れり、寒氣俄かに骨に徹し、乘客皆外套を製ねざるものなし。毎夕食後に前二十四時間に汽船の進行哩數の競市を爲し若干の賞金を懸くる等の

に在りしもと言へるのなり。

て、或る事業に掛けては、ピザロよりも優れりといふ。元來インカスは、何時の頃より同地に住へるか、誰も知るものなかりき。ピザロ以爲らく。「彼の輩の祖先が同地に來らざりし久しき以前より、他に或る種族ありて彼の輩の今住へる場處に住ひ、而かも彼の輩と同等以上の文化の程度に達し居りしならんと。實にピザロの推量のごとし。而して爾來彼の地に渡航したる人々は、廢屋、又は偶像の類を屢ば地中より掘り出しけるに由りて、彼れが推量の的中せるを知れり。但し此の廢屋、及ひ偶像類は、地震の爲めに地下に埋沒したるものならん。輓近掘り出されたる偶像の中には、三丈以上の長けのものあり。此の偶像孰れも地下より出でしものにして、他處より得たるものにあらざるが故に、頼りて以て同地に曾て偶像禮拜の行はれたる時のありたるを證すべく、且つこの偶像を以て、其の頃に行はれたる建築術の標本と爲すべし。其の他また牢獄も地下より掘り出され、割烹道具も掘り出されたれば、後人之に由りて、當時罪人を禁獄の刑に處したるを知り、調理法の梗槩を窺ふを得たり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

口碑に據るに、秘露初代の王をマンコ、カパック(Manco Capac)西洋人の推量には、一千百七年(我堀河天皇の嘉承二年丁亥)の頃の人ならんといへり。されどそれよりも以前なるべしといふ。其の妃マヽ、オエロ(Mama Oero)を携へて、始めてチヽカヽ湖(秘露と玻利非亞との間に在る湖なり)の邊に天降り、土人に告ぐらく。「我れ等は日輪の子なり。父日輪、汝等の獨導として我れ等を降し給へり」と。マンコ王又手に持ちたる黄金製の杖を指して言へらく。「我れ或る特別の場處に到り、此の杖を以て其の地を打つときは、杖は立ちどころに消え失すべし」と。其の後、王は王妃を伴ひて各地を漫遊しつゝありしが、偶まクーズコーの平原に到れる時、不意に彼の金杖を以て地面を打ちければ、杖は忽ち消え失せぬ。王言へらく。「この地コヽ、我が京城と爲すべきところなれ」と。依て此の地に首府を建て、其の後また日輪の爲めに宏壯なる祠を設けて、之をコリカンチャ、即ち黄金廟と名けたり。黄金廟は、今存せざれども、數多の證據に由りて考察するに、其の巨大なることは譬へんに物なく、その華美なることは、その代表する日輪にも讓らざりしならん。祠の西壁に絶大なる人面あり。黄金を以て之を製す。その光輝燦爛として四周を眩ゆからしめたり。祠内の他の部分には、肖像、器皿、及ひ百種の像あり。凡て黄金を以て製せり。是を以て、眞の太陽が此の祠を照らすに當りては、美觀言

賭戯を爲し、或は慈善演藝會を催して佳人等の彈琴の妙に誇るなど實に海上の一大倶樂部たるに異らず、今更ながら歐米諸國の快樂を求め慰藉を與ふる方法の完全したるに驚かずんばあらず。廿八日午後甲板上にて外人と遊戯を試み、酒餘に入りて火酒を飲む、夜談話室に入りてさまゝの談話を爲す。

米國紐育府

船はかくて新大陸に着しつ。ローヤー灣頭先づわれ等の目を惹けるは、ベッドロース島と名けられたる一小島の岸頭に、十年前米國獨立第百年の祝典の際佛國より寄贈されたりといへる有名なる自由の銅像あり、その像は美しく立派なる女神の大立像にして、この女神則ち自由の神をかたどれるものなるが、高さ百五十一呎花崗石の基礎を通算すれば、殆ど三百六呎の高さに及ぶといへり。まして右手を擧ぐれば赫灼たる燭光海上數里ふべからず。人面の下に數脚の椅子あり。亦黄金を以て製し、その上に歴代諸王の死屍を安置せり。皆木乃伊と爲したるものなり。黄金廟の傍に、稍々小さき五棟の祠あり。その一つは月を祭れる祠にして、又一つには金星を祭り、第三はプレーアッド（金牛宮の項に當れる七個の小星の名）の祠、第四は雷電の祠、第五は虹の祠是れなり。皆金銀を鏤めたれば、その華麗、筆紙に盡し難し。現今に於ては、日輪の祠の跡に一宇の教會と、一宇の精舍と立てり。

世に傳ふるところに據るに、マンコ王は彼の金杖を失ひてより、其の地に都を建て、億兆に君臨し、法を立て、稼穡、建築、鑛山の業を敎へ、且つ高僧として衆生を濟度し、また王妃は、女工を授けしが、四十年を經て後、世を辭して、父なる日輪の許に歸り、復び出で來らざりしといふ。

マンコ以後、累代諸王相續で人民を統御し、巧に敎化を施せしかば人々生を樂み、業を勵みて、安樂幸福なりき。當時猶クーズコーを首府とし、汽機、電線、電話機等の發明のわらざりしにも拘はらず他の方法を用ゐて、首府より各地に交通往來の便を設けゝれば、人民鼓腹擊壤して、愉快なる日月を送れり。西班牙人が突然同國秘露を妨げたるは、正に此の時に在り。

を照し、夜間はよく燈臺の用を爲すといふに至つては、誰か驚嘆せざるものかあるべき。それより砲臺と船渠とを左右に見て、いよ〳〵その灣口近く進み入れば、黑煙を天に澎せる烟突の林、櫛の齒を挽くがごとき高厦の列を遙かに地平線上に認め得ると共に、驚くべき一大江橋の遠く天に横れるを見落す事なかるべし。これ紐育市と對岸なるフルリクリン市とを聯絡せる、實に世界第一と稱せられたるフルークリン大橋なり。この釣橋は一千八百七十年に起工し、十三年の功を積みて、漸く一千八百八十二年に竣工したるものゝよしにて、その工費は實に千五百萬弗（凡そわが二千萬圓）を費したりと聞く。橋の全長五千九百九十呎、廣さ八十五呎にして、全部は悉く鐵及び銅より成立ち、中央に二箇の壯大なる花崗石にて造られたる大弓門あり。その相互の距離は千六百呎の遠きに達し、頂上より兩面に向けて、太さ直徑一呎六吋なる大綱

秘露の原人は、遠く數百年の昔に死絶え、且つ記錄の傳はれるものなきを以て、毫も之を知るべからず。而して征服種族たるインカスが、他の人民の間に非常に尊崇を被むりたることは、今の歐米人等の想像し能はざるところなり。是れインカは、マンコ王と同じく、一身にして僧俗の二權を握り、殊に日輪の子孫、即ち天孫なりと信せられたるを以てなり。

* * * * * * *

十六世紀の初葉に、時の秘露王の殂するや、其の二子、王位を爭ひ而して其の一人なるアタホールパ（Atahualpa）は、他の一人に勝ちて王位に即きしが、此の時早し、彼の時遲し、ピザロは、偶々數十の從者を伴ひて此の國に上陸しければ、民心の動搖に乘じて、アタホールパを殺し、首府クーズコーを占領せり。是に於て、同國に於ては禍福忽ち地を換へ、爾來人民は慘澹たる悲境に陷れり。

抑もピザロが、此の國に來りしは、同地に有り餘れる財寶を、思ふが儘に攫取せんと欲してなり。されば、その一朝クーズコーの首領と爲るや、日像は勿論、凡て何物に拘はらず、手當り次第に奪掠して、各自の懷を肥し、更らに西方リマーク河畔に進みて、茲に都を建てたり。此の都、初めは王都と名けしが、久しからずして

線を放つこと四條、この本線より更に二千百七十二條の鐵索を分派し、これにて巧にこの大鐵橋の橋桁を維持せしむ。弓門の高さ滿潮の時といへども水面二百七十呎を下ること無く、橋面亦百三十呎を下ること無ければ、いかなる巨舶大艦といへども自由にその橋下を通過することを得ざるなし、橋面は五道に分れて、中央を歩行道、兩側を渡河鐵道として索繩及び電力を併用すべき鐵道に充て、その兩端を普通の車馬の道に充てたり。而して其橋の兩極端には廣大なる高架鐵道の停車場を設け、樓上は普通の高架鐵道に連絡せしめ、樓下は市街鐵道に連絡せしむるなど、その構造の壯大なる、われ等日本人の眼には殆ど名狀すべき言葉をも知らぬばかりなり。それさへあるに、その上の行人車馬織るがごとく、汽笛の聲ば車馬の響と相交り行人の聲は短靴の音と相接して、遠く渺茫たるホトソン河上にひいきわたる一種の單調なる響は日夜絶ゆる事なきにあらずや。船は港頭を距る事一哩ばかりの處に留り、北處には三箇の小汽船埠頭より往來して、絶えず旅客を上陸せしむ。棧橋の構造また極めて宏大にして、流石は阿米利加の大都會なるを思はしめずんばあらず。概して歐洲大陸より新大陸に旅行したる旅客の感は先づ其地の商工業の發達の盛なるにある由なるが、われ等も紐育の市街のさまを船の中より一瞥して、已にその感の起るを覺えぬ。ことに上陸してかれ等の最も目新しく感ずるは、高架鐵道の多きことと、高厦大樓の夥しき事となり。就中高架鐵道は歐洲には未だ見られざる一種の巧なる構造にして、大街の中央、馬車道の頂上に、鐵道陸橋の形したる棧道を架し、線路は大概四條の軌路を備へ、市内と市外との二線ありて、其に順環鐵道を形ちづくり、列車の發着殆ど間斷なきばかりなれば、その効用は遙かにロンドンに於る地下鐵道、ペリマと改めたり。今の秘露の首府是れなり。

ピザロの部下に屬する兵士の中にアルマグロ(Almagro)一四六三年(我が寛正四年突厥天文七年戊戌。即ち足利十三代將軍義晴の時)生れ、一五三八年(我が天文七年戊戌。即ち足利十三代將軍義晴の時)死す。なるものあり。その慾心ピザロに讓らず、掠奪の額も亦伯仲の間に居りしが、ピザロが分捕品を友人に配分せんが爲めに、本國に歸りし時、アルマグロは、其の無きを時として、みづからリマの元首たらんと企てしかば、ピザロ大に怒りて、アルマグロを捕へて、之を死刑に處せり。されどアルマグロの子は、又ピザロを暗殺して父の讐を復せしとぞ。噫々ピザロが榮華も一睡の夢に過ぎざりしぞ憫然なる。

ピザロが秘露に上陸したる瞬時より、古のインカは、漸く曖昧の淵に沈み、全地漸く征服者たる西班牙人の有に歸せんとして、干戈休む時なく、修羅場を現出することも少なからず。秘露人、飽く迄も死力を竭して西班牙人に抵抗したりしも、武勇熱練相匹敵せず。兵器糧食また足らざるより、遂年其の領地を蠶食せられ、一時全く其の屬地とせられたり。然れども西班牙人が統御の法、宜しきに稱はず。厳制苛刻甚だしかりしかば、秘露人何ぞ堪ゆべけん。一千八百二十四年我が文政七年甲申秘露の地の戰に大勝を博し、遂に西班牙の羈絆を脱して獨立共和國と爲れり。今の大統領

は、明治二十三年に職に就きたるものなり。

* * * * * * *

此の秘露國は、南緯一度より起りて十九度に達し、西經六十八度より始りて八十一度二十分四十五秒に至る。面積凡そ五十萬方哩、人口凡そ二百九十七萬あり。

首府リマは人口凡そ十三萬。家屋宏壯なり。然れども氣候甚だ惡しくして、死亡非常に多し。この地、冬季の間は、霧極めて深くして數日、或は數週の間、恐も太陽を見ること能はず。左れば、この地に雨の降らざることは、西洋の俚諺にも知らるゝところなれども、四洋の諺に「リマに雨なし」といへり。通行の人は、猶防霧の爲めに傘を用ゐざるを得ず。」

(往古は、この地を以て罪人の謫處に充てたり。然るにピザロ其の義を知らずして首府を建てたるなり。世に傳ふるところに據れば、秘露の末王アタホールパ。ピザロが茲に首府を定めたりと聞きて、欣喜雀躍したりといふ。是れその長く生存せざるべきを思ひてなり。)

リマの近傍に一箇洞あり。中に一箇の偶像の安置せらるゝあり。之をリマイックと名く。リマイックとは、『口きくもの』といふ義なり。其の理由を聞くに、その偶像曾て辭を發したるに由りて此の名を得

ルリンに於る高架鐵道に勝ること萬々なりと言ひても決して過言にはあらざるべし。只その不利とする所は街頭の中央に高く線路を架するを以て、大に市街の風景を害し、且強大なる音響を四方に傳へて、人間をして少なからざる不快を感せしむることにあれど、乘客の昇降極めて便に、遠く停車場を求むるの煩とても無ければ、この點に於ては他の市街鐵道と異なる所なしといひても不可なる無し。次に驚くべきは、前に云へるごとく大厦高樓の多き事なり。紐育市の地勢は河海中に突出せる半島形の最端の處にありとはいへ、しかも兩面に港灣を帶びれば、船舶の發着極めて頻繁にして、新大陸と舊大陸との交通も、こゝを經ざれば華盛頓、シカゴ、費府、等に及ばざる程の處とて、銀行、會社は勿論、郵便局、新聞社等概ねこの地に集り、隨つて地價の騰貴夥しく、遂に至る處高樓大厦を見るに至りしにて、五層、六層、十層、甚しきは二十層の高さに及べるものすらあり。一望すれば、そのさま恰も劒の山を實現したるがごとく、ところ〳〵尖塔立ち、烟突聳え、大厦並び、瓦甍連り、その眺矚の壯大なること容易に想像すべからざるものあり。ことにかゝる高厦を建築するには、その基礎を堅固にせざるべからざるは元より言を俟たざる事とて、この柱、梁、桁、架等、皆悉く鋼鐵を以て組立てられ、最初先づ一個の鋼鐵の高樓を作り、然る後に、石或は煉瓦を以て四壁及び隔壁を築くを常としたりといふ。建築術の進歩驚くべし。

動物園は市内中央公園の中にあり。これを倫敦のものに比すれば、規模極めて小にして、蒐集また甚だ廣からざれども、中央公園の風致に富めるは、同市に遊ぶ人の必ず一たび訪はざるべからざるの地なり、園中には奇岩起伏して恰も小丘の連れるがごとく、湖水、氷滑池、豬水池等そのところ〳〵にいと巧に點綴せらたりとぞ。首府をリマと名付しも、畢竟偶像に因みてなり。

（此偶像が言を發するは、僧の惡計の出でたるものなり。ビールド著『南亞米利加』(Hield's South America) に據れば、參拜の者おる毎に、僧は偶像の或る凹みたる部分に隱れつゝ言を發し、而して尊像某々の事を宣ふと稱して、愚民を誑したりといへり。）

秘露は、地震の頻繁なるを以て世に知られたる國なり。首府リマの如きは殊に甚しく、古來大震災に罹りて全市悉く破壞したること五六回の多きに及べり。今日といへども、夜間に、大地激しく鳴動して數萬の住民の眠を破ることあり。人々「スパ大地震よ」とて周章狼狽することの少なからず。

（此の鳴動のもつとも激しきに當りては、老弱男女は「マーシー、〻〻〻」と叫びながらに戸外に逃れ出れば、僧侶は鐘を鳴らし、優婆塞、優婆夷を集めて救助を神に祈れり。「マーシー」とは、哀を乞ふの語にして、猶我が國に於て「桑原々々」といふがごとし。）

秘露は金山に富み、銀、水銀頗る多し。物産は、從來幾那、鳥糞等有名なりしかど、今は稍々その輸出の額を減じ、砂糖の産額日々に增加せり。又半駄を養ひて其毛を剪み、駱馬を飼ひて之を使用す。

第三節　智利

智利は、細長き國にして、秘露の南に在り。東方は安的斯山脈を以て亞然丁との界を限り、西方は渺漠たる太平洋に面す。南緯十八度二十八分より起りて、五十六度三十五分に至り、西經六十六度三十分に始まりて、七十五度四十分に達す。面積凡そ二十五萬六千八百五十方哩、人口凡そ二百七十一萬五千九百二十六あり。我が日本國と正さしく對蹠の地たり。故に我れの正午は彼れの夜半にして、彼れの正午は、我れの夜半に當るなり。

智利なる語は、蒼き秘露の語にして、雪の義なり。何故に此の地方を雪と名けしやと尋ぬるに、彼の四時白雪を戴ける安的斯山、國の東方に屹立し、一たび國境に入れば、常に其の巓を仰き視るべきを以て、其の雪に緣みて、かくは名けたるならん。

安的斯山脈の高さは、五千呎乃至一萬呎。或は一萬八千呎あり。而して其のもつとも高きアローカニアン山（玻利非亞に在り）に至りては、二萬二千四百二十二呎に達すといふ。

此の國の原人は、何者にして、何時の頃に棲息せしや。吾人毫も之を知ること能はず。ピザロが秘露を征服するに當りて、アルマグロは、更らに鋒を南に轉じて、此の國を攻略したりしかば、爾來此の

礼、其節毎の草花もまた美しくあたりに充ちて、座ろに遊客の心を惹けり。其他其處に博物館ありて、博く衆庶の遊覧に供す、館甚だ大ならざれども、その蒐集の精は、動物園に比して、更に數等の上にあり。遊客はこの公園を訪ひたる序に、猶一歩を進めて、ハドソン河の畔に出で、前の大統領グランド氏の墓を吊はんことを要す。墓は全部石造の大圓高塔にして構造極めて壯麗なり。されどこゝを訪ひたる人は後の高丘にのぼることを忘るべからず。そこより打渡したる紐育の市街は、恰もわが東京全市を愛宕或は上野の山上より望むがごとく、千門萬戸只々一望の下にあつまり來りて、前には、ハドソンの大河滔々として岸を打つて流るゝさまも殆ど諸を掌に指すがごとし。まことにこれ紐育市に於る隨一の景勝たるを失はず。

旅館の數巨多あれども同地にて最も有名なるは、「ワルドルフ、アストリアホテル」「ウエストミニスターホテル」しなどなるべし。われ等は歐洲にては勉めて節儉を旨としたるなりの、せめてこの新大陸にて世界第一の稱ある「ワルドルフ、アストリア、ホテル」にやどりて、出來得る限りの贅澤を盡さんと、柳原伯爵に共に浴室附きの上等室に宿りしが、その愉快なる殆ど譬ふるものなかりき。今此處にその概略を記さむ。同旅館は第三十三丁目より第三十四町目に跨り、前後に入口を有し、その高さは十三層に及び、一層ごとに百室、總計千三百餘室あり。入口には馬車の世話人數名絶えず出入する旅客の世話を爲し、喉場には數百の旅客群集して、そのさま宛として一市場のごとし。客の尋問に答ふる受附一人、それを明きて一々その室割を爲せるもの一人、書信の取次を爲すもの一人、會計を爲すもの一人、其他店員數名絶えず旅客をその室に導きて、その順序の整へる、丁寧親切にして更に誤謬を生せざる、驚くべ

國は、久しく西班牙の配下に屬せり。然れども今は全くその羈絆を脱し、純乎たる獨立の共和國たり。

首府をサンチアゴといふ。人口十八萬九千三百二十二。市街美麗にして、大道四通し、高堂邃宇頗る多し。

此の國の人民は、秘露人と同じく、古來屢ば震災を被むりて、住宅家畜共に生きながら地下に埋沒せらるゝもの其の數を知らず。然れども一千八百六十三年我が文久三年癸亥に、サンチアゴ府民の頭上にふりかゝりたる厄難の如きは、彼の震災に減せざるべし。今その顚末を略叙せん。當時偶ま寺院に於て最と盛なる大法會を行ひ、數萬の善男善女寄り集ひしが、如何なる過にや、華麗を極めたる飾裝品の或る部分より火を失し、見る々々焔は天に漲りしにぞ、來會の者何條周章狼狽せざらん。出口々々より逃れ去らんとして、推しつ、推されつ、蹈み殺さるゝもの甚だ多く、焚け死ぬもの、煙に卷かれて窒息するもの、石。死。桁の類に擊たれて死するものなどを合すれば、無慮二三千人に下らず。而して其の大半は婦人なりしといふ。此火災の後、間もなく其の墟址に記念碑を建設して、厄難の記念を後世に傳ふべからしめたり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

西班牙人が未だ此の國に渡航せざりし以前、秘露より上代のインカス族卒ゐて、アタカマ大沙漠を超え來りて、數箇所の地を攻略したりしことあり。アタカマ大沙漠近傍は銀山に富めども、頗る寂寥の地なり。且つ降雨に乏しく、地面乾燥して植物生長せず。旅客此の地を通行するに頗る不便を感じたりしが、今や鐵道の横斷せるあるを以て、久しく足を駐むるを要せず。

アルマグロが此の國に來りたる當時は、アローカニアン種族と名くる土人ありて、全住民の大半を占め、率先して痛く西班牙人の侵入に抵抗したりき。この種族は、男女共に乘馬を好みて、もつとも馭法に長せり。その住宅は、小枝を編みて之を組み立て、上に粘土を塗れるを以て、宛ながら我塗家の粗末なるものに似たり。夜に至れば、男女長幼犬馬に論なく、悉くその中に雜居して、華胥の國に遊べり。

この種族の間には、一夫多妻の制行はれて、何人も隨意に數多の妻妾を蓄ふるを得たり。而して妻妾等は、皆各自に火を焚き、食物を調理して、各々一皿を良人に供するの奇習ありしかば、戸毎に用ゆる竈の數は實に夥多しかりき。且つ何人にても、妻妾の員數を問はんと思はゝ、「足下は幾何の火を有せらるゝや」と尋ぬるをもつとも

し。少しく隔りたる所に荷物掛あり。その下に荷物滅あり。例のエレベートルありて、盛に荷物の揚卸を爲せり。大食堂數ケ所、烟草店、コーヒー店、書店、酒店、理髮店、靴磨店、舞蹈室、音樂室、婚儀室、等一つとして備らざるなく、一つとして善を盡し美を盡さいるなし。ことに便利なるは、室へ昇降するにエレベートルを用ゆる事なり。われ等六階に上らんと欲せば、その入口に立てる案内者を呼びて、「シッキス」と叫ぶ。さすれば便利なるエレベートルは直ちにわれ等を其室の階上まで推上げて、其處よりわれ等の室に歸るを得せしむ、昇降口の傍には一階ごとに郵便室ありて、手紙、電信、電話皆こゝにて辨せざるはなし。屋上には屋上園ありて、其處には珍卉奇草を排列し、茶店あり、音樂所あり、料理店ありて、その至便至樂なる、恰も極樂境に住めるものに異ならず。

紐育はその人口の多さと、その商業の盛

盛勢なる問ひ方としたりしといふ。

此の種族は、迷信の心深けれども、堂社を建てず、僧侶を置かず。只各自の尊崇する山林に入りて、或る特別なる樹下に、或る動物を供ふるのみ。家族の中に夭死を爲すか、若くは天壽を終ふることを得ざるものあるときは、必定惡魔の所爲と思考し、食事ごとに、我が膳の上なる、あらゆる食物の一部を先づ地上に投じて、厄難排除の兜とす。是れ惡魔の歡心を得べしと信ずるを以てなり。

西班牙軍侵入の際、種族の中に火藥の製法を知るものなかりしより、戰ふ毎に痛き失敗を被むりしかば、種族は、その製法の秘傳を探り知らんと欲して、頗に心を苦めしが、一日、西班牙軍の中に若干の黑人の兵士なりたるものの混せるを見て、其の皮膚の色の火藥に似たるに眼を注ぎしが、爾來火藥は、必定彼の黑奴を黑燒にせし粉末ならんと思ひけるとぞ。

此の種族の子孫は、今僅かに殘存し、河堤、若くは荒野を徘徊して幸福なる生涯を送れり。而して種族の間に行はるゝ自由の觀念は、我が行かんと欲する處に隨意に行き得るに在り。故に市都の廓内に住する人民を見て、那の者共は奴隷なりといへるとぞ。

* * * * * * *

なるとの二點に於ては、獨り米國に於て第一位を占むるのみならず、世界各國に於ても倫敦を除きて他にこの比を見ずといへるは、信に庶幾し。人口は殆ど二百五十萬を有し、船舶の繫をこの港に置けるもの亦數萬の多きに及べりといふ。ことにホトソンの大河を隔てゝ、東に百五十萬の人口を有せるフルクリンの大市と、西に同じく數十萬の人口を有せるセルシーとを控へて、その三市の形勢また一都府たるべきの地位を爲したれば、近時行はれつゝあるこの三市合併說のいよ〳〵實行の運に至りて、大紐育と稱する一大都府となりたらんには、人口四百萬の多きにのぼりて、その繁盛は殆ど英國の倫敦府を凌ぐに至らんといふも決して過言にはあらざるべし。

寺院の大なるものは先指をトリニチー寺院とシントホール寺院との二つに屈す。トリニチー寺院はホードウェイの西側にありて美しきゴチック風の建築なり。長

獨り米國に於て第一位を占むるのみならず、世界各國に於ても倫敦を除きて他にこの比を見ずといへるは、信に庶幾し。人口は殆ど二百五十萬を有し、船舶の繫をこの港に置けるもの亦數萬の多きに及べりといふ。ことにホトソンの大河を隔てゝ、東に百五十萬の人口を有せるフルクリンの大市と、西に同じく數十萬の人口を有せるセルシーとを控へて、その三市の形勢また一都府たるべきの地位を爲したれば、近時行はれつゝあるこの三市合併說のいよ〳〵實行の運に至りて、大紐育と稱する一大都府となりたらんには、人口四百萬の多きにのぼりて、その繁盛は殆ど英國の倫敦府を凌ぐに至らんといふも決して過言にはあらざるべし。

寺院の大なるものは先指をトリニチー寺院とシントホール寺院との二つに屈す。トリニチー寺院はホードウェイの西側にありて美しきゴチック風の建築なり。長

第四節　玻利非亞

玻利非亞は、秘露の南に在り。東北は伯西に界し、南は巴拉圭、亞然丁、智利に隣る。西方一帶、安的斯山脈の連亘せる海岸の地は、皆て此の國の版圖たりしが、我が明治十七年（一八八四年）智利に讓り與へたれば、今は全く海なき國と爲れること我が甲州に同じ。

但南亞米利加に於て海なきは此の國と巴拉圭となり。

此の國は、南緯八度より起りて、二十三度に至り、西經五十七度三十分より始まりて七十三度に達す。面積七十八萬四千五百五十五方哩。人口二百三十三萬三千三百五十あり。此の國を玻利非亞と名けし所以を尋ぬるに、往昔ボリヴアー（Bolivar）一七八三年（我が天明三年癸卯）生れ、一八三〇年（我が天保元年庚寅）死す。といへる人、西班牙の虐政に抵抗して、此の國を獨立せしめたるより、遂ひに其の名を取りて、玻利非亞國とは爲したるな

麥の收穫少なからず。銅、銀、獸皮、羊毛また主要の輸出品とす。元來この國は、秘露と同じく、鑛物に富めども、土人は黃金を珍重せずして、寧ろ銀、銅を珍重すといふ。

さ百九十一呎、廣さ八十呎、高さ六十呎にして、屋底より尖頭までの全長二百八十五呎に達せり。シントポール寺院はそれを距ること遠からざる所にありて、こは紐育市中最も古きものと稱せらる。其他公園にては中央公園、ツーウ公園、劇場にてはメトロポリタン、ヲペラ座等殆ど片言隻紙のよく盡すべきにあらず。

費府

子は邦人三島虎太郎氏と共に、八月六日費府に赴きぬ。費府は合衆國の三位に位する大都會にして、テレウエア河とシユールキル河との間の平原に横り、人口殆ど百二十五萬を有し、大西洋を距ること大凡八十六哩の處にあり。南北の長さ二十二哩、廣さは五哩より十哩にて、家屋の構造は左程完全したるものなけれど、倫敦府に於て國會州はどの廣さと思はゞ大過なかるべし。町の數一千百五十、煉瓦を布きたるもの殆ど九百坊の多きに達せり、此府に於る家屋の特色とも言ふべきは、大概二階乃至三階の赤煉瓦づくりにて、白き大理石の階梯と白色或は綠色の窓の多き事なるべきか。海陸交通の他亦極めて便にして、製造業の繁盛なる又よく紐育の次位に立てり。府中最も派かなるは、マアケット街にて、最も立派なる商店、新聞社等を有せるはフエスナット街なり。フロウド街は南北に走れる府の大路にして、車馬の音日夜絶えず。市廳はフロウド街とマアケット街の交れる所にありて、大理石もて築き起されたる立派なる建物なり。南北の長さ四百八十六呎、廣さは四百七十呎にして、合衆國に於ては壯大なる建築の一たるを失はず。其に對せるをフロードストリートの停車場と爲す。上中下の客室は各々その度に應じて立派なる粧飾を施し、規模の壯大なるまた當府に於る壯觀たり。其他ノルマン風に築かれたるマソニック寺院、大理石を以て悉く建てられたる此の國には、もとアントフアガスタと名くる一箇の港ありしが、我が明治十七年、智利の爲めに西南端なる海岸地方を奪はれてより、此の地も亦たその有に歸したれば、今は全く海なき國とは爲りぬ。

首府をスークレーといふ。人口一萬二千。又ラパズは、此の國第一の都會なり。

ポトシといふ。銀の產出無盡と稱す。その他の物產は、幾那、椰子、絹、鐵器等なり。銀鑛あり。

第五節　伯西

伯西は、南亞米利加の中央以東を殆んど全く占有せる大國にして、面積三百十一萬九千七百六十四方哩。其の大さ本洲に比類なく、合衆國といへども、アラスカを除けば、此の國よりも小さし。然れども、その人口は、纔かに一千四百三十五萬四千二百十七ありて、之を我が日本國が纔かに十六萬一千一百六十二方哩の面積を有しつゝその人口の四千五百四十萬零五千三百三十五あるに比すれば、固より日を同ふして語るべきにあらず。

此の國は、北緯四度二十二分より起りて、南緯三十三度四十五分に至り、西經三十四度四十分より起りて、七十三度十五分に至る。赤道に跨れる國なり。北は、大西洋、貴亞拿、委內瑞拉に界し、東は大西洋に臨み、南は烏拉圭に接し、西は厄瓜多、秘露、玻利非亞、巴拉圭、亞然丁同盟國に隣る。全國地味膏腴にして、珈琲の產出夥多しく、世界萬國概ね供給を此の國に仰ぐ、是れ氣候極めて暑くして、毎歲兩三回その實を結ぶによりてなり。又砂糖、穀類、菓實、護謨を產し、黃金、鐵、銅、石炭、金剛石多し。

此の國は、一千五百年（我が明應九年庚申。即ち足利十一代將軍義澄の時。）葡萄牙の航海家ペドロ、アルヴアレズ、カブラル（Pedro Alvarez Cabral）の發見するところにして、爾來久しく同國の屬地たり。一千八百二十二年（我が文政五年壬午）本國の羈絆を脫して獨立の帝國を建てしが、同八十九年（我が明治二年己丑）最後の帝ドム、ペドロ（Dom Pedro）は、無邪氣の君子なりしかば、我が立君政體の亞米利加に適せざるを察して、みづから位を退き、共和政治に改めたり。是に於て將軍デオドロ、ダ、フヨンセカ（Marshal Deodoro da Fonseca）を大統領に選び、立憲議會を開きて憲法を制定し、大統領の任期を四年と定む。實に我が明治二十四年なり。

首府をリオ、ジヤヂイロといふ。人口八十萬。國の東南岸に在り。洲中第一の都會にして、貿易の要港なり。

合衆國大銀行等あり。美術院はチユリー街の一端を將に左に此らんとする處にありて、ベニチヤン風に築き興されたる大厦なり。その設立は一千八百〇五年にして、古代現代ともに皆悉く卓れたる美術を蒐集し、名畫五千點、彫像七千點、猶他に五千餘點の彫刻を藏したり。而して生存せる名家の作品は年々冬期に於てこの院内に展列せられ觀者雲のごとく遠近より集り來りて、その盛なる容易に名狀すべからざるものありといふ。圖書館またところ〴〵に建設せられ、大小中の學校は公私の別を問はず、市街の到る處に開かれて、教育の普及も又決して他市に讓らず。ことに最も注目すべきは、費拉府に於る大學なるべし。境内極めて淵く、構造また壯大にして、現今二千八百名の學生を有し、尤も醫學と政治經濟とに於て名聲あり。しかも費拉府の世界に誇るに足るべきものは、市街に似合ぬ廣くすぐれたる公園を有する事なるべし。名をフエアマウント公園と言ひて、世界に於ける最大市公園の名を博せるもの則是なり。廣さは殆ど二千九百アックルに達し、その園の一端は遠く延びてシユルキル河の畔に至れり。人工的粧飾に乏しきはこの公園の少なからざる欠點なれど、しかもこれを補はんが爲めの自然の大景は到る處にその美しき手をひろげたれば、確かに名公園の一たるに負かざるべし。公園中名士の立像尠なからず。その入口はクリン街の盡頭になりて、市廳より僅かに二三哩の距離に過ぎず。

華盛頓府

華盛頓は市府として大なるものにあらずされど首府としては大なりといふべし、華盛頓は各種の男女の市府なれど、大建築の市府にあらず、其の建築の特に注意を惹くべきは白き丸屋根ある國會議事堂とホワイト、ハウス（大統領官舍）とあ

人民は、葡人の子孫多く上流の地位を占めて葡語を用ゆ。また土人混合種、及び黑人あり。

第六節　巴拉圭　烏拉圭

巴拉圭は、伯西の西に在り。北は玻利非亞に界し、西より南は亞然丁同盟國に隣る。面積九萬千九百七十方哩。人口四十七萬六千あり。氣候平均七十三度。（華氏寒暖計）頗る人身に適す。軫々として文明に進むの點に於ては、南米第一流の中に列すべし。

首府をアツスンシヨンといふ。人口三萬五千。

物產は、一種特別の茶を第一とす。その他、砂糖、橙、皮、烟草、樹脂等なり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

烏拉圭は、伯西の南に在り。東は亦伯西に界し、南は大西洋に臨み、西は亞然丁に隣る。面積七萬二千百七十一方哩、人口七十四萬八千百三十あり。全國到る處、牧場ならざるはなし。土人多く牧畜を業とし、牛馬を以て富の基と爲す。獸皮、獸毛は、輸出品の重もなるものなり。

首府をモンテヴヰデオといふ。人口十七萬二千あり。

第七節　亞然丁同盟國

亞然丁同盟國は、南亞米利加の最南に在り。北は玻利非亞に界し、東は巴拉圭、伯西、烏拉圭、及び大西洋に接し、南は大西洋に臨み、西は智利に隣る。面積百十二萬五千零八十六方哩、人口四百二十五萬七千あり。ラプラタ國と、パタゴニア國と相合して一國と爲れるものなり。ラプラタは、國の北部に在り。又パタゴニアは、南部に在りて、その一部は智利に屬す。全國教育漸く普及し、通商漸く盛大に赴き、南亞米利加の中に在りて、智利と共に開明に進めり。首府をビユーノス、エーリズといふ。人口五十六萬八千六百四十四。南亞米利加屈指の都會なり。

此の國は、もと西班牙の屬地たりしに依り、西班牙人の子孫多し。土人は、身の長け極めて高きを以て世に知らる。彼のフレデリック大王（Frederick the Great）（羽化生著「七年戰史」を見るべし）の父フレデリック、ウヰリアム一世（Frederick William 1.）が揃へし丈高き兵士をパタゴニアの『ノッポ』といひたることは、マコーレー（Macaulay）著『フレデリック大王』を讀みたるもの、能く知るところなり。

輸出品は、毛、皮、羊皮、獸類、小麥、鹽肉等とす。

るのみ、富人名士の邸宅は大統領官舍の附近にあり、小屋小店は議事堂に近く建ち列びたり、華盛頓は決して麗都に非ず一の街道として粗糙なる建物を見ざるなし、華盛頓の愛すべき點は別に存す。

コンヂクチカット、アヴェニューは府の西北流行の中心を斜斷せる大道にして府中の華美なる行列服裝は皆此に就いて觀るべし、其の片側の隅に黄ばみたる青色の石造大厦あり、一時は支那公使館たりしが、今は久しく露國公使ストルーヴ氏の住となれり、この大厦の後に外交區と呼ばれたる家續きあり、何れもやすつぱき家と見ゆ、是等は本府に駐劄せる各小邦の公使館なるが、中には以前下宿屋なりしもあり、街道を横切りたる高き板垣には各演劇の繪看板を張り付く、こは毎週土曜日の夜に取り換へらる、府民はさすがに芝居好なれど一ト興行は大抵一週間と定められたるなり、街道の華麗なる側には別に赤煉瓦を畳みたる羅馬カソリック教の大學あり、其の續きには府中の上流社會の邸宅あり、向ふ側には同じく煉瓦造の會堂あり、黑人のメソヂストの會集する處にして、毎日曜の夜には宗教歌及び說教の聲、窓外に漏れ聞こゆ、會堂に續きて許多の市店住宅あれど其の建築、向側のよりは遙に劣れり、さてコンヂチカット街道は其の起點に一石頭ある街道を横ぎると共に富豪の第宅を呈露し來る、中にも一際目立ちて堅固宏壯なるは英國公使館なり。

一箇の華盛頓人として是等の敷石路を歩みて首府の大氣を吸ひ相識れる男女に逢ふを樂しまざるはなし、かく朋友相會して社交的快樂を縱にするを得ることこそ當府の特色と稱すべけれ、なべて華盛頓には華麗なる建物の見本として見るべきは一ダス程にて、其の餘は建築多く粗惡なり、華盛頓には家庭道德なきにあらねど、最も充溢したるは社交的快樂なり華盛頓に欠點なきにあらず、世界何くに

第八節　厄瓜多

厄瓜多は、秘露の北に在り。北は哥倫比亞に界し、東は伯西に隣り、西は太平洋に面す。面積二十四萬八千三百七十方哩。人口百二十萬零四千二百あり。エクアードルとは、赤道國の義なり。此の國、北緯一度三十八分より起りて、南緯六度二十六分に至り、赤道直下に位するを以て此の名あるなり。

首府をキトーといふ。人口凡そ五萬。キトーとは、雲の上の都の義なり。海面より一千丈の高さに在るを以て此の名あるなり。

第九節　哥倫比亞

哥倫比亞合衆國は、もと新グレナダと稱へたる國なり。南亞米利加の北端に在りて、東西に大西洋と大平洋とを有し、且つ巴拿馬の地峽を東西に貫きて鐵道を敷き、而して大西洋の船舶と、大平洋の船舶との連絡を通ずるを以て、東西通商の要路に當り、殊に繁華の地たり。面積五十萬零四千七百七十三方哩、人口三百八十七萬八千六百あり。

首府をボゴタといふ。人口凡そ十萬。

輸出品の重もなるものは、珈琲、煙草、金銀、白金、幾那、獸皮等なり。

第十節　委内瑞拉

委内瑞拉は、哥倫比亞の東に在り。北は大西洋に面し、東は貴亞拿に隣り、南は伯西に接す。面積五十九万四千三百七十四方哩。人口二百三十三万三千三百五十あり。

首府をカラカスといふ。人口七万零五百零九。

輸出品の重もなるものは、珈琲、椰子、獸皮、綿、砂糖、煙草、藍、染料、木材、銅等なり。道路險惡なるに依り、駱馬の脊を假りて之を運送す。

第十一節　貴亞拿

貴亞拿は、伯西の北、委内瑞拉の東に在り。東北二方は大西洋に面す。別ちて英領貴亞拿、蘭領貴亞拿、及び佛領貴亞拿の三部と爲す。

英領貴亞拿は、三百哩以上に涉れる沿海の地にして、面積七万六千方哩、人口二十八万四千八百八十七。その三分の一は、印度の移住

往きてか欠點の存せざるあらん、華盛頓は多年いろ〳〵に非難せられ、府中は罪惡もて、其官衙は人民の膏血を絞る人々なり、華盛頓は尤も米國風なり、此には一の實業あらず、中には當府はゞ金錢を得るに熱中する處あらずなゞ評するもわれゞ、この熱中は當府の眞生活とは全く別物なり、試に倶樂部或は家宅に就いて窺はゝ其の市場營利の巷と全く面目を異にするを見るべし、華盛頓には其の人口及び位置に相應なる商業も取引もあらず街道には貨車稀に河岸には倉庫少し其のさま恰も颶風の中心の靜穩なるか如し、近ごろ氣力計畫に富める人漸く華盛頓に入り込みて多少舊觀を改めたれゞ、街道に商業なく社交に商業的會話なきは依然として舊の如し。

余は未だ華盛頓がいかなれば其の歸依者に愛せらるゝかを說明せずと思ふ、余は華盛頓が米國の他の都會の紛擾喧雜を避くべき仙鄉なるとを考へて、人々の歸依者に同情を表するを願ふ、且つ華盛頓の愛すべき確實の理由は別に存せり、五六月の候に至れば、鳥は歸りて林に歌ひ、新婦は盛裝して、さも樂しげに、また無邪氣に、大道通衢或は公共の建物に徘徊す、街道の左右にはモチ、楓、檜、リンデン等の雜樹列植せられたること〻て翠葉參差として滿らんと欲す、各公園には草地及び花木あり、國會議事堂、スミソニヤン館及び國民博物館の附近は森林鬱茂たり、ジョージ、タウンの上部に大河通じ、其の懸崖には樹木交加し、水上には端艇上下す、さてまた華盛頓の正月には コマ鳥歸り歌ひ、公園の雜樹も古屋の南面の壁に纏ひたる蔓も競うて花を着く此時に於ける靜穩、安愚、奔忙の皆無、場處の休息等は人をして怡然として顏を解かしむ、やがて社交の實務始まれば、貴婦人達は其の務を全うせんがため徒步或民たり。首府をジョージタウンといふ。人口四万七千あり。本國と貿易盛んなり。

蘭領貴亞拿は、面積四万六千零七十二方哩、人口凡そ五萬七千。首府をパラマリボといふ。

佛領貴亞拿は、面積四萬六千八百八十方哩、人口二萬五千七百九十六。罪人の謫處に充つ。首府をカイエンといふ。

凡て貴亞拿は、地味膏腴にして、紫檀、黑檀類に富み、砂糖、珈琲、米、綿の產彙多し。住民は黑人その大半を占む。

第十二節　南亞米利加の島嶼

南亞米利加の島嶼は、テラデルフユエゴ。ステーツン嶋。及びフヲークランド諸嶋なり。テラデルフユエゴは、亞然丁同盟國の東南海嶋は、その東に位し、フヲークランド諸嶋は、またその東北に位す。此の諸島は英國に屬し、牧畜盛なり。

第七章　大洋洲

第一節　總論

大洋洲とは、太平洋中に散布する大小數千の島嶼をいふ。諸島の土人概ね馬來種に屬す。中には、地を耕し、製造術に長じ、聰慧、溫厚頗る文明に進みたるものなきにあらざれゞも、多くは裸體文身、報復の念深く、漁獵と海賊と戰鬪とを事とし、甚しきは、人の肉を喫ふものあり。

諸島を大別して、馬來西亞、濠斯土剌西亞、及び玻利尼西亞の三部と爲す。全洲の面積四百七十三万零一千七百八十二方哩、人口四千五百三十一万六千五百三十あり。

（馬來西亞とは、馬來人種の住する地の義にして、濠斯土剌西亞とは、亞細亞の南方に在る地の義なり。又玻利尼西亞は、ポラス〔數多〕、及びヂソス〔島〕なる兩希臘語の轉訛にして、多島の義なり。）

第二節　馬來西亞

馬來西亞とは、亞細亞と濠斯土剌利亞との間に散在する無數の島嶼の謂ひにして、一に之を東印度諸島と名く。地學家往々之を亞細亞の部分に加ふるものあり。島嶼の重もなるを淳尼、蘇門答臘、爪哇、セレベス、及びフヰリツピン諸島等と爲す。面積合計七十七萬二百七十五方哩、人口凡そ三千五百十六萬七千。

は馬車にて大道に顯れ、人をして目迎へて之を送らしむ。

華盛頓の皮相を見たるもの、或は新聞紙によりて其の生活を窺ひたるものなどは當府の眞正唯一の取り處は社交的運動に在りとせり、即ち當府の精神は其の茶話、應接、盛餐、舞踏等に在て存すと思へり、されどこれ必ずしも然らず、華盛頓にても慈善主義其他止びなき家庭的義務の爲の外は決して茶會又は饗宴に出席せぬもの少さに、是等の人にありても當府の冬住居を尤も價値ある人間生活の大パノラマと思へるにあらずや、毎朝起き出でゝペンシルヴァニヤ、アヴェニューに散歩するを樂とせる紳士もあるにあらずや、凡そ世界にてペンシルヴァニヤ、アヴェニューはどの大通はあらず、試に人道より群集を退散せしめなば毫も街道らしく見ゆる點は無かるべし、兩側の家屋も十五階以上に非ざれば家らしく見えず街道の廣きこと恰も煉瓦を壘みたる平野の如し、されど十五番街より九番街迄は天氣麗なる朝にありては尤も散歩に適せり。

ペンシルヴァニヤ、アヴェニューには各種異色の男女徘徊す、毛布に身を櫚ひたる印度人あれば、また社交的快樂をば社交的義務と心得て奔走に忙しく、流行の先驅となる婦人あり、南西の人、中西の人、ニューヨーク選出の代議士など各々異樣の風俗にて來往す、黑人も數多入り込み、市場には老ひたる花賣の女など見らる。

米國中にて最も聰明なる人々は大抵官吏となりて華盛頓に數年を費さぬは無かるべく、さなくも見物に來らぬは無かるべし、政治の中心たる當府には自然才能ある人、さては天才ある人多く集ひ合へり、理化學者あり、陸海軍人あり、判檢事辯護士あり、固より政治家のみの淵叢にはあらず、されど尤も有力なるは政治家にして、其の商賣の問題は尤も深く男女の心に行き渡れり、政治家の役德ともいふ獨立の旗を翻へし、北米合衆國、島人を援けて、暗に我が日本國が朝鮮の獨立を保護して、清國と干戈を接ゆるに擬せり。其の義俠や、實に感するに餘りあり。豈圖らんや曩さに羊たりしもの、今は却て狼たらんとは。小人虎變すとは、夫れ之をいふか。何ぞ白晳人種の信義に乏しきや。予は、島人の爲めに采薇の歌を賦せざるを得ざるなり。

第三節　壕斯土剌西亞

壕斯土剌西亞とは、馬來西亞の東南に羅列する群島の總稱なり。之を別ちて、壕斯土剌利亞(即ち壕洲)。バプア(即ち新ギニー)。ニウ、ジーランド。クスマニア等と爲す。面積三百三十八萬七千三百七十一方哩、人口三百五十三萬九千七百六十八。

壕斯土剌利亞(即ち壕洲)は、馬來西亞の東南に位す。面積二百九十四萬四千六百二十八方哩。世界第一の大島にして、歐羅巴と殆んど其の大さを均しふす。西壕斯土剌利亞、南壕斯土剌利亞、クヰンスランド、新南威爾斯及びヴヰクトリアの諸州に別つ。皆英國の屬地

全地概ね赤道直下に位するを以て、氣候は炎熱蒸すが如し。然れども海上、又は山間の涼風、時に人をして爽快を覺えしむることなきにあらず。

人民は、多く漁獵に從事し、海賊を業とするものも少なからず。西洋人の說に據れば、かゝる人々の常として、平素は稍々懶惰なれども、一旦思ひ立つことあれば、突然出でゝ道路を横行し、意に任かせて、人を殺傷するといふ。但し是れは、其の最も未開なる部分に就て言ふものにして、悉く然るにはあらず。

淳尼、及び蘇門答臘は、馬來西亞中の最も大なる島にして、爪哇、及びセレベス之に次ぐ。皆和蘭に屬し、和蘭領東印度の名あり。首府バテーヴヰアは、爪哇に在り。太守此の地に住して、貿易の中心たり。蘇門答臘人は、象を獵るものあり。象亦全力を盡して防禦し、又その子を奪はれざらんことを勉む。淳尼の一部なるサラワックは英國に屬す。

フヰリッピン諸島は、馬來西尼の最北に位し、煙草、麻苧を產するを以て名あり。颶風頻もすれば家を覆へし、人畜を害し、甚だ恐るべし。諸島の最も大なるを呂宋といふ。支那海を隔てゝ我が臺灣と相對す。從來西班牙の屬地なりしが、島人漸くその苛政に倦みて、

べきは大問題をば聰明なる婦人に說き聞かすの快樂なり、是等の婦人は熱心に政府の難問題を知らんとせるが如きも、實は之に鞅掌せる人の一身上幷に政治上の增過に注意を置くなり、されば氣の利きたる政治家にありては、食時茶後に於て政治界より一轉して詩歌界に身を入るを得べし、現在及び將來の大統領は常に食卓茶卓の談柄となり、ホワイト、ハウスの夜會には、玄關廊下なぞにて、黑き上衣着たる政治家の其の野心を親友に語るあり、隨つて何氣なく其の秘密を漏らしなぞす、また其の情人より政治上の機密を聞き知れるを何氣なく、したり顏に語る婦人あれば、顏に笑を作りて心の動悸を忍びつゝ謹聽する男子もあり、かくて一大政客が自己の居室以外にては決して語るべくもあらざる計畫は、端なく其の妻君の口より其の親友に漏れ、それより更に件の政客とは仇敵の間柄なる政客に漏るゝこともあり。

たり。

史傳に據るに、西暦一千五百三年（我が文龜三年癸亥佛國の航海家ヅ、ゴメヴ非ル(De Gomeville)なる者始て此の地を發見したりと云ふ。爾來英人、蘭人等交々各地を探檢したるの末、蘭人之を領して、新和蘭の名を與ふ。然れとも地味爲腴ならざるを以て、捨てゝ顧みざりき。既にして英國の有に歸し、罪囚流竄の場處に充てしが、其の後凡そ五十年を經て、倒羊の場所と爲り、又其の後、今を距る五十年前、金山の發見ありてより、歐洲各國の人、此の地に移住するもの多く、忽ち繁華の地と爲れり。其の金を產するの量は、北米のカリフヲーニアを除くの外、世界及ぶものなし。

都會の最も大なるをメルボルンといふ。ヴヰクトリアの首府にして、貿易の中心なり。人口四十九萬一千三百七十八。大學校あり。博物館あり、造幣局あり、書籍館あり、司天臺あり、病院あり、公園あり。南半球市都の第二に位す。（伯四のリオ、ジャネイロ府第一なり）

シドニーは、新南威爾斯の首府にして、人口四十二萬三千六百。其の大さメルボルンに次ぐ。港の美麗なるを以て名あり。

クヰンスランドの首府をブリスベーンといひ、南壕斯土剌利亞の首府をアデレードといひ、西壕斯土剌利亞の首府をパースといふ。

華盛頓には舊世界に見るべからざる新鮮の流入あり、所謂新鮮の流入とは何ぞや、新顏の斷えず入り込み、新しき見解を有し新しき樸拙を具する心の斷えず來りて感化を受けんとするとなり、田舍士女の當府に來るや速に周圍の感化を受けて其の長所をも缺點をも併せ學ぶにいたる、かく新人民の流入は華盛頓の特色いふべし、されば四年間當府に在らざりし人再び來る時は內閣員、上院議員、衆議院議員、外交官等に新顏多きに驚くべし、華盛頓の新人民とは當府の定型に鑄成せられし新人民の謂にあらず、華盛頓には別に定型あるなし、華盛頓は各種の型の入り込む處にして、いはゞ人間の萬花鏡といふべし。

ナイヤガラの大瀑布

紐育よりシカゴ府に赴かんとする者は誰も皆其有名なるナイヤガラの大瀑布を見ざる者はあらざるならん。汽車先づ紐育

重もなる輸出品は、金塊、及び羊毛なり。樹木には、護謨樹、アカシヤの如き常磐木多く、皆喬木にして休ふべからず。珍禽奇獸には、袋鼠、鴨嘴、黑鶴、白鷺、アブデリックス等あり。袋鼠は、腹に袋ありて、兒を入れ、長き後肢の助を假りて、一丈五六尺の處を跳ぶ。英人、又又は土人等之を獵りて、肉は食用に供し、皮は製して、手套又は靴と爲す。鴨嘴は、其の嘴鴨に似て、體は獺に類し、アブデリックスは、羽毛ありて翼なし。

* * * * * * *

パプアは、一に新ギニーと名く。面積凡そ二十三萬四千七百六十八方哩。大洋洲の中、壕洲及び萍尼に次で、最も大なる島なり。西暦十六世紀の頃、蘭人始めて其の西部を領し、東部は、久しく獨立の部落たりしが、十六年前、（西暦一八八四年（我が明治十七年甲申）英獨の二國之を分領して、和蘭と鼎立の勢を爲す。住民は面色黑くして、馬來人種の蒼色なるに似ず。性質も亦亞非利加人の如し。

* * * * * * *

ニウ、ジーランドは、北島、中島、及びスチュアート島の三島より成る、新南威爾士の東凡そ一千二百哩の處に在り。面積十萬四千三十二方哩。英國の屬地なり。金、太材、羊毛、麻を產す。人

の市街を離て、ヨンカース驛を過ぎ盡せば是よりレールは絶えず風景絶佳なるハドソン河の左岸を縫ひて、山送り水迎へ、樹林動き家屋走り、山角水灣長汀曲浦の狀宛然一幅の畫圖のごとく。途中スケチクター驛に下車、市中を見物し直に出發車走ること數時間アルバニーの驛に至りて、今まで沿ひて來りたるハドソンの大河に別れ、更に西南の大回轉を爲しロチスター驛に至りて、始めて美しきヲタリヲ湖の大觀に接す。有名なるバフアローの市はこゝを距ること遠からず。その距離纔かに一指顧の間にあり。エリー湖の水溢れてナイヤガラの河頭に落つる處は即ち同市のある處にして、人口二十五萬を有し、山光水色絶えず岸頭の高厦を掠め、その形勝の地たるは恰も支那の洞庭湖に髣髴たりといふ、急行列車ならざる限りは、滊車は常にこゝに四時間停車するの規定なれば、旅客は少時こゝに滊車を下りて、靜かにナイヤガラの大瀑を觀るをよしとす。停車場と瀑側の一公園との間には、絶えず往復する馬車あれば旅客は更に些の不便を感ずる事はあらぬなるべし。且園には敞軒の旅亭ありて常に旅客宿泊の便に供せり。かくて園を過ぎて、將に河畔に出でんとして、轟然たる絶大の響高く天地に振ふを聞く。これ則ちナイヤガラの大瀑布なり。

ナイヤガラの大瀑は世界第一の大湖シユーペリオル、ミチガン、ヒウロン、エリーの四湖の水、集り注いでヲンクリー湖に入らんとするに當りて、平地上の一斷層を下るが爲めに、こゝに一大瀑布を現出する事とて、その勢の猛烈なる、その水量の充分なる、まことに容易に形容すべからざるものあるなり。エリー湖の水のナイヤガラに入らんとするや、先始めに十町許の急阪地にと注ぐなるが、その勾配殆ど五十五尺の上に出でたる事とて、急流激湍その勢まさに白波を揚ぐるばかりなるさへあるに、瀑上數町の處に於

口六十二萬六千六百五十八。土人その大半を占め、歐羅巴人は、僅かに十分の一に過ぎず。土人をオマオーリスといふ。壕斯土剌西亞人中の最も敏捷なるものにして、耕種の法を英人より傳習し、文字を知る者少なからず。殊に節酒を旨とし、酒類を販賣するを以て不法の事と爲す。然れども病の爲めに襲はれて、次第に其人口を減少するの傾向あり。人氣は、漸く溫厚に向ひたれども、猶往々殘忍の行爲なきにあらず。米醫サンガーが吾人に告ぐる所に據るに、氏は曾て一女子の虐待せらるゝを目擊したりしことあり。此の女は、全裸體にて倒まに懸され、靑天白日、公衆の前に於て激しく鞭うたれければ、耻と怒とに堪えずして、その後遂に自殺したりといふ。推して以て其の全斑を窺ふことを得べし。

* * * * * * *

タスマニアは、バッス海峽を隔てゝ、北方、壕洲の南端と相對する一島なり。面積二萬六千二百十五方哩、人口十二萬二千四百七十九。亦英國の屬地なり。西暦一千六百四十二年我か寛永十九年壬午和蘭の航海家タスマン(Tasman)始めて發見したるを以て、タスマニアの名あり。其の後、英國有名の航海家クック(Cook)全島の探檢に從事し、一千八百三年我か享和三年癸亥英人ボーエン中尉(Lieut. Bowen)なるもの、政府の命を受け、數名の兵士を率ゐて、來りて此の地を罪囚配流の場處に充てしが、同五十三年我か嘉永六年癸丑全く之を廢して、通常の殖民地と爲せり。氣候は、溫暖にして、吾人の身體に適し、壕洲第一の衛生地たり。物産は、羊毛を第一とす。その他、石炭、鐵、錫、諸種の礦物、木材等あり。

第四節　波利尼西亞

波利尼西亞は、廣く太平洋中に散在する數千の島嶼なり。その重もなるものをサンドウ井ッチ。社會島。航海家島。フ井ジー等とす。全群島の面積七萬五千六百八十九方哩。人口百二萬一千二百五十九。諸島皆火山島と稱し、火山より成る。就中モーナ、ラオの如きは、爆裂しつゝあらざること稀なり。又珊瑚島とて、珊瑚虫相集りて環狀の島を作るものあり。島內海水ありて、船舶二三の口より出入す。此の類の島は、殊に太平洋、及ひ印度洋に多し。中には、キャロリン諸島の如く、六十有餘の珊瑚島集りて一群を爲すものあり。島上には、椰樹、麵包樹など繁茂せり。

* * * * * * *

サンドウ井ッチ諸嶋は、波利尼西亞諸島中の最も文化に進みたるも

て、河中に大小無數の島嶼の聳立したるが爲め、水は愈これが爲に、激昂し、粉碎し、飛揚し、更に分れてこゝに二大瀑布となる。右なるを亞米利加瀑と爲し、左なるを加奈陀瀑と爲す。加奈陀瀑はその形馬蹄鐵に類するを以て亦一名馬蹄瀑の目あり。亞米利加瀑は幅千六十尺高百六十七尺、小にして突出し、加奈陀瀑は幅三千十尺、高さ百五十八尺、大にして彎曲し、各その異れる趣致を備ふ。

のなり。十五島相集りて、布哇國を成す。布哇は、曩さに王國たり、又共和國に變せしが、今は北米合衆國と合併して、その屬地となれり。面積六千五百八十二方哩、人口八万九千九百九十。首府をホノルルといふ。オーフー島に在り。通商の要地にして、我が國より合衆國へ航行の通路に當る。物産は、砂糖及ひ綿を第一とす。近來我が國より同地に行きて生計を立つる者少なからず。然れども此の國には、癩病流行し、甚だ危險なりといへり。

通俗世界地理　畢

明治三十四年一月七日印刷
明治三十四年一月[illegible]日發行

（通俗世界地理）
定價金三拾錢

著者　澁江保

發行者　東京市日本橋區本町三丁目八番地　大橋新太郎

印刷者　東京市本郷區丸山福山町廿六番地　水谷景長

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　合資會社　博進社工場

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

不許複製

通俗百科全書

毎月一回發行
全部二十四冊

日新百般の學術を講明し、社會智識の開拓を計る者、是れ我が通俗百科全書の任ずる所にして、即ち最も實有用益なる通信講義錄たり、最も懇到なる教師、最も親篤なる朋友たり、而して本書は著者各々得意の科目を撰びて、編述に從事せる者、資料既に精醇にして有用の種目悉く備はる、されば文明日新の智識を得んと欲するの士は、必ず一部を座右に備へざる可からず。

正價 一冊金廿五錢郵税一冊八錢 十六編以下正價一冊金參拾錢

既刊目次

- 第一編 通俗日本歴史……足立栗園君編
- 第二編 通俗世界歴史……長谷川誠也君編
- 第三編 通俗明治歴史……坪谷善四郎君編
- 第四編 通俗德川十五代史……岸上操君編
- 第五編 通俗文學汎論……奥村信太郎君編
- 第六編 通俗倫理學……足立栗園君編
- 第七編 通俗法學汎論 法學士桐生政治君著
- 第八編 通俗商業簿記……高橋邦次郎君著
- 第九編 通俗政治汎論……鳥谷部銑太郎君編
- 十 通俗英語案内……石川辰之助君著
- 第十一編 通俗言語學……宮田修君著
- 第十二編 通俗銀行簿記……鎌川眞澄君著
- 第十三編 通俗會社簿記……高橋邦次郎君著
- 第十四編 通俗經濟汎論……春山育次郎君著
- 第十五編 通俗工業簿記……高橋邦次郎君著
- 第十六編 通俗理化一斑……藤野修吉君著
- 第十七編 通俗日本地理……大和田建樹君著
- 第十八編 通俗文章學……宮川鐵次郎君著
- 通俗世界地理……淺江保君著
- 通俗動物學……川村泰二郎君著
- 通俗教育學……永持德一君著
- 通俗學校管理法……安田稔君著
- 通俗佛語案内……森田寛三君著
- 通俗昆蟲學……志岐守二君著

續刊

帝國百科全書

既刊目次

（正價上製五拾錢郵税拾錢 全一冊並製參拾五錢郵税八錢）

- 第壹編 世界文明史 全壹冊 文學士 高山林次郎君著
- 第貳編 日本新地理 全壹冊 理學士 佐藤傳藏君著
- 第參編 東洋西洋倫理學史 全壹冊 文學博士 井上哲次郎君 校閲 木村鷹太郎君著
- 第四編 肥料學 全壹冊 農學士 木下義道君著
- 第五編 宗教哲學 全壹冊 文學士 姉崎正治君譯
- 第六編 新撰算術 全壹冊 理學士 高木貞治君著
- 第七編 農産製造學 全壹冊 農學士 楠巖君著
- 第八編 萬國新地理 全壹冊 理學士 佐藤傳藏君著
- 第九編 支那文學史 全壹冊 文學士 笹川種郎君著
- 第拾編 農學汎論 全壹冊 農學士 恩田鐵彌君著
- 第拾壹編 修辭學 全壹冊 文學士 武島又次郎君著
- 第拾貳編 論理學 全壹冊 文學士 高山林次郎君著

第拾參編 ●栽培汎論 全壹冊 農學博士横井時敬君著

第拾四編 ●植物營養論 全壹冊 農學博士稻垣乙丙君著

第拾五編 ●邦語英文典 全壹冊 文學士 畔柳都太郎君著

第拾六編 ●法律汎論 全壹冊 法學士 熊谷直太君著

第拾七編 ●新撰代數學 全壹冊 理學士 高木貞治君著

第拾八編 ●地質學 全壹冊 理學士 佐藤傳藏君著

第拾九編 ●新撰幾何學 全壹冊 理學士 林鶴一君著

第二拾編 ●森林學 全壹冊 林學士 奥田貞衛君著

第廿壹編 ●民法釋義（親族編 相續編） 全壹冊 法學士 上田豐君著

第廿貳編 ●國際私法 全壹冊 法學士 中村太郎君著

第廿參編 ●國際公法 全壹冊 法學士 熊谷直太君 法學士 北條元篤君著

第廿四編 ●倫理學 全壹冊 文學士 蟹江義丸君譯

第廿五編 ●日本歷史 全壹冊 文學士 木寺柳次郎君著

第廿六編 ●民事訟訴法釋義 全壹冊 法學士 梶原仲治君著

第廿七編 ●法理學 全壹冊 法學士 丸山長渡君著

第廿八編 ●日用化學 全壹冊 農學士 井上正賀君著

第廿九編 ●商法汎論 全壹冊 法學士 添田敬一郎君著

第三拾編 ●民法釋義（物權編 總則編） 全壹冊 法學士 丸尾昌雄君著

第廿壹編 ●財政學 全壹冊 法學士 笹川潔君著

第廿貳編 ●西洋哲學史 全壹冊 文學士 蟹江義丸君著

第廿參編 ●日本帝國憲法論 全壹冊 法學士 田中次郎君著

第廿四編 ●近世美學 全壹冊 文學士 高山林次郎君著

第廿五編 ●哲學汎論 全壹冊 文學士 藤井建次郎君譯

第廿六編 ●商工地理學 全壹冊 法學士 永井惟直君著

第廿七編 ●提要造林學 全壹冊 林學博士本多靜六君著

第廿八編 ●商業經濟學 全壹冊 法學士 清水泰吉君著

第廿九編 ●氣候及土壤論 全壹冊 農學士佐々木祐太郎君著

第四拾編 ●最新統計學 全壹冊 法學士 夏秋龜一君著

第四拾壹編 西洋歷史 全壹冊 文學士 吉國藤吉君著
第四拾貳編 分析化學 全壹冊 工學士 內藤游君 工學士 藤井光藏君 著
第四拾參編 民法債權編釋義 全壹冊 法學士 丸尾昌雄君著
第四拾四編 稅關及倉庫論 全壹冊 法學士 岸崎昌君著
第四拾五編 東西洋教育史 全壹冊 文學士 中野禮四郎君著
第四拾六編 政治史 全壹冊 法學士 森山守次君著
第四拾七編 政治汎論 全壹冊 法學士 永井惟直君著
第四拾八編 日本風俗史 全壹冊 文學士 阪本健一君著
第四拾九編 運送法 全壹冊 法學士 菅原大太郎君著
第五拾編 社會學 全壹冊 文學士 十時彌君著
第五拾壹編 日本法制史 全壹冊 文學士 三浦菊太郎君著
第五拾貳編 支那文明史 全壹冊 文學士 白河次郎君 國府種德君 著
第五拾參編 畜產汎論 全壹冊 農學士 高見長恒君著
第五拾四編 畜產各論 全壹冊 農學士 田口晉吉君著

第五拾五編 森林保護學 全壹冊 農學士 新島善直君著
第五拾六編 國法學 全壹冊 法學士 岸崎昌君 中村孝君 著
第五拾七編 黴菌學 全壹冊 農學士 井上正賀君著
第五拾八編 船舶論 全壹冊 法學士 赤松梅吉君著
第五拾九編 應用化學 全壹冊 工學士 蜂屋貞興君著
第六拾編 星學 全壹冊 理學士 須藤傳次郎君著
第六拾壹編 農用器具學 全壹冊 農學士 西村榮十郎君著
第六拾貳編 新撰三角法 全壹冊 理學士 松村定次郎君著
第六拾參編 有機化學 全壹冊 理學士 龜高德平君著
第六拾四編 邦語獨逸文典 全壹冊 文學士 青木昌吉君著

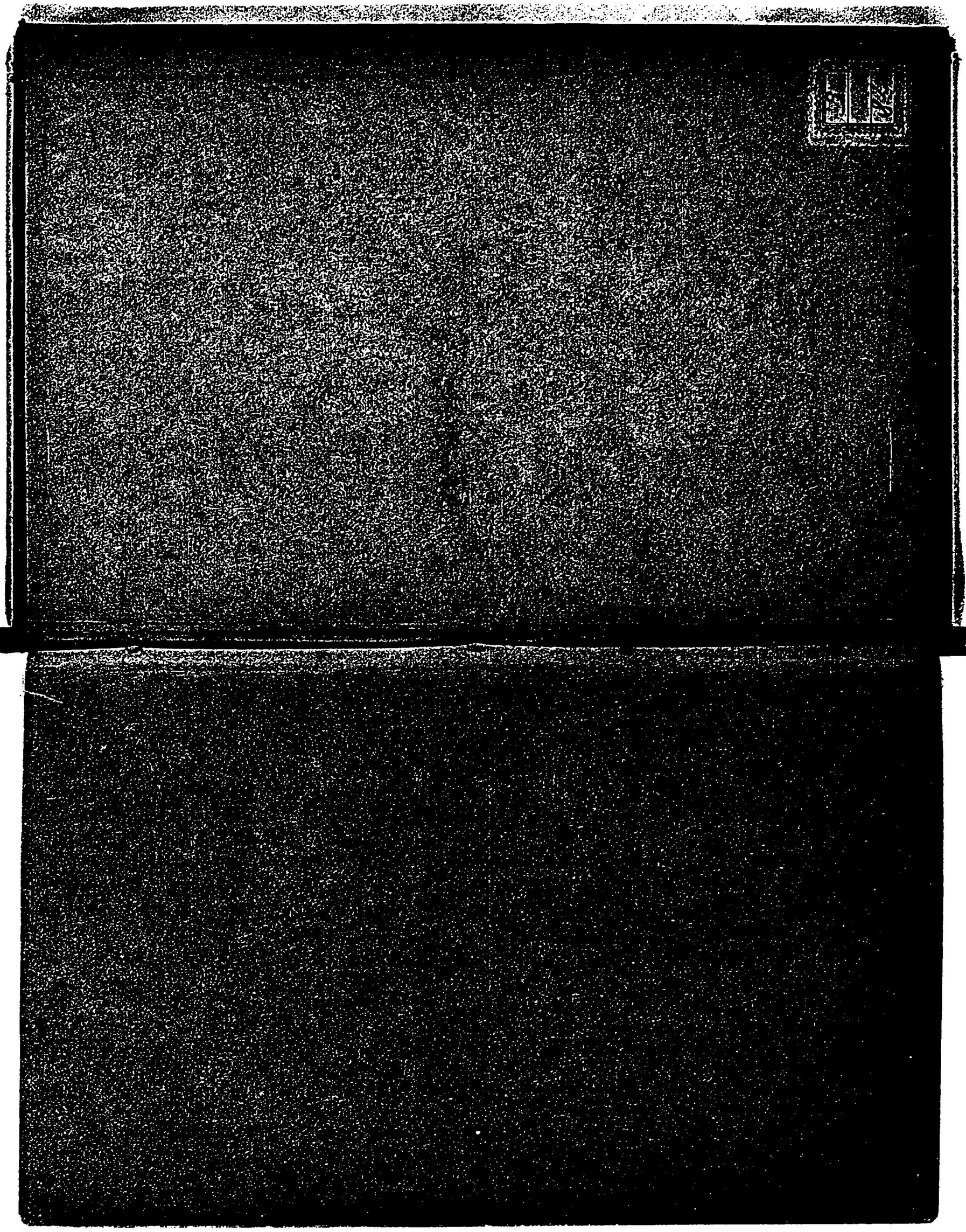
續刊書目

無機化學 全壹冊 理學士 眞島利行君著
東洋歷史 全壹冊 文學士 幸田成友君著

帝國百科全書

目の順次は著者の都合にて前後を變更するものとしべる

- 日本文明史　全壹冊　文學士　大町芳衛君著
- 日本文典學　全壹冊　文學士　岡田正美君著
- 家事經濟學　全壹冊　法學士　河津暹君著
- 世界文學史　全壹冊　文學士　上田敏君著
- 近世氣象學　全壹冊　理學士　岡田武松君著
- 商業經濟政策論　全壹冊　法學士　清水泰吉君著
- 經濟汎論　全壹冊　法學士　池袋秀太郎君著
- 銀行及外國爲替論　全壹冊　法學士　野口弘毅君著
- 新刑法論　全壹冊　法學士　島田鐵吉君著
- 私犯法學　全壹冊　法學士　丸尾昌雄君著
- 行政法學　全壹冊　法學士　添田敬一郎君著
- 實用物理學　全壹冊　理學士　奥村英夫君著
- 動算術學　全壹冊　理學士　會田飛雄君著
- 地理學　全壹冊　理學士　佐藤傳藏君著
- 鐵道經濟論　全壹冊　法學士　名尾良辰君著



Ⓜ

022189-000-7

78-5

通俗世界地理

渋江　保／著

M34

ADA-0617